

Our Music

わたくしたちの音楽

238

2003 Summer

社団法人
全日本ピアノ指導者協会

PTNA

The Piano Teachers' National Association of Japan,
Incorporated by the Japanese Government



Miguel Proença

特集1

モチベーションを維持・向上させる コンペの受け方

巻頭インタビュー：クラウディオ・ソアレス先生

ケース・スタディ：スラス思考の解釈を/結果より過程を見直す/

着実さがもたらす成果/コミュニケーションが鍵/秋以降はこんな計画を！ 他

特集2

ピティナ・ピアノ指導セミナー Vol.20

中級指導のノウハウ

第1講座「ショパンの魂 マスルカ」下田幸二先生/第2講座「ピアノのレッスンに役立つソルフェージュ」中田元子先生/
第3講座「楽しく弾けるスーランク」岡本愛子先生



10代の演奏家シリーズ vol.14
田村響ピアノリサイタルにて
(6月23日/王子ホール)



開場直後、列をなす来場者



昨年の10代の演奏家シリーズ vol.13の出演者、
関本昌平さん(左)と。



O u r M u s i c S u m m e r

5月~7月

- 10代の演奏家シリーズ vol.14
- ピティナ・ピアノ指導セミナー vol.20
- 第37回通常総会
- 第27回コンペティション開幕ほか

Our Music 3



▲応援に駆けつけたピティナっ子たちと。



▲演奏の合間には、恒例のミニインタビュータイムも。今回のインタビュアーは演奏研究委員の湯削田優子先生(右)。

新曲に挑み、ますます勢いづく昨年度グランプリ

6月23日(月)

10代の演奏家シリーズ Vol.14 田村響ピアノリサイタル

6月23日(月)、東京都内王子ホールにて「10代の演奏家シリーズ Vol.14 ～田村響ピアノリサイタル」が開催された。田村響さん(16)は2002年度ピティナ・ピアノコンペティションのグランプリ受賞者。昨年より全国各地の演奏会が目白押しで、今回もこのリサイタル前に3回のコンサートを行っており、これがいわば6月のツアー最終日となった。

古典派のハイドンからロマン派まで幅広いプログラムの中には、超絶技巧を要するJ. シュトラウス／ゴドウスキー等も盛り込み、新しい境地を開きつつある田村さん。聴衆より大きな拍手が贈られた。

今年、田村さんは国内外での演奏会、海外のフェスティバル出演等を控えており、さらなる成長が期待される。



～当日アンケートより～

- プログラムがとても面白かったです。個人的にはメンデルスゾーンファンタジーが好きですが、ヤナーチェクやリストも素晴らしかったです。(学生・埼玉県)
- 16歳でこれだけの技術をお持ちで、大変素晴らしいと思いました。これからとても楽しみです。(匿名)
- とても満足しました。各曲の弾きわけが出来ていて、弾き方や音楽も自然で、また16歳の若さが良い方に出ていました。(ピアノ教師・神奈川県)
- 小さい頃から何回か聴かせて頂いていたので、その

成長を感動する思いで聴かせて頂きました。素晴らしい可能性を感じさせる演奏でした。(ピアノ教師・神奈川県)

- 最後のフランクの曲が好きです!(学生・神奈川県)
- 10代のストレートな表現なのでしょう。力いっぱい弾いたという趣があります。もう少しマイルドでもいいかなと思いましたが、パワーがありますね。後半のヤナーチェクやフランクに聴き入ってました。(匿名)
- 徐々に質の高いリサイタルを堪能することができました。(学生・埼玉県)

音源・実演・体験談を織り交ぜた、 中級指導セミナー行われる

4月27日(日)

ピティナ・ピアノ指導セミナー vol.20



4月27日(日)東邦音楽大学内教室において、ピティナ・ピアノ指導セミナー vol.20 中級編が開催された。下田幸二先生による「ショパンの魂マズルカ」、中田元子先生による「ピアノのレッスンに役立つソルフェージュ」、岡本愛子先生による「楽しく弾けるプーランク」と、それぞれの先生方の個性を生かしたヴァリエティに富んだ内容だった。

第1講座の下田先生は、ショパンのマズルカを判りやすく、ビデオ・音源など駆使して説明し

て頂いた。第2講座では中田先生が豊富な経験談とリズム体操など交えた楽しい語り口で、ピアノ演奏に役立つソルフェージュについて解説された。第3講座では、岡本先生が実演と音源を使って、おしゃれで美しいプーランクの魅力を存分に紹介して頂いた。また年度順の作品紹介で、プーランクの作風の変遷などにも触れられた。

なおこの3講座のダイジェスト版を、本誌25～33ページでご紹介しているので、ご参照頂きたい。

第37回総会開催

6月13日(金)

新役員23名が選出

6月13日(金)東京・巣鴨の当協会本部にて第37回通常総会が行われた。当協会副会長の中山靖子先生が見守る中、互選により金子勝子監事を議長に選出、議事が進められた。本年度は役員改選の年にあたり、23名の新役員を選出、総会にて承認された。新役員ならびに新組織表は、本誌ニュースページにてご紹介している。



▲金子勝子監事の議事進行により、総会が進められた。

▶副会長の中山靖子先生





▲第二次予選で見事な演奏を披露する
大崎結真さん



▲大健闘第5位入賞の松本和将さん。
現在ベルリン留学中。



▲上は優勝のエッカートシュタイン。下は本選進出者一同。

松本和将さん(学生会員)が第5位入賞

5月8日(木)～6月7日(土)

エリーザベト王妃国際コンクール ピアノ部門

2003 エリーザベト王妃国際コンクール ピアノ部門を聴いて

諫山 隆美

去る5月8日から6月7日にわたり、ブリュッセルでエリーザベト王妃国際コンクールのピアノ部門が開催された。ワルシャワのショパンコンクール、モスクワのチャイコフスキーコンクールと並んで世界3大コンクールにも数えられるこのコンクールは、第1次、2次、本選の3段階で腕を競われる。

特にこのコンクールの大きな特徴は、とても過酷な方法を採用していること。109名の参加者は1次通過時で一気に24名に絞り込み、1次ではエチュードを5曲も提出させ、それをわずか30分前に、2次では24時間前に指定されて演奏する。本選ではソロ、新曲、協奏曲と網羅し、その新曲は1週間もの間隔離されて勉強させられ、手助けのない仕上げの能力がじっくりとチェックされるという訳である。

一方、こうした過酷な課題曲による演奏は、なるべくじっくり聴けるよう、たっぷりとしたスケジュールが組まれている。とりわけ12名が演奏する本選は6日間もかけて、ひとりひとりの能力を漏れなくチェックしようとする。演奏を詰め込んで印象とか雰囲気だけに左右されず、演奏の極めて細かい点まで綿密に聴いて判断しようとするそのスケジュールは、延べ1ヶ月以上にわたる異常なものであったが、しかし音楽を聴き取ることを最優先した、数少ない理想的なコンクールと言えるだろう。

そうしたこのコンクールに対する信頼は、多くの優

れた参加者を集めることとなった。1次では苦勞する奏者が多かったものの、2次に進出できた24名はいずれもコンサートピアニストとしての資質に恵まれ、かつこれら大量の課題を準備すべく適切な指導に恵まれ、大変な白熱した演奏が繰り広げられた。ここに進出できた日本人はわずか4名、しかし97年特級銅賞の大崎結真、91年D級決勝進出の松本和将の2名のピティナっこが含まれているのはうれしいニュースであった。

本選進出は12名。通常ならば進出発表から1日おいてすぐに本選だが、7日間の隔離があつてようやく本選に突入。最終日の演奏者は10日以上の間隔がある。その間彼らは何も邪魔されない最後の仕上げが与えられ、12人のベストの演奏が6日間続いた。そのレベルの高さは驚くべきもので、全く1位を確信してしまう名演が少なくとも5人は飛び出てきた格好。結果、ドイツのセヴェリン・フォン・エッカートシュタインが第1位に入賞、ピティナからの「マダム・フクダ賞」も受賞、松本和将は第5位に入賞する快挙を遂げた。

ピアノを弾くということ、指導すること、審査をすることなど様々な困難を見せつけられたが、一方でおしまいとささやかれる「コンクール」というものが与えてくれる意義、効果、機能というものが予想以上に大きいものであることを実感させられた。(詳細は当協会ホームページ上で、筆者による全演奏の評論他の情報が公開されています。<http://www.piano.or.jp/special/2003/elisabeth/index.html>)

27 回目の暑い夏が始まる

第 27 回ピティナ・ピアノコンペティション



▲葛飾地区予選にて、発表の瞬間!

第 27 回ピティナ・ピアノコンペティションが、5 月中旬より開始、7 月下旬現在は全国で予選がほぼ終了、これから 8 月にかけて本選が開催される。当協会ホームページでは、各地の予選結果や通過最低ラインを公表しているので、ご参照頂きたい。

一方愛好者の為のアミューズ部門は、過去最高となる延べ 583 名が参加、前年度と比べ 1.61 倍増となったことが分かった。7 月 20 日には最大の予選会場である東京地区にて、10 時間にわたる演奏と審査が行われた。

なお、アミューズ予選・本選会及びステップ会場にて、季刊誌「アミューズ」が無料配布されるので、是非ご覧頂きたい。

新ステーション が続々誕生

ピティナ・ピアノステップ

今年度、文部科学省後援となったピティナ・ピアノステップ。新ステーションも続々誕生し、参加者数も順調に伸びている。2003 年度前四半期（4 月～6 月）は前年度比 1.43 倍、延べ 4143 名が参加した。ますます皆様に身近なステップを目指したい。



▲横浜のイギリス館にて行われたアミューズ対象のステップ。サロンコンサート形式で、会場は和気藹々とした雰囲気包まれた。



▲マダム・フクダ賞を同時受賞した 3 名。ピアノ部門優勝の菊池洋子さんは元ピティナっ子。

昨年度国際モーツァルトコンクールピアノ・声楽・ヴァイオリン各部門の優勝者が来日、東京を含む 4 都市で熱演した。

モーツァルトの 覇者 3 名来日



初級から中級へ スムーズにつなげる ために

熊谷 洋先生

当協会本部職務評議員・運営委員・財務委員・組織委員長・
コンクール事業担当者連絡会委員・ステップ実行委員

今年のコンペティションも、昨年を上回る多くの方が参加して下さっています。少子化という時代にも関わらず、年ごとに参加者が増えつづけるピティナ・ピアノコンペティションは、想像を超える驚きと嬉しさを与えてくれます。

ただ、その中で考えていかなければならない問題もあるように思えます。全体数の増加は大変喜ばしい事ですが、A2 級から F 級までの参加者数増減の比率は、A2 級から B 級に向かって増加し、B 級を頂点に C 級以降やや減少、特に D、E 級の減退数は大きくなっています。かつては音楽高校、大学のバブル期ともいえる時代があり、定員数を大きく超える応募者があった時期もありました。その時代に戻すことは、先に述べた少子化の問題、進学等、現在の社会情勢を考えると大変難しいことです。

C 級以降の参加を見合わせている子供達の中に、弾く事が難しくなり、参加をやめてしまう生徒が多くいるのも事実です。なぜ弾けなくなるのか、言うまでもなく基礎練習の怠りが原因であると言えるでしょう。初めてレッスンする C 級、D 級の生徒の中には、感性は良いものを感じるが、テクニックが伴っていない場合が度々見受けられます。聞いてみると A 2 級から B 級くらいまでは、本選でよい成績をとっていたり全国大会進出の実

績を持つ生徒もいました。

何年か前の新聞に、来日した外国の某演奏家が、日本の子供達のピアノ演奏を聴き、その指導について「日本は小学生までは大変素晴らしいと思う、しかし中学生以降については少し問題があるのでは…」と書かれていたことがあります。「少し問題が…」の内容については触れていませんでしたが、基礎的な事はもちろんですが、楽譜を読み取る力、発想力の育つ導き方を指摘されたのではないかと思います。

B 級あたりまでの曲は、それ程の基礎力を持たなくても、先生の教えにより良い評価を得ることが出来ますが、器用な子供は別として、大半の子供は指の基礎練習、奏法を学んでいない限り、C 級あたりの曲から難しさを感じるようです。

基礎は本人にやる気があれば、中学、高校からでもできますが、早いに越したことはありません。C 級以降につなげるには、遅くとも小学 3 年生頃から始めることが望ましいでしょう。誰でも自分の出来ること、自信の持てるものには、継続する意志を持てるはずです。またこの時期にしっかり基礎固めをした子は、たとえ途中で中断しても、またピアノを再開する率が高いようです。

C 級以降へ継続する生徒が少しでも多くなる指導を、心がけていきたいと思います。



Our Music

特集 1

モチベーションを維持・向上させる コンペの受け方

- 10 巻頭インタビュー：クラウドディオ・ソアレス先生
- 12 ケース・スタディ 1「プラス思考の解釈を」
- 14 ケース・スタディ 2「結果より過程を見直す」
- 16 ケース・スタディ 3「着実さがもたらす成果」
- 18 ケース・スタディ 4「コミュニケーションが鍵」
- 20 ケース・スタディ 5「秋以降はこんな計画を！」

特集 2

ピティナ・ピアノ指導セミナー Vol.20 中級指導のノウハウ

- 25 第1講座「ショパンの魂 マズルカ」下田幸二先生
- 28 第2講座「ピアノのレッスンに役立つソルフェージュ」 中田元子先生
- 32 第3講座「楽しく弾けるブーランク」岡本愛子先生

連載

- 9 巻頭随筆 / 熊谷洋先生
- 34 国際舞台で活躍する指導者たち (14) / 平間百合子先生
- 36 ピティナつりレポート (26) / 大塚純子さん・大塚京子先生
- 38 支部を訪ねて / 宮崎支部・宮崎北連絡所
- 40 耳を鍛えよう (8) / 真嶋雄大氏
- 42 ピティナ・ピアノホームページ活用講座 (6)
- 44 ポピュラー講座 / 佐土原知子先生
- 48 作曲家研究 (27) / 久元祐子先生
- 77 私の勉強方法 (2) / 佐野幸枝先生
- 93 素感直論 / 福田成康専務理事

トピックス

- 3 Replay
- 52 特別寄稿「カブースチンに会う」／川上昌裕先生
- 74 ピティナ会員演奏会・優待割引情報
- 78 ピティナ News
- 91 北から南から

お知らせ

- 2 第27回ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会
- 61 第1回福田靖子賞選考会
- 62 第27回ピティナ・ピアノコンペティション結果特集号
- 63 第27回ピティナ・ピアノコンペティション・コンチェルト部門
- 64 ピティナ・ピアノステップ課題曲 CD
- 65 ピティナ・ピアノステップよりお知らせ
- 66 ピティナ・ピアノ指導セミナー vol.21
- 67 ピティナ・ピアノ指導者検定
- 68 第15回全国生涯学習フェスティバル「まなびピアノ沖縄 2003」
- 69 ピティナ・インターネット先生紹介
- 70 ピティナ室内楽研修会
- 71 ピティナ秋吉台室内楽研修会
- 72 英国王立音楽検定
- 73 英国王立音楽大学留学生募集

広告

- 54 ヤマハ株式会社
- 55 株式会社河合楽器製作所
- 56 スタインウェイ・ジャパン株式会社
- 56 高橋建設株式会社
- 57 株式会社松尾楽器商会
- 57 株式会社イトーシンミュージック
- 58 洗足学園音楽大学
- 59 学校法人東邦音楽大学
- 60 くらしき作陽音楽大学
- 92 株式会社東音企画バスティンツアー
- 95 全日本空輸株式会社
- 96 ヤマハ株式会社

Miguel Proença

ミゲル・プロエンサ◎ブラジル音楽院教授、ヴィラ＝ロボス音楽院校長、Sala Cecilia Meireles コンサートホール館長、リオデジャネイロ市文化庁長官。今年5月コー・ガブリエル・カメダ氏の伴奏で来日した際、PTNAで個人レッスンをして頂いた。

特集 1

モチベーションを維持・向上させるコンペの受け方

コンクールはモチベーションを向上させる一つのツールです。しかし導き方を誤ると、モチベーションを大幅に下げってしまうきっかけにもなります。せっかく参加したからには、今後の士気向上につなげたいもの。結果の受け止め方、秋以降のレッスン計画など、モチベーション維持の為の工夫をご紹介します。

冒頭インタビュー◎

クラウディオ・ソアレス 先生

昨年度ピティナ・ピアノコンペティショングランプリ田村響さんの指導者、クラウディオ・ソアレス先生。4年前から田村さんをご指導をされている。トップクラスの生徒でも、モチベーションの維持・向上は重要課題。ソアレス先生はいかに引き出していращやるだろうか。



——田村君のようなトップの成績を収めているような生徒が次のコンクール等に挑む場合、指導者としてどのようなことを心かけているのでしょうか？

私も田村君も、コンクールを最初から意識していません。コンクールは自分の努力をプレゼンテーションすることが目的なのです。確かにプレッシャーはありますが、賞をもうら、もらわないというのは後からついてくる結果なのです。

田村君は12才の時私の所に来ましたが、1年目は色々な作品を勉強し、2年目から彼自身がコンクールを受けたいと言ったのです。コンクールを受けさせる場合、確実に結果が出せるラインで受けさせ、彼は着実に結果を残してきました。

——賞を頂いた後、どのような指導をされてい

らっしゃいますか？

子供によって様々です。田村君の場合は、毎回コンクールが終わった後、2人で話し合いをし、意識の摺り合わせを行い、次ぎのステップに向けての準備をしていくようにしています。

12才～16才の子供が一番成長すると思うのですが、彼は全く制限を感じさせない、ちょっと他に類を見ないような素晴らしい素質を持った子供でした。

——ソアレス先生から見て、田村君のピアノに対するモチベーションはどこにあると思いますか？

印象的だったのは、小学校6年の終わり頃田村君が、こちらに初めて来て話した時に、「ぼくはピアノが全てだ」と言ったんですね。それが私



▲ソアレス先生のレッスン室にて、真剣なレッスンが続く。

の気持ちにとっても響き、この子の為なら多少のことは犠牲にしても一緒にやっこう、と心に決めました。その言葉にも表れているように、彼の音楽に対する愛は深いと思います。彼の自然なピアノイズムも素晴らしいですが、小さい頃から身に付いている音楽への意識が非常に強いんですね。これは才能でしょう。

———そういったものを引き出すための選曲方法などはあるのでしょうか？

基本的には子供の意志を尊重したいと思います。子供が選んだ作品から基礎的なもの(技術的、音楽的な問題など)を指導できますし。こちらから押し付けるより、子供がやりたいと思うものの方が結果的に出来が良いと思います。

プロフェッショナルな音楽家を育てるためには技術的なもの、筋肉づくり、体の動きのコントロール、指先の設定、そういった要素が必要です。音楽は人間の感情を表現していますから、色々な感情を見つける必要があります。

音楽のキャラクターと感情をうまく組み合わせることが大切なのです。これは彼の選曲において、最初から意識していましたね。最近では、彼のプログラム(10代の演奏家)にあるように、宗教的な曲で集中力を非常に必要とするようなものもこなすようになってきました。

———田村君はコツコツと練習をする方ですか？それともムラがある方でしょうか？

ムラはだれにでもあるし、必要なものです。集中して練習するとストレスがたまるので、全く違う方向を向いて気分転換したほうが良い場合もあります。よく休むことが重要ですね。そこで成長するのは。成長というのは努力している段階では出てこないものだと思います。

———先生は将来を見据えて指導されていることが端々に伺えるのですが、先生が持っている考えなどありますか？

私はカンがとても強いと思います。生徒と接しながら、色々決めてゆくのです。目的はプロフェッショナルな音楽家を育てることですが、細かい目標設定はしていません。感覚的に接しています。彼の自立を促し、演奏家として1人立ちできるように見守っています。



クラウディオ・ソアレス先生

ブラジルに生まれる。リオ・デ・ジャネイロ国立音楽大学にてミゲル・プロエンサ氏、ハノーファー国立音楽大学でハンス・ライグラフ氏に師事。99年指導者賞、00年トヨタ指導者賞。現在大阪芸術大学、同志社女子大学学芸学部音楽学科、大阪教育大学講師。ヤマハピアノ演奏研究コース専任講師。堺ピアノ協会主宰。堺国際ピアノコンクール審査委員長。

プラス思考の解釈を

物事の受け止め方は千差万別で、「これが唯一正しい」という考え方はありません。同じコメントを頂いた2人の生徒が、そのメッセージをどのように受け止めるかで、その後の意欲の持ち方や成長の仕方が全く変わることもありえます。厳しいコメントも「成長のための苦言」とプラスに解釈できるかが、道の分かれ目です。

感動を音に変えるために

平間 百合子 先生(宮城)



お母様もいらっしゃると思いますが、そんな時は家に励ましのFAXを送り、お父様にも読んで頂けるようにします。お父様のサポートも重要な要素ですから。

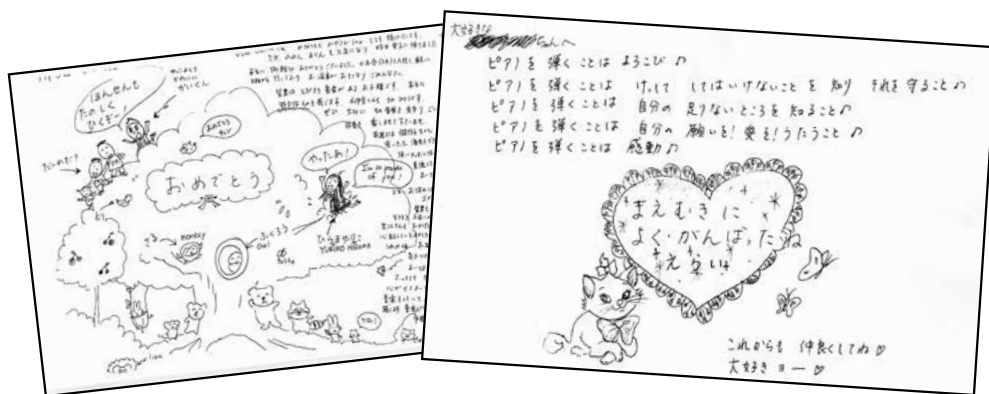
コンペ前日に1枚のFAX

コンペを受ける生徒には、前日か当日に激励FAXやメールを送っています。例えば、「あの弾き方だと少しメッセージ性が足りないな」と思ったら、日常生活上で感動した瞬間を思い出させ、その生徒のイメージを引き出すようにしています。例えばモーツァルトの優美さを表現させるのに「大事にしているハムスターの可愛らしさ、優しさを思い出して」、あるいはバルトークの曲を弾く時は「ねぶた祭りでお父さんが太鼓を叩く姿を想像して」等等。音楽を通して、自分の感動を伝えるように指導しています。

コンペ後は結果報告と御礼のFAXが生徒と親から沢山届きます。結果に過度に反応してしまう

講評を善意に解釈して伝える

コンペ後のレッスンではまず、本人をピアノの前に座らせて私が講評を読み聞かせます。お褒めの言葉には一緒に喜んだり驚いたり、少し厳しい言い回しの講評は、表現を和らげたり今後に必要な改善事項だけを読んであげます。例えば「音をよく感じて弾けました」という良い講評の場合、「耳をよく使って弾いていましたよね」と私の感想を添えてあげます。逆に、『『きつつき』がけんかしているような演奏』と書かれたら、「もっと仲良しな感じに弾いて」と、メッセージを和らげて伝えます。「手首が固い」と書かれれば、「ちょっと立って、腕を柔らかく動かしてみましようか」というように、メッセージを体で理解してもらえよう、その場で実践してみます。



▲平間先生がコンペティション後に送った、ねぎらいと激励のFAX。



▲昨年のピティナ・ピアノコンペティション本選の様子（本文とは直接関係ありません）

保護者は講評の言葉一つ一つに一喜一憂してしまいがちですが、指導者である私は批評慣れていますので、講評を善意に解釈して伝えてあげています。

他人の喜びを、自分の喜びに

コンクールの結果で、その子の将来が全てが決まるわけではありませんので、結果そのものにとらわれすぎないように保護者にも伝えているつもりです。今は「他人の喜びを自分の喜びとする」という教室の方針が浸透してきているのか、お互いに誉めあう雰囲気があります。ある生徒は、コンペで知り合った友達が、自分より上位の成績で決勝進出した時、母親と一緒におめでとくと伝えに行ったそうです。

高い理想を持っていれば、身近なところで時々良い評価を頂くことがあります。だからといってそれに満足せず、評価にみあった実力を維持し、不足している部分をしっかり見据えることが大事です。良い学び方と謙虚な精神性が身につけば、それは一生の宝になると思います。

さらなる飛躍の為に必要な結果



土持 恵理美 先生(千葉)

同じ出来事をプラスに解釈するか、マイナスに取るかで、人生は変わります。コンペで思わしくない結果が出た場合でも、「あなたのこの部分が素晴らしい」と誉めてあげます。決して他の生徒と比較したり、否定的な言葉は使いません。

とはいえ挫折を経験して、より一層様々な受け止め方ができるようになると思います。逆に挫折を経験しないと、この先長い人生で立ち直れなくなる可能性があります。そのための訓練であり、さらなる飛躍のために頂いた結果であることを話します。「失敗」ではなく、「経験せねばならないこと」ことなのです。

コンペは単に競争、とだけ捉えていると虚しさが残ります。誰の為に良い演奏を心がけるのか、それは聴いている人のためです。目に見えないもの、その人の考えや思いを伝えるためには、優しさや慈しみ、慈愛の気持ちを持つことが大切です。

コンクールはたまたま様々なバックグラウンドにある生徒同士が、同じ土俵で競うものですが、そうした競争的な側面よりも、心のあり方を大事にしていきたいですね。通常のレッスンでも、生徒がどんな演奏をしても、砂浜から砂金一粒を拾い上げるような感じで、一つでも良い点をみつけてあげています。

◎保護者の視点

普段の練習から、「頑張ってね!」ではなく、「頑張っているね!」と声をかけています。そのことによって、子供は自分の頑張りが認められていると思うでしょう。寝る前も「今日も練習頑張ったね。えらいよ。おやすみ」と声をかけて1日を締めくくります。まだ小学3、4年生の子ですから、目標をクリアした時もきちんとごほうびの対象にしています。例えば目標にしている「1日4時間」という練習時間を達成できた時、大好物のアイスクリームをあげています。そうすると、この上ない幸せといった表情で味わっています。親の子供に対する素直な愛情が十分伝わっていることが重要なのだと思います。(土持先生門下生のお母様)

結果より過程を見直す

自分の課題をクリアできたなら◎

石黒 加須美 先生(愛知)



過程を大事にして

コンペに参加させるとき心がけていることは、結果が大切なのではなくその過程に意味がある、ということ。このことを生徒や親に納得して頂いてから、参加して頂くようにしています。ですから、各生徒が自分自身の課題をクリアできたかどうかを重視します。課題は表情付け、ディナーミク幅の広さ、リズム・テンポの取り方等、生徒によって様々です。それらがクリアできたら、本番でいかなる点数が出ても、その生徒にとっては100点満点なのです。思わしくない点数を頂いた場合、私からは審査講評に書いて頂けなかった良い面もお話するようにしています。逆に、本番で運良く高得点が頂けても、自分の課題が克服できていなければ、目的が達成されていないことになります。けれどこのような場合は、「頑張っていればよいこともあるね」「これからまた何度も報われないことがあると思うけど、このご褒美をもとに頑張ろうね」と伝えます。とにかく、コンクールは自分の決めた課題にしっかり取り組むこと、自分の欠点を見極めることが重要なのですね。

良い成績は「ピアノ好き」の結果

珍しい例ではありますが、一度小さい級でコンペに初挑戦、本選まで進んだ生徒がいましたが、その後母親が期待しすぎてその子にプレッシャーがかかり、練習嫌いになってしまいました。真面目な母親なので、「先生に迷惑をかけたくないから、もっと頑張りなさい」と追い詰めてしまったのですね。何度も母親と電話で会話して状況を探ろうとしたのですが、結局原因が分からないま



昨年11月に行ったオータムコンサート。アンサンブルをメインにしている。

ま約半年後に「やめます」と言われました。けれど「本当にこのままピアノをやめてもいいのですか？私はあなたのピアノが聞きたいのだから、家で練習しなくてもいい。レッスンを楽しんでくれればいいんですよ。」と説得したところ、この言葉が彼女のプレッシャーを解放したのか、何とか思いとどまって頂きました。そしてそのままの状態で、2ヶ月後のステップに参加しました。久々の本番体験で彼女は満足したようで、ピアノが好きという気持ちを徐々に取り戻してきてくれています。

良い成績というのは結果論でしかありません。ピアノが好きで心から楽しんでいる結果、上達して成績もあがるという構図なのです。ですからコンペを受ける時は、生徒や親に十分この点を理解して頂くようにしています。



オータムコンサートでは、生徒さんによる様々なパフォーマンスが登場。和太鼓あり、ダンスあり。コンペ終了後は、発表会準備で大忙し。



課題曲研究に余念なく

辰巳 千里 先生(奈良)



コンペは審査されることを念頭に置いて、完成度を高めることを目標に指導しています。発表会は舞台栄える曲、今の自分よりも少し上の曲に挑戦させますが、コンペでは実力相応の4曲を完璧に仕上げ、かつ自分の個性を出すように指導します。そのためには私自身も指導技術や音

楽内容を高めるように意識しています。中学生以上の生徒には、課題曲が弾かれる演奏会や講座があれば足を運ぶよう指導していますし、自分でも行くようにしています。

生徒は大体隔年で参加していますが、受けた年と受けない年では、成長の仕方に雲泥の差があります。私は「コンクールに一喜一憂すべきでない」と思っていました、実際に生徒の成長を目の当たりにすると、私も頑張らなくてはと奮い立たされます。やはり一定期間集中して練習成果が、顕著に現れるようですね。

◎生徒の視点

「喜べたなら」

仙台市立第一中学校 一年 八重樫 奨

「おめでとう、奨ちゃん。三立賞だよ。一位だよ、一位。」私の横で友達は何んてくれました。この夏一緒に受けたピアノのコンクールの予選で、私と友達は、そろって合格する事が出来た。コンクールでは順位ごとに賞がつけられ、私は運良く、一位を取る事が出来たのです。

結果を聞き終え、嬉しくてうきうきしながら、二人で会場を出ました。もう、外は真っ暗でした。

帰りは、友達の家まで送ってもらう事になり、車に乗るとさっそく、友達はおばあちゃんに報告すると言いたいから電話しました。

「あ、おばあちゃん。合格したよ。それから一緒に受けた奨ちゃんも、奨ちゃん、一位だったの。すごいよね。」

私の喜びを、まるで自分の事のように喜んでくれました。「ありがとう。」と言いながら、私は複雑な気持ちでした。どうして友達は、他人であり、又、ライバルである私の喜びを、自分の事のように感じられるのでしょうか。

その時はふと、おとしのコンクールの事を思い出していました。その年のコンクールも、二人そろって予選を通過する事が出来ましたが東北大会では、友達は賞に入り、私は何の賞にも入る事が出来ませんでした。いわば、今日の私と友達の立場が逆だったのです。その時は、友達に「おめでとう。」の一言も言わず、母と二人で帰りの電車に乗り、半べそをかきながら、一人でぶつぶつ文句を言っていました。それを聞いて母はただ笑っているだけでした。

私は、同じ立場にある時の友達との違いに、そして、勝ち負けにこだわらずにいた自分が、とてもはかしく思いました。ピアノのコンクールは、他の人が失敗すれば、自分の順位がより上がるので、どうしても、友達だけでなく、他の演奏者の

失敗を願ってしまいがちです。また、結果発表で自分の名前が呼ばれないと分かった時には、友達の名前も呼ばれないでほしいと思ってしまうのです。そう思う中、実際に友達の方が上だった時、素直に喜ぶ事はなかなか出来ません。それでいいけないと、頭の中では分かっているのに、反対に心はそう思ってしまうのです。友達が嬉しい時、私も喜んであげたい。そう思いながらも、心は反対に動いてしまふのです。私の心はみみくしいのでしょうか。人と同じ気持ちにはなれないのでしょうか。

そう思った時、人の悲しみなら、自分の事のように感じられるという事に気付いたのです。小学校四年生の時、こんな事がありました。友達のお兄さんが交通事故で亡くなってしまったのです。その子は三日ほどして学校へ来ましたが、顔が青ざめていて、いつものような明るさは、どこにもありませんでした。私は、その子と思うだけで本当につらく、本当に不安になりました。まるで、その子の悲しみが自分の事のように思えたのです。

どうして、人の悲しい気持ちはすぐに私自身の悲しみになるのに、人の喜びは心からの私の喜びにならないのでしょうか。人の悲しみを自分の悲しみにする事は簡単です。しかし人の喜びを自分の喜びにする事は、本当に難しい事です。みなさんには出来ますか。

私はこの夏、コンクールを通して、ピアノの技術以上の事を、友達に教えたような気がします。どんなに幸せでしょう。人の喜びを自分の喜びに出来たら。私の大きな課題です。いつか友達に、あの時の「おめでとう」が心から言えるように・・・。

平間百合子先生門下生の
作文(宮城県女子弁論大会
優秀賞の記念誌より転載)

着 実 さ が も た ら す 成 果

コンクールは、結果よりプロセスが大事です。1回1回の練習やレッスンを大事にし、次につなげる。この地道で時間のかかる作業を継続するには、忍耐力と目標に対する強い意志が必要です。しかし、このプロセスをきちんと踏んでいると、いずれ大きな果実がもたらされることでしょう。それは「真の実力」です。

練習時間を申告させて分かる事



山田 つづみ 先生(三重)

課題曲の出来は同じでも・・・

私の教室に来る子は自主的に練習する子ばかりではありません。レッスンの度に注意しても練習をしてこない子に困り果て、手作りで練習時間記入表(下写真)を作り、自己申告をさせるようにしましたところ、熱心な子はきちっと目標を決めて記入してきますし、普段から練習を忘れてくる子はやはり0分と書いてきたり、お家での様子が良く分かります。

日	時	曲名	時	曲名	時	曲名
2.10	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
2.11	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
2.12	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

※練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

1. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

2. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

3. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

4. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

5. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

6. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

7. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

8. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

9. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

10. 練習時間記入表(1週間用) 山田 つづみ 先生

にしましたところ、熱心な子はきちっと目標を決めて記入してきますし、普段から練習を忘れてくる子はやはり0分と書いてきたり、お家での様子が良く分かります。

コンペやステップにチャレンジすることは、普段怠けている子にとっても練習の習慣を身に付けさせる為に良い機会と思い参加させていますが、結果は言うまでもなく毎月練習表を提出する子に軍配が上がります。

コンペ課題曲は人によって難易度の感じ方が違いますが、普段の練習を大切に、毎日むらなく練習している子の音は粒も揃い輝きが違いますし、精神的な安定感が演奏ににじみ出て、聴く人を魅了します。



すし、精神的な安定感が演奏ににじみ出て、聴く人を魅了します。

◀3月の発表会では、沢山の花に囲まれて演奏。

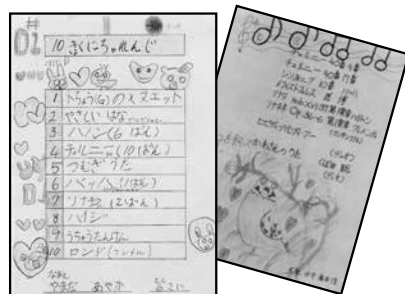
安定した力をつけるために5曲ずつテスト、冬には10曲チャレンジ演奏会

普段からきちんと曲が弾けるようにするために、例えばエチュードやバッハのインベンションなど、5曲ずつ暗譜できたらテストするようにしています。常に5曲は暗譜で弾けるくらい、安定した実力をつけるためです。

また毎年12月に「10曲チャレンジ」という内輪の演奏会を行います。一人10曲(大きい生徒は5～6曲)を順繰りに弾きます。つまり1人10回ずつステージで演奏するわけです。そのプログラムは自分で作れますが、1年間で習った曲を満遍なく弾けるよう、バランスの良い選曲をさせます。1年で最も厳しい演奏会なのです。

その他、県のコンクール、ステップ、アンサンブル・フェスティバル、発表会など、年間を通して演奏機会を絶やさぬよう、計画を立てています。

1年間を通じ練習を積み重ねた子と怠けた子の実力の差は、コンペ終了後のレッスンに表れ、比較にならないくらい成長するものだと思実感し、コンペの成績が芳しくなくても努力した子には心から誉めてあげたい気持ちで一杯になります。ひたむきに努力する習慣を身に付けた子は、大きくなって進路を変えても成功すると信じています。



▲生徒一人ひとりが手作りする10曲チャレンジのプログラム。

年間計画を立てて メリハリを



住田 智子先生(島根)

計画はなるべく具体的に

私の教室では、4月の進級に合わせて各生徒の年間計画を立てます。とにかく具体的に目標設定するのが重要ですね。例えば中学生の平均としては、コンペ4曲＋オーディション1～2曲、発表会2曲、あとはバッハ、エチュードを月数曲ずつ。譜読みの早い子にはどんどん新曲を練習させますし、余力があればコンクールの掛け持ちもさせます。一方、コンペ参加しない生徒には、コンペ期間中にツェルニーを10曲進もう!など、それぞれ具体的な目標を持たせます。漠然と曲を仕上げていくのではなく、目標を持って達成感を味わせることによって、モチベーションを維持し、レッスンにメリハリが生まれるように思います。

コンクールは通過点

コンペ期間中は会場で生徒の演奏を聴くか、保護者が撮影したビデオを見ます。講評用紙と一緒に読んで分かりやすく生徒に伝え、また私自身が演奏を聴いて感じたことを話します。コンクールはピアノを通して沢山のことを経験し、成長していく過程での通過点です。生徒が結果ばかりにこだわって振り回されないように、言葉かけには注意します。ただし私自身は指導者として結果を重く受け止め、反省点は次のコンクールまでの課題として改善するようにしています。生徒に「コンペに挑戦してよかった!」と思ってもらえるよう、プラスに持っていくのが指導者の役割だと認識しています。

モチベーション低下の要因としては、D級からE級への足踏みを懸念しておりますが、ソロからデュオに切り替えるなどして、無理なく続けられるように配慮しております。

無理せず持続して レベルアップ



石崎 久子先生(富山)

同じ級を2年にわたって挑戦

以前に比べて、D級からE級への進級が困難になってきましたが、例えば中3でE級検定に参加、高1でE級コンペ受験など、同じ級を2年間にわたって挑戦させたこともあります。各生徒に見合ったペースで段階的に受けさせ、挫折感がないようにとの配慮からです。

現在中3の生徒が3名いますが、一人はE級、一人はデュオ、あと一人はコンペ参加は来年に延期しました。3人とも昨年まではほぼ同じペースでコンペに参加していたのですが、さすがに中学生～高校生くらいになると塾通いやクラブ活動の影響もあって練習量や実力にも差が生じてきます。それを本人達も自覚しています。今年参加しない生徒に「準備ができてないから、コンペは来年にしようか」と伝えると、ちらっと寂しい顔を見せますね。そんな時は、その年の課題曲を使って私とデュオをしたり、別のコンクールを受けさせ、少しずつ自信をつけさせるようにします。

努力の軌跡を残すこと

私の教室ではコンペ参加を持続させる、ということをもっとにしています。20年程前にコンペを知るまでは、何を目標にすればよいか、生徒の成長をどのように計ればよいか等、漠然とした指標しか持てませんでした。しかしコンペの出現により、目標設定が明確にできるようになり、イメージだけでなく具体的に「上達した」という実感が得られるようになりました。「〇級に到達するまで、これだけの努力をし、□年かかった」という、自分の努力の軌跡は、一つの習い事を貫いたという証となり、自分なりの「音楽の道」が作ることができます。茶道や書道と同様、芸事の「道」ですね。まさに、継続は力なりです。

コミュニケーションが鍵

コンクールでは、どうしても順位がついてしまいます。1回の失敗や予選落ちであればすぐに立ち直れても、何度トライしても良い結果が出せないと、慢性的な自信喪失につながります。「諦めないで」では済まないケースもあるでしょう。生徒や保護者とともに悩み、考え、そして解決策を見出した例をご紹介します。

周囲の理解を得る 為に



伊井 光子先生(愛知)

保護者だけでなく、兄弟・祖父母まで積極的に話かける

コンペに参加する際、周囲の方々のご理解、ご協力はとても大切です。よく、練習中はきちんと弾けるのに本番では緊張して弾けなくなる、という子がいますが、精神面の脆さは周囲の理解度と無関係ではありません。家族の中で誰か一人でも理解を示さない人がいると、無意識的にストレスをためこみ、いざという時に実力を発揮できない場合があるそうです。その為、コンクール前後は、個別に電話したり、お茶に誘う等して自らコミュニケーションの機会を作り、保護者・祖父母だけでなく、兄弟にまで話をして「コンペの期間中はどうかそっと見守ってあげて下さいね。」と理解を求める時もあります。とはいえ、プレッシャーにならないよう、コミュニケーションの仕方には配慮しております。

意欲を失った生徒の悩みを、思い切って打ち明けて

以前、3回コンペに挑戦して全て予選落ちしてしまった生徒がいました。家族共々大変落胆しており、私もそれを理解できたのですが、「お気持ちはわかります。1週間は休んでいいですが、またレッスンに連れてきて下さい」と申し上げたところ、何とか来て下さいました。しかしその生徒

は私の前では一切文句を言わないのですが、家では「もうやめたい」と漏らしていることを伺いました。私も考えあぐね、その子がステップに参加した時、思い切って「どうすればピアノが楽しくなりますか」とコメントを書かせたのです。するとアドバイザーの先生方から、「続けることに意味がある、いつかやってよかったと思える日が来るからあきらめないで」「好きな曲を弾かれたらどうでしょう」等、温かいアドバイスを頂きました。そこで少し教材を減らすなどして、ペースを緩めてみました。まだコンクールには抵抗がありましたので、発表会やステップ、伴奏など別の形で演奏機会を与えました。1年ほど時間はかかりましたが、ようやく自信を取り戻してきたようです。

これを通して、「先生自身が落ち込んだらいけない」ということを実感しました。その子の可能性を信じて、親の立場に共感を示し、ともに考えてあげることが大事なのです。

一方コンペでよい成績を修め、その後全面的にバックアップして下さるご家族もいます。グランドピアノに買い換えたり、演奏会に連れて行ったり、音楽環境を整えようと努められています。今年のコンペに向けては、日課表を家で作って練習されています。その表とおりに練習を続けてい



るようで、既にピアノが生活の一部になっているようですね。

私の教室では保護者同士も仲がよいです。毎年小6と中1の保護者に行事の係を頼むのですが、打合せなどで集まるうちに結束を固めていけるようです。こうした教室全体の雰囲気作りも重要と考えております。

生徒とお母様の熱意に応えて



大津山 姿子先生(熊本)

諦めたくない、という気持ちを大事に

小さい頃全国大会に進出しましたが、その後思うように結果の出なかった生徒がいます。たくさん同級生がコンペで成果を上げていく中で、その生徒は自信を無くしてしまったのではないかと感じる事が多くなりました。

しかしどこかで「このままでは諦めたくない」という気持ちがあったのでしょう。お母様もレッスンにとっても協力的に参加してくださり、レッスンで注意されたことを繰り返し練習し、次のレッスンではほぼ直して臨まれるようになりました。その結果、コンペが終って普通の曲に戻ると、「こんなに上手になった!」という努力の証が、年数を重ねる度にはっきりと見えるようになりました。その一方で他のコンクールで成果を上げるようになり、それが自信を回復するきっかけになりました。

ここ1～2年は意欲も持ち直してきています。また前以上にピアノを楽しんで弾いているように見受けられます。その親子が地道に努力してきた結果であり、嬉しく思います。

ほとんどの生徒がお母様同伴ですが、レッスンの中で学校やお家での生活の様子を子供さんを交えてお話下さいます。その事がお母様、生徒、私のトライアングルに結びついているのではないかと思います。

良き仲間、良きライバルの存在



厚地 とみ子先生(熊本)

同級生から認められる嬉しさ

コンペで連続して思うような結果を出すことができず、一時的に落ち込んでしまった生徒がいました。「簡単な曲でもよいから上手に弾けるように」と指導し、その後ステップに参加させました。そのステージでA評価を頂いたことで、自信が回復しました。また、通常は同学年同士2～3人でグルーブレッスンをしていますが、いつものレッスン仲間から認め、誉めてもらったことが、さらなる意欲回復につながったように思います。普段から一緒にレッスンしているので、お互い競争相手というより、仲間意識が強いようです。また2～3ヶ月に1度おさらい会をしますので、生徒同士お互いの長所や短所がよく分かっているだけに、仲間の一言は大きいですね。

親との絶妙な連携

普段のレッスンで少々厳しいことを言うと、生徒は泣いて帰ってしまうこともあります。私は先回りして家に電話します。子供が親に状況をどう伝えるか、あるいは伝えないのかを見守るため、お母様方には子供が話し出す前に質問しないよう伝えていきます。子供がどこまで自主的に行動できるかを、その成長のペースをお母様方にも理解して頂けるよう努めております。



▶今年のピティナ・ピアノコンペティション会場での様子(本文とは直接関係ありません)

秋以降はこんな計画を!

夏の熱いコンクールが終わった後、先生方は秋に向けてどのような計画を予定されているのでしょうか。発表会やステップの準備を始める、あるいは基礎固めに専念する、アンサンブルやコンチェルトに挑戦させる等、様々です。ここにそのアイディアの一例を紹介します。

月1回の鑑賞会

田中 京子 先生(福岡)



私の教室では月1回、親同伴で鑑賞会を行っています。6年前からソルフェージュの一環として行っていますが、私達の地域はコンサートが少ないので喜ばれています。低学年は1時間、主にバレエなど身体全体の動きを視覚的に学ばせ、高学年は2時間でオーケストラ、室内楽、オペラなどを鑑賞します。教材は購入・レンタルなどして自分で揃えています。14畳のレッスン室にスピーカー、オーディオを設置していますが、教会の音、1000人収容ホールの音など、音響効果を好みに応じて変えられる装置を取り入れました。非常に臨場感が出て好評です。

入賞者ビデオも年数回見て勉強しています。年齢の近い方の演奏を、より親近感を持って真剣な様子で鑑賞しています。その後一人ずつ感想を述べ、「音色が美しい、タッチが素晴らしい、表現の幅が広い、呼吸が深い、よく伝わってくる」等、様々な意見が出ます。それぞれ今の自分にとって足りないところが分かっているようで、今後の励みになっていると実感しています。決して真似ではなく、学び取ることを大切にしています。

例えばメヌエット等のダンスステップや、フランス組曲の中にあるアルマンドやサラバンドがどの

ような種類のダンスなのか、こういった背景を知ることによって、楽曲理解が深まります。またフレーズの最後

をどう処理したらよいかなど、具体的なイメージトレーニングもできます。弾くばかりが勉強ではないと思っていますので、1時間のピアノレッスンの残り10分を、必要に応じて鑑賞にすることもあります。

生徒全員でポップス

西野 真琴 先生(鳥取)



「コンペが終わったら、ジャズやポップスをみんなで弾いてみよう」と話し合っています。最近の子供達は皆忙しく、また音楽・生活環境も多様化していますので、そうした生徒の日常生活に目線を移し、レッスンに新鮮な風を通したいと思いついたものです。

私自身はここ10数年クラシックを中心に指導しておりますが、ともすればマジメにやる程レッスンそのものが固定化し、「自由」から遠ざかってしまうように感じていました。そんな時かつての作曲やバンド活動を思い起こし、ジャンルをクロスオーバーすることで、それぞれの価値観を認識できるような指導ができれば、と思ったのがきっかけです。

クラシックしか弾いたことがない子にとっては、ジャズやポップスの「ノリ」を掴むのは難しいと思いますが、秋頃みんなでジャズ&ポップスのミニコンサートを開くことを目標に、レッスンの中で新鮮な発見をしたいと思っています。

私がピアノ指導を始めて20数年の間にも、生徒の傾向は刻々と変化しています。かつてに比べ、生徒自身の内的なエネルギーを感じにくく、指先までの力強い思いや、生き生きした自発性



◀田中京子先生のレッスン室

が伝わってくるものが少なくなりました。それは指導する側にも責任があるかもしれません。先生が一つの枠に固執してしまうことで、無意識的に子供に何かを強いてしまうことになりかねません。常に視野を広く持ち、精神を柔軟で開かれた状態にしておきたい。生徒さんと私とが音楽を共に楽しむ仲間でありたいと願っています。

エチュード・ステップに挑戦

川岡 優子先生(広島)



10月下旬にエチュード・ステップを予定しています。ツェルニーやエチュード等は、普段なかなか人前で弾く機会がありません。けれど一つの曲として綺麗に弾きこむことも大切だと思います。そこで昨年から秋のステップは、私の生徒は全員必ずエチュードを弾くようにしました。

小さい頃ですとある程度感性があれば曲が弾けますが、中級くらいになると手ができていない子は、壁に突き当たります。そこでこのステップに参加することで、骨格作りを意識的に行うようにしたのです。「スケールをより美しく」「アルペジオをスムーズに弾く」「トリルを上手に入れる」「左手を強くする」等、分かりやすい目標設定ができるようになりました。例えばツェルニー30番でも、そこで求められているテクニックの意味や音楽的な面を考えながら弾いてくれるようになったと思います。「基礎作り」「弱点強化」のステップとして、音楽大学副科でピアノを習っている生徒や音大入試を控えている子も受けると、張り切っております。

学年別に同じ作曲家に取り組む

真宮 恵美先生(神奈川)

コンペ期間中から、「コンペが終わったら発表会に向けて頑張りましょう」とインプットしておきま

す。そうしますとコンペ後は、モチベーションを維持しながら次の目標に向かうことができます

秋は学年毎に、同じ作曲家の異なる作品をプログラミングして発表会開催する予定です。小学生はバッハのインベンション、中学生はシューマンやメンデルスゾーン等のロマン派を中心に、また中3の普通高校を受験する生徒はショパンにしています。憧れのショパンを発表会で演奏できるということで、大変な受験期をピアノと共に乗り越えて欲しいという気持ちから企画しました。また母親との連弾やコンチェルトも盛り込みます。コンペで連弾の楽しさを知った生徒や保護者より、「次の演奏会は4手、6手、8手を」という声が相次いでいます。

ミュージックキャンプ開催

石井 之枝先生(茨城)



2年に一度、8月下旬に「ミュージックキャンプ」を企画しています。近所の公営施設を借し切り、1泊2日で音楽体験をさせるというものです。

普段のレッスンでミュージックデータを使用したアンサンブルをやりますが、他の楽器を感覚として捉えきれてない部分がありました。そこで、他楽器を実際に体感してもらう為、このワークショップを企画しました。初回はトランペット・ドラム・フルート・和太鼓に挑戦、2回目は全員和太鼓を2曲ずつ完成させ、いずれも2日目にお迎えにきた保護者の方々の前で、終了コンサートをしました。生徒は初めての楽器に触れるという新鮮な体験と、いつもはなかなか話す機会のない教室の他の生徒と、2日間一緒に生活したことで、「自信」と「和の心」を身につけたようです。その後、嬉々としてレッスンに来てくれています。楽器の調達や、各楽器指導者の手配など大掛りで大変でしたが、また次回も企画する予定です。

▶ミュージックキャンプ 2002 和太鼓



理論検定を受験、 海外ネットワーク も積極活用



吉岡 明代先生(徳島)

実技だけではなく、理論もきちんと勉強する必要がありますので、毎年春に英国王立音楽検定(アソシエイト・ボード)を受けさせています。昨年末には勉強会を開催し、指導者6名、生徒55名が参加しました。理論の勉強をすることで、音楽の基礎知識が深まり、ピアノ好きの子が増えたと思います。また世界的に認定されている試験ということで、生徒の自信と誇りにもつながっています。

また教室に海外から演奏家や指揮者をお呼びし、演奏会を行うこともあります。かつて電子オーケストラでコンチェルト演奏会を



▲英国王立音楽検定の勉強会

開催した折、英国人指揮者をお招きして、指揮をして頂いたことがありました。今後とも海外ネットワークを広く持ち、外国に子供達を連れて演奏する機会等も企画したいと思います。

レッスン用教具・ 教材を製作



宮村 京子先生(宮崎)

コンペ後に限らず、日々のレッスンの中で「こういう教具があったらいいな」と思うものを作っています。最近作成したのは、指マット、音名・階名マット、教え玉、けんぱんシート、中でも最も人気があるのは「5度圏ルーレット」です。くるくる回しながら自然に調名や音階などの基礎知識を身に付けることができますので、幼児から受験生まで重宝しています。規則が理解できると、音楽に対する興味も深まります。最近小さい生徒は、レッスンに来ると



◀5度圏ルーレット

真っ先にルーレットに向かうようになりました。

生徒全員にアンサンブル 体験

伊藤 みち先生(愛知)

毎年1月教室で「お弾き初め会」をしています。それは一人5曲、生徒自身に選曲(分野は問わず)、練習、プログラミングと全て任せての、教室での小コンサートです。これまでポップス、弾き語り、リコーダー演奏等、様々なプログラムが登場しましたが、今年はミュージックデータを用いてコンチェルト風にアンサンブル曲を1、2曲、どの子にもプログラムに入れるよう提案する予定です。小さい生徒のレッスンではバスティン・メソッドの中で日常的にやっていますが、今回は大きい生徒も含めて全員に挑戦してもらおうと思っています。9月からは生徒達と共に、アンサンブルする曲を決める楽しい作業が始まります。最新のミュージックデータが出ていないか、ますますチェックが欠かせません。

文化創造塾を開催

酒井 郁江先生(福岡)

地域の文化センターで「文化創造塾」というワークショップを立ち上げ、音楽監督を担当しております。来年3月に「サウンド・オブ・ミュージック」の公演を予定しており、それまでにミュージック隊とアート隊(舞台美術)が、各々月1回ワークショップを行います。これからピアノやギター、リコーダーの出演者や曲目等を順次決める予定です。この一連のワークショップは「家族」をテーマにしたもので、ファミリーで出演して頂くよう呼びかけております。ピアノは私の教室の生徒も出演する予定ですが、大好きなサウンド・オブ・ミュージックの世界を自分たちの手で創っていることを、今から楽しみにしている様子です。

エピローグにかえて さらに充実したシーズンを過ごすために

モチベーションの維持・向上には、明確なビジョンと計画が不可欠です。次のステップが提示されれば、それに向けて目標が定められ、一步を踏み出すきっかけになります。教室全体がさらに活性化するように参考にして頂けたら幸いです。

<ステップ・発表会・他コンクールに向けて準備>

- 発表会を2年に一度王子ホールで開催、また代表をさせて頂いている、スタインウェイ関東ステーションのステップ(11月・6月)に参加させます。(渡部由記子先生・千葉県)
- 10月トークコンサート、12月ステップ・発表会、1月入賞者コンサートの予定です。(望月玲子先生・長野県)
- 教室全体では、クリスマス会、春に発表会、希望者はステップ、検定を受けさせます(井上朗子先生・大阪府)
- ステップ、他コンクール、コンサートホールでの演奏、生徒自身が弾きたい曲で自由に。(菊地昭子先生・栃木県)
- 新しい生徒の募集とともに、ステップへの参加をひとりでも多く勧めます。(長谷川美智子先生・福岡県)
- 別のコンクールへの挑戦や、ステップなどへの積極的な参加、また、生徒達との交流を深める為に、色々な会を開催する予定です。(佐々木恵子先生・千葉県)
- 今までと同様、コンペを目標にさせステップ参加をできるだけするようにアドバイスし、演奏向上をはかります。生徒に目標を持たせ、ほんの少しの向上を積極的にほめて、意欲を維持させるよう、努力したいと思っています。(北島依子先生・大阪府)
- 11月にステップ参加、12月クリスマスコンサート(ピアノトリオ等、他楽器とのアンサンブルを計画中)、3月ピアノコンサート(ソロは短めの曲、ピアノトリオ、他楽器のアンサンブル)を計画しています。(田中みゆき先生・青森県)
- 地元で開催されるコンクールや、ピティナ・ピアノステップに参加。年末はクリスマスおさらい会。来春は発表会を予定しています。(漆原好美先生・宮崎県) ほか

<その他>

- 慰安旅行や、他の先生のレッスンを見学させていただく予定です。(三好のび子先生・静岡県)
- 教室の模様替えで心機一転したいと思います。(池田玲子先生・兵庫県)

先生・兵庫県)

- 5月よりレッスンをなるべくドイツ語で行い、12月の外人講師によるマスタークラスに向け、通訳無しでレッスンを受けられるようにしています。弾き方だけでなく、西洋音楽の根底にある精神性を理解する為に、大切なことと思います。(大場多恵子先生・静岡県)
- 私の教室から育った生徒で、今年音大ピアノ科を卒業した人のソロリサイタルを、私の教室主催で手づくりでいたします。チケットのもぎりは生徒達がしたり、チラシやチケットも手づくりで作成します。なるべくお金をかけないで、ソロリサイタルを経験させてやりたいと思い、今年からスタートします。(中田元子先生・大阪府)
- 即興演奏や創作研究により力を入れたいと思います。(坂田恵子先生・静岡県)
- オープンクラスとして、グルーブレッスンを公開します。(八木まゆみ先生・鹿児島県)
- 昨年、ピティナ参加者で秋に食事会をしたところ、大変楽しかったらしく、今年も計画しています。(竹本喜代美先生・愛媛県)
- 何よりも毎回のレッスンを大切にしたいです。(善見伊岐先生・兵庫県)
- コンクールだけのためのピアノにならないよう、コンクールオフ期間はなるべくいろいろなコンサートにふれるチャンスを増すべく、積極的に聴きにいけないチャンスを増やしていきたいと思っています。(横山朋子先生・栃木県)
- 3月にコンサート、5月に教室の発表会を終えたばかりなので、コンペが終わったあとは練習曲を中心に進捗をすすめ、基礎練習を徹底させようと思います。(青木香澄先生・宮崎県)
- 子供だけではなく、広く生涯学習の幅を計画しております。一生ピアノと付き合える環境を多く提供できればと、大人のピアノ愛好家の方へ呼びかけています。(俣野昌子先生・東京都)
- 大学入試の人のための研究会に子供たちも参加させます。(椿久美子先生・滋賀県) ほか

●生徒に取り組ませたい事

98 基礎の練習

74 発表会に向けての準備

71 新しい曲の挑戦

68 別のコンクールへの参加

44 ピティナ・ピアノステップへの参加

44 アンサンブル・デュオの挑戦

23 その他

「過去ピティナ・ピアノコンペティションに延べ100名以上を参加させたピティナ会員」349名の先生方にアンケート調査を実施致しました。このグラフは128通の返信をもとに集計した結果です。ご協力頂きました先生方、ありがとうございました。なおアンケートで協力者一覧は、本誌91ページに掲載させて頂きました。

●指導者が取り組みたい事

その他 35

教室広報ツールの制作 9

国内外への研修旅行 23

環境整備 29

保護者との懇親会 31

コンサート鑑賞 80

講座への参加 81

特集 2

講師



第1講座 「ショパンの魂 マズルカ」

下田 幸二 先生

しもだ こうじ◎相愛大学特任助教授、フェリス学院大学・桐朋学園大学講師、当協会正会員



第2講座 「ピアノのレッスンに役立つ ソルフェージュ」

中田 元子 先生

なかた もとこ◎当協会評議員、千里支部支部長



第3講座 「楽しく弾けるプーランク」

岡本 愛子 先生

おかもと あいこ◎東京芸術大学講師

2 0 0 3

ピティナ・ピアノ 指導セミナー Vol.20

2003年4月27日(日)東邦音楽大学内教室にて、ピティナ・ピアノ指導セミナー vol.20 中級編が開催された。3名の先生方による講座は、映像や音、ピアノ実演、体験談を織り交ぜながら進められ、来場者は熱心に耳を傾けた。ここに当日のダイジェスト版をご紹介します。

第1講座

ショパンの魂 マズルカ

下田幸二先生



マズルカとは

マズルカとは3つに大別される舞曲の総称で、ポーランドではなく、フランスで使われた言葉です。ポーランド語では「マズレク」といいます。ただし、マズルカという踊りそのものはポーランドでは存在しません。マズル、クヤヴィアク、オベレク、この3つによって成り立っている踊りの総称をマズルカと言うのです。つまりマズルカは地方や踊り方によって様々です。

ポロネーズとマズルカは共に民族舞踏の範疇に入りますが、それぞれ違う性格を持っています。マズルカは地方によっては全く違う呼び方をしている場合も少なくありません。例えばゆっくりのクヤヴィアク類では、オトプシカ、シピョンツィ、グワトキ等、地方によって呼ばれ方が違います。

マズル・オベレク・クヤヴィアクの踊り

マズルカ3舞曲は、速い順に、オベレク、マズル、クヤヴィアクとなります。

マズルカの踊りは男女ペアになって踊り、即興性が強いものです。音楽的特徴としては、歌を伴っていることが多く、アクセントの多くが2拍

目や3拍目の弱拍に来ます。またアクセントが移動するなど多様性を持ち、これがワルツとの大きな違いといえます。

なお一拍目で終わるのを男性終止と言いますが、マズルカは2、3拍目で終わる女性終止を持ちます。また、リディア旋法などの教会旋法、ジブシー旋法が出てくることが多いのも特徴です。

楽器はドウディ(バグパイプみたいなもの)、スカ(太い弦が張っており、音程がファジーになる)バセトラ(3弦)等。調が安定せず、単調なオクターヴの連続など民族調な雰囲気のを奏でていたと思われます。

マズルは $\frac{3}{4}$  というリズムを持つことの多い舞踏です。

オベレクの舞踏音楽は8分音符が色々な所に飛び回っています。バラード1、3番の一部にその影響が見られます。

クヤヴィアクの舞踏音楽は基本的に遅くてメランコリック。歌のみで踊る場合もあります。4小節単位のフレーズ、アクセントは他の2つに比べると流動的で柔らかく、パッセージも比較的音階的です。遅い曲はよりメランコリック、速い曲は

リディア旋法

白鍵のfから始まる音階です。つまりFdurの第4のフラットがない形です。作品68-3の中間部や作品24-2に出てきます。

ジブシー音階とは、ユダヤ系の音楽に多いものです。普通は和声短音階で増音程が1つで

すが、ジブシー音階では増音程が2つ生まれます。これを使って、チャイコフスキーがスラヴ行進曲を作っています。ショパンは作品7-1の中間部などで使っていますが、ここでは下のほうにドローンバスという空虚5度が使われていて、非常に雰囲気のある中間部になっています。

より明るくて楽しいものが多いです。

オベレクとクヤヴィアクの速い曲は区別がつきにくいのですが、一番の相違点はフレーズが異なるということです。

ショパンのマズルカ

1.1 舞曲の例

ショパンのマズルカは一曲の中で単一のマズルカが使われていることは多くありません。ショパンが天才的なのは、その3舞曲をミックスして使っている所です。まず、数少ない1舞曲でできている曲は作品17-1です。これはマズルであり、それは中間部でも変わりません。

もう1つ、オベレクのみを使用している曲、マズルカ変ホ短調作品6-4は、大変めまぐるしいマズルカです。旋律はメランコリックですが、リズム型は2小節目単位の繰り返し、3拍目にアクセントがきています。1小節目の2拍目にアクセントをつけていますが、これが2小節目では3拍目に移動したりします。これはオベレクで多いパターンです。

またクヤヴィアク1つを使用しているパターンは1848～49年頃の絶筆になったマズルカ作品68-4にその例があります。クヤヴィアクはショパンの母が生まれた地方の踊りだったわけですが、この頃ショパンは「もう、ぼくは故郷のメロディーを忘れてしまったよ」と友人に漏らしています。20歳の時(1830年)ワルシャワを出て以来、39歳で生涯を閉じるまで一度も故郷に戻

ることはなかった訳です。その中でショパンはおびただしい数のマズルカを作っていますが、最後に作ったものが母の、故郷の曲だったのです。とても悲しい、哀愁をそそる曲ですね。また、作品67-4、67-3 これらも同じクヤヴィアクを使用していると思われます。

クヤヴィアクの速い方を使用している曲はマズルカ作品7-5が挙げられます。これは終わりのないマズルカと呼ばれていますが、一番最後に「ダルセーニョ・センツァ・フィネ」と書いてあります。これはセーニョに戻って終わりなしで、という意味なんですが、私の師事者の一人、バルバラ・ヘッセ＝ブコフスカは最初の部分を弾いて、三回くらい繰り返して最初の部分を弾いて終わる、と解釈されていました。

全体のフレーズは4小節目単位で、その3小節目と4小節目にスフォルツァンドが入っています。もちろん、フレーズとはスラーの線を言っている訳ではありません。1つの楽節としてのフレーズです。フレーズが分かり難いので、音楽学者によっては、オベレクに分類する人もいます。

演奏上の留意点としては、クヤヴィアクはメランコリックな歌を意識して、また速いクヤヴィアクでは、4小節目区切りであることは忘れないで下さい。オベレクはとても活発な踊りですからタッチを生かして、パリパリと弾いていただきたいと思います。

2.2 舞曲の例

作品68-3、これは最初は典型的なマズルで始まり、中間部はリディア旋法が使われています。

短い中間部にオベレク、その両サイドをマズルがサンドイッチしています。中間部の入りは、ヘミオラといって3/4拍子でかかれながらもアクセントが3小節目では2拍目にきて、4小節目では1と3拍目に来ている、つまり2拍取りになっています。これはアクセントが移動しているということです。

クヤヴィアクとマズルがサンドイッチされたパターンとしては、作品67-2があります。最初に





ゆっくりのクヤヴィアク、マズル、と続きます。マズルでは、リズムの逆転が使われています。この曲はテンポ変化が書いてありませんが、マズルに移る時に変化がある程度来るのは可能です。そこで生徒さんが先へいきたがった場合、それは自然な感性として私は許すべきだと思いますが、そこでカギになるのが先程申し上げた3舞曲の概念を頭に入れているかどうかになるわけです。

3. 3舞曲以上

作品 24-2 などが上げられます。最初はオベレクで2小節単位の曲調、21小節目にドルチェの指示出てきてフレーズが4小節単位になります。これは速いクヤヴィアクと言えるでしょう。そしてまたオベレク、次にマズル、となります。これは3舞曲が見事にミックスされたものと言えます。最初に空虚5度(これはオベレクに一番多いパターンです)、そして第53小節からアクセントの移動ができて、マズルに入ります。ここで、ショパンはいきなりマズルに入って驚かせないようにドルチェの指示をしています。第89小節から最初のパターンに戻っていきます。最後はひきのばされて、女性終止でおわります。

4. マズルカの要素

最後に、マズルカの要素は他の作品にも生きているということを申し上げておきたいと思います。例えば、最初に取り上げた、バラード1番や3番に見られるフレーズ(オベレク)、ピアノコン

チェルト第1番の出だし部分(マズル使用)などです。ショパンコンクールなどで、このコンチェルトの出だし部分を非常にドラマチックに重々しく弾く人がいますが、一見良いように聞こえても、この部分はマズルなので、これはおかしいわけです。

また第一主題はポロネーズを元にはしていますので、ここも思い入れたっぷりに弾くと違ってしまいます。それから、例えばグランド・ワルツ作品34-2は第37小節からなどがクヤヴィアクなのです。ショパンは自分でも「ぼくがワルツを弾くとなんでもマズルカになってしまう」と言っています。

小学生や中学生の生徒さんが憧れの幻想即興曲にいく前にマズルカを1つ、2つやってみるというのも良いのではないのでしょうか。目に見えないリズムの扱いを生かせる部分が、マズルカにあるのではないかと思います。



第2講座

ピアノのレッスン に役立つ ソルフェージュ

中田元子先生



読譜について

ソルフェージュという音符の長さは線の長さとしてとらえる事が普通になっていますが、実際、演奏上で感じる音価というものは、その長さだけでなくそれぞれの音価に比例するふくらみを感じなければいけません。例えばイメージとして、全音符の石を海の中に落とすとしします。多分“ドボン”という音がするでしょう。2分音符の石は“ポチャーン”で4部分音符の石は“ポチャン”、8分音符は“パチャ”16分音符は“ピチ”という様に子供には分かりやすく説明します。つまりその音価の違いによる重い軽い、深い浅いという感じが、音のもつ響きの広がりを感じさせる事が大切です。そしてその音価の組合せにより、リズムが生じ心地よく流れる事を実感してもらいたいと思います。そしてそこからそれぞれの音価に必要な音づくりのためのタッチを、子供達の中から自発的に欲して導き出すという形が理想なのではないかと思っています。子供達一人一人骨格や手の大きさ、指の太さも違います。指導者にとって最良と思えるタッチも、その子供にとって最良かどうかという疑問もあります。ですから子供達の中から欲した(言われてでなく)音色を出すために、子供達で工夫する耳を作っていきたいと思います。

これはピアノを弾かなくても、リズム叩きやリズム唱をする事でも、音の広がりやリズム感、拍子感、イメージを膨らませる練習ができます。

楽譜を見た時にどういう形式で出来ているか、

どんな構造になって作られているかを大まかでもすぐ感じとれる力が大切です。私の方法としましては、今まで弾いた事も聴いた事もない曲を5分程度目読させた後、記憶した事を五線譜上に書きとらせませす。初めはA1やB級レベルの曲からがよいでしょう。子供は子供なりに知恵を働かせ、覚えるための方法を考えます。すると、次第に音型に注目し始めます。又和声の流れ、フレーズ、終止など自然に感じられる様になります。もちろん最初から完璧には書けませんが、ある程度書けたら紙を取り上げ又楽譜を渡します。また黙読させ、先程書けなかった箇所や記憶出来なかったところをしっかりと見直し、2分後に本を閉じて返された五線上に書き加えてゆくというやり方で完成させてゆきます。最初はただ音名とリズムだけを読んでいると思いますが、1曲を短時間の中でいかに正確に記憶するために、どうしたら覚えやすいかという知恵と共に自然に色々な事を学んでいきます。そして構造を理解できる様になると、楽曲の分析をする力がついてきます。はじめは少々音の間違ひはあっても、曲の大きな流れをつかむ練習としてもよい方法ではありますが、次にミスの多い子供にとっては、少々音の間違ひにも特にこだわって記憶させ直すと効果的です。また練習中の楽曲のミスの多い所を記憶して書かせるのもよい方法です。

ルバートについて思う事

楽譜に書かれた音価を正確に演奏する事は当然ですが、その音楽がより自然な流れをもつた

めに楽曲の至る所にルバートが必要となってきました。例えば

- ・フレーズの中で自然にルバートの欲しいところ(例えば声に出して歌ってみるとわかる)
- ・音程が随分離れた音に跳躍する時
- ・言葉のイントネーションの様に音楽のイントネーションとして必要
- ・いくつかの音が混じり合う瞬間を感じたい時
- ・フレーズとフレーズの間
- ・ダンスの動作として必要なもの
- ・強調したい部分

等に必要となります。もちろん作曲者のもつ個性や時代的なもの、楽曲そのもののタイプを考えつつ、あくまでも音楽の流れが不自然になる事なく、音楽全体のプロポーシオンを損なわない事が大切だと思います。またルバートの扱いは演奏者のセンスを物語るものですし、その扱いのよし悪しで音楽のクオリティーを左右する事になります。そのセンスを磨く為に、声楽曲や管弦楽曲を聴く事をおすすめします。それにより息の遣い方や、音を出す準備のための間を知る事、そしてバレエやダンスを見てステップのイメージがもてる事などもヒントになるでしょう。

ポリフォニー

中級になりますと三声が入ってきます。二声のものは何とか弾けるのですが、例えばシンフォニアの様に三声が入って来るとかなり演奏が難しくなってきます。頭の中で分析・理解していても、音に出して表すにはどうすればよいかが大きな問題となってきます。各声部が独立した主張を持ちながら一つの調和のとれた音楽をつくらねばなりません。私がピアノのレッスンで行っている方法は

(1) 楽譜上のアナリーゼだけでなく、それをピアノで弾いて確かめてゆく。例えばテーマのフレーズをピアノで弾き、次に同じ形のフレーズをさがす。それは何調になっているか、あるいは

応答ならば変応している音も注目して、本来ならばどの音になるのか等話し合いながら、実際ピアノで弾いて音で理解させる。同様にして対唱や経過句、カデンツ等も音で確かめていき、それぞれにどんなイントネーションを付けたいか、アーティキュレーションはどうするか、子供達と相談して決めます。

(2) 三声を組み立てる前に二声ずつの練習を徹底します。(イ) Sop. と Alt. (ロ) Alt. と Bass (ハ) Sop. と Bass のグループに分けます。(ハ) は一番簡単ですが Alt. の入る(イ)と(ロ)は難しいです。Alt. は右手と左手で一声をあたかも一つの手で弾いているかの様に演奏しながらも、もう一つの声部を弾かねばなりません。その二声がそれぞれのイントネーションをもちながら、例えば主人公と相手役等としての主張をさせながら同時に二声で弾いていくのです。これは同時に二声を聴き分ける力をもつという事になります。また一声を弾いて同時にもう一声を歌う(ボカールで)のも、それらを強化するよい練習です。例えば上声を弾いて中の声部を歌うという方法も可能です。そして三つの組み合わせによる二声の練習が出来たら三声にしてみます。ここまでくると耳は開いてきているので、三声共聴きわけながら弾く事が出来るものですが、上手い出来ない場合は二声を弾き、もう一声を同時に歌うことをするとよいと思います。こうして同時に二声の独立、三声の独立というのはある種の脳の働きや神経を開発する訓練が必要になります。予備練習として使えるものとして

(A) ポリフォニーの体験

1. メロディーオスティナートと他のメロディーとの組合せ
 - ・バルトーク：ミクロコスモス No.48、61、74、125etc.
2. 二声、三声の曲を一声は歌い他の声部は同時に弾く
 - ・バルトーク：ミクロコスモス No.22、23、25、28、31、39、50、57、81、123

3. 連弾等のアンサンブルの体験

・楽曲を用いて二重唱もしてみる。タイミング、呼吸も勉強できる。

4. 二重唱 聴き合いながら2人で歌う。

・レッスンの友社 嵐野英彦著「やさしい二声旋律聴音」

・全音楽譜出版社 田村徹編著「二声聴音 351」

・学習中のポリフォニーの曲

(B) ポリリズムの体験

1. 動作のカノン 2人以上で

2. リズムカノン 2人以上で 又は右手と左手

3. リズムオスティナートと視唱 又はリズム叩き

・バルトーク:ルーマニア民族舞曲 No.6

・ショスタコビッチ:24のプレリュードより No.19

4. 二声のリズム叩き 右手と左手で 2人で

・音楽の友社 鈴木英明著「基礎と応用によるリズム練習」等

これらを実践することにより、多声を聴き分けられるように耳が開き、その各々の音色やインテンションやキャラクターを同時に弾き分けられる能力を養い、神経を開発する働きを促進すると思います。

バルトークのマイクロコスモスは各曲が非常に独立して主張がありポイントが一つに絞られていますので、ソルフェージュの教材としてよく利用します。また左記の教材も利用の仕方は工夫次第で色々な教材になりますし、連弾の曲の右手同士のパートを2人で歌って息を合わせるタイミングを会得させたりしています。

コンチェルトにしても、オーケストラは弦楽器や管楽器が息を使う部分がありますので、ピアノもそれに合わせなくてははいけません。また子供達が調性音楽以外の旋法で出来ているものや、全音音階でできている音楽に小さい頃から親しむ事は大切です。昔の子供は随分大きくなるまで調性音楽ばかり弾いてきたので、ドビュッシーやバルトークの音楽が気持ち悪くて受けつけられないという例がかつてありました。今は近現代もロマンもバロックもクラシックも最初から取り入れられますので、それがどんなに大事なことから身をもって実感しております。

また素晴らしいピアニストの演奏を聞きますと、様々な楽器が聞こえてきてまるでオーケストラを聴いている様に思えます。それぞれのパートが独立しながら一つの大きな音楽を作り上げているのです。二声や三声の訓練もこの時期からきちんと行う事が大切なのです。



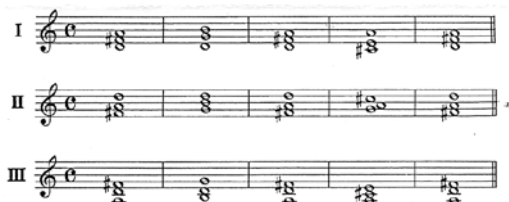
▲バルトーク:No.128 田園舞曲



▲ショスタコビッチ:24のプレリュードより No.19



D dur- (ニ長調) のカデンツ



ハーモニー

和音聴音の導入として、この和音の中にどんな音が含まれているかを1音ずつ抽出して聴く方法をとっています。つまり一つのかたまりを分離して聞かせる様にしているのです。この方法をとるようになってから、行き詰まっていた子供もどんどん答えられる様になりました。1つのハーモニーの響きを構成している音が、1つずつ理解できるという事は演奏する上でもとても大切な事です。楽曲中の和音の構成音が次にどう動いていくかや、どういう和音に移ったかという事を理解する耳が必要です。ピアノのレッスンでも和音の部分を取り出してアルペジオで弾かせてみることにしています。そうすると構成音を耳で理解する事で充実したハーモニーの響きに変化するのです。また和声感を身につけなければいけません。楽曲中それぞれの部分がどういう和音に支配されているかという事を、頭の中の理屈だけで理解しているのでは演奏に現れてはきません。それを感じる心と耳をつくらなければならない訳です。

その開発する方法

1. 和声聴音を音で書き取るだけでなく和音番号でも答える。音楽之友社 岡坂廣紀・呉曉共著「和声感をつける聴音」
2. カデンツを体験する、弾く、歌う(3、4部合唱) 東京音楽書院 佐々木基之編著「カデンツから入るスクールコーラス」
3. 楽曲の和声の進行を感覚でとらえられる様にする
4. 長三和音、短三和音、属七、減七等の和音

諸園 涼子 作詞 春の踊り W. A. モーツァルト 佐々木基之 編曲

Tempo di marcia

Sop. I
Sop. II
Alto

1 は な よ り は な に と ひ か う ち ゃ う ち は
2 か す み の そ ら に と た う は ひ ば り

ひ ら ひ ら ひ ら と あ み お の は ら を
あ が れ よ あ が れ そ の は て に

の区別がわかる様にする

5. ドミナントからトニックへの感覚が「開く→閉じる」等感じられる様にする

1 では、一度聞いて記憶したものを弾かせるとだんだん和声の動きがわかってきます。

2 では、基になるカデンツが使われている合唱曲を、1人の場合弾いてみても感覚として理解できます。レッスンの時は必ずスケールとアルペジオやカデンツを弾かせていますが、カデンツは小さな子供の手でつかめる密集でできているものを用いることもできます。

3 では、例えばモーツァルトのバリエーションを弾きながら何度の和音が答えさせるようにすると自分の中で表現づくりをどうするか考えさせるヒントになります。

この様に最初は音の並びを見ているだけでも次第に和声感を持ち流れをつかめる様になれば理想的です。

ソルフェージュは演奏解釈のすべてをつくれるものではなく音楽の基本になるものであって、根底に必要であり重要なものです。その上に芸術的、哲学的、ドラマ性、イメージ等の+αにより演奏解釈がつくられるのです。



第3講座

楽しく弾ける プーランク

岡本 愛子先生

プーランクとその作品

プーランクはフランスではドビュッシー、ラヴェルに次ぐ代表的な作曲家でピアノ独奏作品を沢山残しています。ですが、代表的と言われる割には今までピアノ独奏作品があまり演奏されていません。今まで比較的演奏されるプーランクの作品は、例えば"2台のためのピアノソナタ"や"フルートのためのソナタ""ピアノとオーボエとバスーンのための3重奏曲"、少し規模の大きいもので"ピアノとフルートとオーボエとバスーンとクラリネットとホルンのための6重奏曲"などが比較的良く演奏されるものですが、ピアノ独奏曲で一番大きなものは"ナゼルの夜"という23分もある大曲で、休み無く最後まで演奏しなければいけないので大変です。しかし他の作品は割と小さく、とても魅力的なハーモニーとフランス的で洒落ていて、やさしい小品がたくさんあります。

プーランクは作曲の勉強をしてこなかったもので、1921-1924年に、ミヨーに勧められてシャルル・ケックランに師事し、対位法や基礎を学びましたが、この時期はプーランクらしい明るさ、明瞭さ、快活さなどの良さが失われていて、非常に複雑な作品を書いています。例えば、1921年の"散歩"という10曲からなる作品などは特に難しいのですが、1925年にミヨーと一緒にイタリアへ旅行した頃から、プーランクらしさが現れてきたようです。

その後プーランクは第2次世界大戦に召集されましたが、帰還した頃からの作風というのが大きく変わっています。"モンパルナス"(アポリ



ネールの詩による)"という歌曲は1941-1945年に作曲されているのですが、ピアノ曲でいうと1940年に作曲された"メランコリー"あたりから、悲しげでどこことなくやさしい雰囲気を持つ作品を生み出しています。戦争が人間に与える影響というのは図り知れないものがあるようです。

常動曲について

常動曲第一曲目は1918年作曲されましたが、プーランクは1899年生まれなので、19才に作曲したことになります。左手が同じ音型を繰り返し(日本でいうところの無窮動)、右手が親しみやすいメロディーで始まりますが、突然不協和音のような思い掛けない音が入り、非常に独創的な音楽になります。プーランクはこの曲で一躍才能を認められ世に出ます。プーランクはとても手が大きかったので、9度や10度がしばしば出てきます。3つの常動曲の3曲目は私でも手の届かない所がありますので、分散和音で弾いたりしま



▲3つの常動曲より冒頭～6小節目



すが、1曲目は真ん中に9度があるだけで他は分散和音ですので、比較的弾きやすいと思います。

さてフランス音楽を弾く際、皆さんが一番困るのはおそらくフランス語による指示でしょう。1曲目の最初にあるのは"アセモデレ(Assez modéré)"でこれは molt moderato、つまり中庸の速さでという意味です。下に書かれている"En général, sans nuances, beaucoup de pédale"というのは沢山のペダルの中でニュアンスをつけないで、という意味です。

プーランクのペダル表現は2通りあって、1つは沢山使ってぼやかすもの、もう1つは"セック"といってスタッカートを短く切る所では全く使わないなど両極端です。この"セック"というのは"乾いて辛口な"という表現(白ワインの名称に使われるセックと同意語)です。

この曲ではたくさんペダルを使っていて2段目の"en dehors"は"メロディーを出して"という意です。下の段の"doucement timbré"は"柔らかく音を響かせて、それから右ページの"incolor et toujours p"というのは"無色で(アンコロレ)いつもピアノで"という意です。あまりベタベタした感じで弾かないほうがプーランクらしい表現になります。そして最後の"ralentir en pesant sur la main droite"は"だんだんゆっくりして右手を押さえるように"そして最後の"Très lent"非常にゆっくり"という意味です。

パストゥレル(1927年作曲)について

これはルービンシュタインがよく好んで演奏し

たもので、愛らしい性格を備えています。パストゥレルというのは"羊飼いの少女"という意味です。よく似た言葉でパストラーレというのがありますがこれは"田園風の"という意味でスペルが違いますので、混同しないよう気を付けてください。

もともとこの曲は"ジャンヌの扇"という子供向けの10曲からなるバレエ音楽の1つで、10曲ともそれぞれ別々の作曲家が作っています。ラヴェル、イヴェール、フェルー、ローランマニュエル、ドウラノア、ルーセル、ミヨー、プーランク、オーリック、フローラン・シュミットです。これはオーケストラ作品でしたが、後にピアノ曲に編曲されました。大変素朴で洒落ていて、愛らしい作品ですね。

"モデレ""モデラート"という意味、"サンラントゥ""あまり遅くならないで"という意味です。ここはテンポ表示126ですのであまり遅くならない方が良いでしょう。3段目で"ルシャンビアンアンドゥオー"は"歌を良くだして"という意味です。右の"ビアンストゥニユ"十分に音を保って"、3ページ目は"トレクレア"はピアノですが"非常に明るい音で"、下の所のメゾフォルテのコーダの所は"トレセック""ペダルなしでくっきりと"短く乾いた音で弾くと良いでしょう。最後のフェルマータについている"ロング"は"長く"、フォルテも"セック"ですからペダルを使わず短く乾いた音です。

※当日はその他、ワルツ、ノクターン、村人たち(子供の小品)、即興曲を取り上げられましたが、誌面の都合上割愛させていただきます。何卒ご了承下さいませ。

CD Information

Francis Poulenc 「ナゼルの夜」～プーランク作品集～

岡本 愛子(ピアノ)

ナゼルの夜 / メランコリー / 15の即興曲集
パストゥレル(「ジャンヌの扇」より)
エモレスク～ワルター・半セギンギに捧ぐ～
オーヴェルニュ地方のプーレ～マルグリット・ロン夫人に捧ぐ～
村人達～子供のための小品集～

ALCD-7078 税抜価格 ¥2,900

発売元・問合せ: コジマ録音
Tel: 03-5397-7311
Fax: 03-5397-8223

先行予約
受付中!

連載
14

ニューヨークの教育現場を視察して

久方振りにニューヨーク(以下 NY)を訪れたという平間百合子先生。ジュリアード音楽院プレカレッジの教育現場視察、マンハッタン音楽院学生との語らい、そして NY 在住のピティナ国際委員との

出会い。

海外視察旅行は時に、自分の足元を振り返る機会になる。今回は平間先生の NY 視察旅行の一部をご紹介します。

ジュリアード音楽院プレカレッジを訪ねて

海外に出る時は、なるべくコンサートやレッスンに足を運び、美術館を訪れるなど芸術的刺激を受けたいと機会を求めてまいりましたが、今回の NY 訪問では、それ以外にピティナのご紹介で素晴らしい先生方との面会が実現致しましたのでご報告させていただきます。

4月26日、ジュリアード音楽院プレカレッジのアントニオ・フェルミン教授のレッスンを見学させて頂きました。「音楽教育は人格を育てるもの」というポリシーの元に、穏やかなレッスンをしていってました。11歳になる生徒のアニータさんは、日本では小学5年生か6年生ですが、ジュリアード音楽院の試験に向け大きなレパートリーを用意するため、8回ものコンサートを控えていました。勉強している曲のレベルは、ピティナのE級以上、量はG級程の曲の多さでした。日本ではリサイタルやコンチェルトを自主的に開催するには負担も大きく難しい現実がありますが、このコースはカーネギーホールの若手支援プログラムを受けているそうです。たしかに恵まれています、日本でもピティナのコンペや室内楽研修、コンチェルト、ステップ等、多に場を利用して経験を積むべきと感じました。また結果を求めすぎず、ピティナを勉強の場として活用して、小学生くらいから能力のあるお子さんはレパートリーを広げ、才能を伸ばしていく必要を感じました。

この日アニータさんにはご両親が同伴されてましたが、フェルミン教授は5分ほどで退室を促されました。子供達が親を意識しすぎてビクビクしすぎないよう、教師と話しあったり冗談を言い合ったり心を開けるようにとの配慮だそうです。

普通の学校に通いながら1日5時間以上も練習するというアニータさん。毎週土曜日はピアノレッスンのほか、ソルフェージュ、理論、コーラス、副専攻楽器のレッスン(バイオリン)も。「今弾いている曲がベストです!」ときっぱり言い切る姿が印象的でした。

せっかく小さい時から4期にわたり、ピティナの良質な課題曲を学んで伸びていった才能が、小学校高学年から中学校と部活や塾に追われて、音楽が後回しになりがちなの日本の現状を、少し悲しく思いました。

NYで活躍中のピティナ指導者と元ピティナっ子に会う

4月24日、ピティナ国際委員の早水先生とお会いしました。新鮮に音楽を感じ、歌い踊ることの重要性を力説され楽しい一時でした。定期的に室内楽のコンサートをされていていらっしゃるのですが、今回は富豪邸のサロンだそうで、室内楽にぴったりと羨ましく思いました



▲アニータさんレッスン風景



▲カーネギーホールの前で。



◀アントニオ・フェルミン教授

▶国際委員の速水和子先生。NYで室内楽演奏会に定期的に出演。



◀カーネギーホール近くの有名なレストラン。カーネギーデリにて友人と私



た。また早水先生は、新曲の録音等もされているそうで、あるエピソードをご紹介下さいました。なかなか作品が仕上がらず、その後も変更が多く(私も悩まされた事がありますが)困ったので、「今度一音直したら1ドルいただきますよ!」と大笑いになったそうです。こうしたお話などはユーモラスで、NYに根を張って活躍なさる先生のご様子を垣間見た思いが致しました。ピティナ会員の先生がこのように海外で活躍なさっている事は私達に大きな夢や力を与えてくださいます。

もうお一人、マンハッタンスクールオブミュージック(MSM)で作曲を専攻する元ピティナっ子、仁科彩香さん(21)にお会いしました。MSMは音楽以外の授業はコロンビア大学で行われ 大学隣の寮は24時間練習が可能だそうです。緑豊かで勉強の環境も素晴らしいと感じました。この日、ユニセフのコンサートのオーケストラ作品の依頼を受け、連日徹夜という彼女に学

校周辺を案内してもらいながら、音楽や人生について話に花を咲かせました。

平和への祈りをこめて

私達夫婦にとって、アメリカは暫らく振りの滞在でしたが、街の人々も警官さえ、物々しいというより、相変わらずフレンドリーで安全で楽しい旅を終えてまいりました。沢山のコンサートに足を運ぶ中聴いた”ノーモア広島”という作品は、グランドゼロの衝撃的な跡地と、早朝から響く復興の工事の音が甦り、胸の中が一杯になり、涙がこぼれました。音楽家として平和のために出来る事を考えさせられました。いつも私達に勉強の機会を与えてくださいますピティナ、そしてその基礎を作られた福田靖子先生に改めて感謝し、ご報告とさせていただきます。



▲マンハッタンスクールオブミュージック前にて仁科彩香さん

平間 百合子

Yuriko Hirama

Profile

プロフィール

東京都出身。国立音楽大学付属小学校、中学校、高校を経て国立音楽大学器楽科ピアノ専攻。在学中に、ソロ、室内楽コンサート、期待される音楽家のタベ等に出演。米国で結婚後、仙台在住。リサイタル、コンチェルト、アンサンブル、声楽やオペラ伴奏、ジャズ奏者と共演など活躍。サロンコンサートを80回主催。指導者賞11回受賞。E級金賞、D級銀賞、C級ベスト賞、B級銅賞、A1級金賞、銅賞、デュオ奨励賞、コンチェルト奨励賞など、門下生多数が全国決勝大会に出場。



連載
26

ソフィア国際音楽祭に参加して

ソフィア国際音楽祭に参加した大塚純子さん。腕の痛みに不安を感じながらも、本番に向けて徐々に集中力を高め、ラフマニノフ協奏曲 No.1 を見事に弾ききった。2 度目の東欧訪問となった今回、緊張感と大役を果たした達成感の伝わるレポートをご紹介します。お母様で会員の大塚京子先生の随伴記もお楽しみ頂きたい。

▶ブルガリアホールにて演奏中



出発直前に襲った腕の痛み

この度、ブルガリア・ソフィアにてラフマニノフのピアノコンチェルト第 1 番を演奏させて頂く機会がありました。出発の 10 日前から腕を痛めてしまい、全く弾くことすらできない日も何日かあり気持ちはあせるばかりでした。練習もままならない状態で出発の日を迎え、成田からウィーン経由でソフィアに着き、翌日からブルガリアホールでの練習とリハーサルが始まりました。何日か振りにピアノを弾き、自分の演奏に愕然としてしまいましたが、旅行の疲れからか痛みはますますひどくなる一方でしびれまできて、ついには感覚もな

くなるほどでした。でも周りの方々が交代でマッサージや荷物を持ったりと協力して下さり本当に感謝の連続でした。

作曲当時の若きラフマニノフをイメージして

このラフマニノフの第 1 番のコンチェルトはあまり演奏されることはないのですが、彼が若き青年の時に作曲した作品で、壮大さ、広がり、軽快な動き、情熱的な重音、魅惑的な美しい旋律、断固としたリズムなどラフマニノフ独特の旋律とハーモニーを持っています。練習があまりできないのでイメージをふくらませ、これらのことを自分なりに表現し、今自分にできる精一杯のことをしようと思いました。拍子がいまぐれしく変わる部分が多く、

ブルガリアのオケと楽しんで共演

始めのうちはオケともあまり合わなかったのですが、日を追うごとに合うようになりました。また、東欧圏のオケの最後の追い込みの集中力には驚くばかりでした。ソフィアに着いた当初は少し気落ちしていましたが、本番の日には心配していた腕の痛みもさほど気にならない位まで回復し、何とか最後まで集中して、また楽しんで演奏するこ



▲ブルガリアホール入りのポスターの前で

＜随行記＞ 大塚京子(母・ピティナ正会員)

ブルガリアの首都ソフィア。街の中心部から1 kmの範囲内に、ソフィア大学、大使館、国会議事堂、ネフスキー寺院、ニコライ・ロシア教会、オペラ座、ブルガリアホール、国立美術館、旧共産党本部、数々の教会が並ぶ。ヨーロッパとアジアが融合した不思議な都市である。この街で行われるフェスティバルに娘が出演するため、5月28日より6月4日までブルガリア～ウィーンの演奏旅行に随行した。

5月29日(木) 朝市内にあるブルガリアホールまで徒歩で移動。コンサート主催のヨルダン・ダフォフ氏(前ソフィアフィル音楽監督、作曲家、指揮者)およびカルニック・アジミヤン氏(ソフィアフィル副ディレクター)と出演者4人のオケ合わせと練習のミーティングをする。今回彼女以外はすでに演奏家として活躍している方々と分かりプレッシャーを感じる。かなり歴史のあるホールで3階席を含めて1300席。

6月1日(日)午後7時の開演2～3分前には2、3階席もほぼ埋まる。4曲目が彼女の出番である。ラフマニノフ「ピアノ協奏曲1番」4日間ピアノを全く弾けず、痛みを我慢してのトリの出番を前に、私の心臓はドクドクと激しく鼓動を打つ。ゲネプロでもまだ腕が痛そうだったが、条件が悪いにしてはよく弾いた。しかし最終楽章あたりはやはり30分間という時間が持たないのか?と思う

たが、力を振り絞って弾いている姿がお客様に伝わったのか数十人(?)からブラボーの声が響いた。3回のカーテンコールの末、この日の全プログラムを終了した。

後日ソフィア・フィルハーモニック協会会長のペーター・ショポフ博士より、「強弱とリズムの豊かさ、そしてまるで歌うがごとく各楽章のゆっくりした部分、ロシアの音楽に特徴的な輝かしいテクニク、大きく広がる情緒性は彼女が芸術家として持つ最高のものを表現する機会を与えた。」と評価を頂いた。

滞在中は、ユネスコの世界文化遺産に登録されているリラ僧院や、街の中心部にあるゲオルグ教会へも足を運んだ。特にゲオルグ教会は、2階席の聖歌隊の美しい歌声と天井まで続くフレスコ画に心を魅せられ敬虔な気持ちになり、こみ上げてくるものがあつた。これが音楽の原点だと。

ありきたりの言葉かもしれないが、音楽はグローバルな共通語であるということ。それを今回あらためて認識した。ブルガリアに乾杯!!



▲終演後出演した皆さんと

とができました。演奏後、在ブルガリア日本大使の方より花束を頂き大変恐縮しました。もちろん、演奏に関しても反省点はいくつもありましたが、こんな素晴らしいホールで外国の方々の嵐のような拍手を頂き、オケと共に演ずることができて何て自分は幸せなのだろうと思いました。このような機会を与えて頂き、お世話になった方々や先生方に感謝するとともに、この貴重な経験を生かして努力を続けていきたいと思います。

大塚 純子 Junko Otsuka

Profile

おおつか・じゅんこ◎東京音楽大学大学院2年在学中。'93ピティナピアノコンペティションD級全国大会ベスト賞。'01同アカデミック部門最優秀賞。'89大阪シンフォニカーと協演。'90西ドイツ、'96ブラハ研修。'94全日本学生音楽コンクール中学校の部入選。'99日本ピアノコンクール特級2B部門全国大会第2位。'01日本クラシック音楽コンクール大学の部全国大会審査員特別賞。現在、播本三恵子、長川晶子各氏に師事。



宮崎支部・宮崎北連絡所

20年にわたって模範的な活動を続けてきた宮崎支部と、宮崎支部の応援のもとで昨年から連絡所の活動を開始した宮崎北連絡所。ピティナへ

理解の深い先生方が集い、充実一途の宮崎県と言える。(取材日:2003年6月20日～6月21日)



▲宮崎支部事務局長 谷口俊幸氏。
(株)西村



▲宮崎支部運営委員長 漆原好美先生



▲宮崎支部長 池田達信氏。
(株)西村代表取締役社長

I LOVE PIANO

宮崎支部には「ピティナを使いたおす」という表現が似合う。コンペティション・ステップに加えて、入賞者記念コンサート・ピアノ指導法の講座・トークコンサート・支部総会など、ピティナに関わるイベントが月1回以上のペースで開催されているほか、実年教室やバスターンの教材研究サークルも展開している。ピティナの全部門を制覇しているといっても差し支えないだろう。その行動力は、会員の先生方と事務局(西村楽器)の強い信頼関係のもとで築かれてきたものである。今回は、コンペティション地区予選が終了した直後というのに、西村楽器社長の池田達信氏(宮崎支部長)・谷口俊幸氏のほか、支部運営委員長の漆原好美先生をはじめとする13名の先生方が、支部の歴史が凝縮されたイベントのプログラムや写真を持ち寄って、取材に応じて下さった。

運営は全員体制で進められている。たとえば、藤野和子先生・吉野なほ先生を中心とする広報担当は、協賛や後援取得が専門。県教育長賞、全日空賞(宮崎・東京間往復ペア航空券)、

NHK 宮崎放送局長賞、読売新聞社賞、宮崎観光ホテル賞など、褒章を下さる数多くの団体名は、先生方が足繁く通った結果、得られたものである。古澤静子先生は、1995年から支部オリジナルの会報を編集し続け、60号を数えるに至っている。そのほか、コピー代の10円さえおろそかにしない会計や、イベント等で使った書類の完璧な保管に加え、余った輪ゴム1本から不要となったチラシの裏面の再利用に至るまで、ピティナ創設者、福田靖子先生のような徹底した儉約の姿勢も浸透している。

「福田靖子先生は、平成元年(1989年)12月以降、4回ほど来県しました。初めての支部総会は西村楽器店から2名・指導者が4名、と



▲ピティナ宮崎支部の皆様



▲延岡地区予選での1シーン。「よく作ったわね!」根岸佐知先生(写真中央)がパソコンを駆使して作った特別賞の賞状を見て感嘆の声を上げた宮崎支部の先生方。

▶延岡地区予選ではケーブルテレビの取材が入り、十数回放映された。



▲延岡は高千穂鉄道の起点である。終着駅高千穂へ着く直前に、水面から105メートルという、東洋一高い鉄橋を渡る。



いう規模でスタートしましたが、『良いものは残る』という福田先生の言葉を信じて、地道にピティナの紹介を続けてきました。」と、設立当初からのメンバーである山村由美子先生が振り返る。

ユニークなのは、支部オリジナルの文具を制作していることである。「I love Piano」というロゴの入った便箋やハガキは、パステルカラーですっきりとしたデザインにまとめられ、センスに溢れている。良いアイデアをすぐに実行に移す先生方の意欲は、これからも全国レベルでの話題を提供して下さるに違いない。

気配りの行き届いた延岡地区予選

宮崎支部を取材した翌日、延岡市総合文化センターにて、宮崎北連絡所による初めてのコンペティション地区予選が開催された。

宮崎北連絡所は、昨年(2002年)6月に設立。ステップを中心に活動してきた先生方が、県の北部にもピアノ指導者が集う組織を発展させたい、との願いのもとに結束を固めた。発会記念として、本部組織委員の熊谷洋先生と迫田時雄先

生によるセミナー・レッスンを立て続けに開催。

代表の根岸佐知先生は、もともと宮崎支部の運営に携わっていただけに、イメージが豊かである。予選会場のステージには副賞のトロフィーや盾がズラリと並び、地元のケーブルテレビが取材に入った。会場に到着した審査員におしぼりが出されたり、審査グッズ一式を会場へ持ち運ぶためのプラスチックケースが準備されていたり、細かい配慮が行き届いている。宮崎支部からは、漆原先生をはじめ、6名の先生方が応援に駆けつけて下さったが、先輩支部が新設連絡所の運営に協力するという、他の地域には無い親密な友好関係である。

コンペティションは27周年を迎え、予選の参加者が前年比約110%という伸びをみせている。かつて参加者だった先生方が生徒を出して下さる時期になったということであろう。同様に、各地の組織も、ピティナの理念を揺るがすことなく、新しい世代に受け継がれ、拡大しつつあることを実感する宮崎訪問となった。

(本部組織委員会:堀 明久)

連載
8

聴くことは、表現である

「悔しい思い出があってね…」今回登場の音楽評論家、真嶋雄大氏。今から遡ること30年、大阪万博開催の1970年に、大好きだった指揮者ジョージ・セルがクリーヴランド管弦楽団と初来日した。「僕はまだ高校2年で、東京公演は日程が合わず地元から大阪までは遠かった。当時セルは70歳で、その頃の指揮者はたいいてい長生

きだったから『また来るだろう』とその時は泣く泣くあきらめたのです。ところがね、日本公演から帰って急に死んでしまった。この時、コンサートは一期一会のなまものだ、と痛感しました。」それ以来、『その時聴けるコンサートは聴こう』と決意した。

「あんなの聴いたことがない!」を伝える仕事

「CDと違って、コンサートは1回きりなので、演奏者・プログラム・会場がまったく同じだったとしても、同じ演奏は二度と聴けない。さみしいことに、その会場に来た人だけにしか良さがわからない。僕らの責任は、良いところをしっかり文章にして伝えることだと思っています。」感動の伝達に触れて、次のコンサートを聴いてみようと思者が思ってくれば本望だと言う。

最近感動したピアノのコンサートは、「ダントツで、昨年11月に聴いたリフシツ」と力強く断言。「ポリーニ、ツィメルマン、ラローチャ、プレトニョフ…」と、大家もたくさん聴いた中で、リフシツが鮮明に蘇ります。オールシューベルトプログ



▲「生の演奏会は、再現不可能な特殊な空間。その中で、演奏家とコミュニケーションをとるというのは非常に貴重な体験です」

ラムでしたが、これまでにあんなの聴いたことない、と言うくらい歌が全くちがう。たとえば、即興曲第3番変ホ長調。スピードがあって、淀みがなく、歌をうたっていて…とにかく吃驚しました。遺作のソナタも秀逸で、ピアノニッシモが力強く、きれいで透明。思わず涙が出そうでした。」そのほかに注目しているピアニストは、「アンデルシェフスキにガブリリユク。この若手3人は楽しみです」。

背中にゾクゾクくる感動

小学6年生頃から『レコード芸術』を毎月欠かさず読み、昼食を抜いたり親をだまして(!?)貯めたお小遣いでLPを集めた。高校時代には作曲をし、自作曲の指揮もした。そんな青春時代を過ごし、家業に従事した時を経て、現在音楽評論家として活躍する。

「音楽の仕事だけは、妥協しようという気が起こらないんです。背中に戦慄が走って、ゾクゾクとする、涙が出る、全身が震える、雷に打たれたように感じる…そういう感動が音楽以外ではなかった。例えばスポーツも好きですが、ワールドカップで日本が勝っても、我が阪神がもし今年優勝しても、興奮はするけど、音楽ほどの"感動"はない。"背中の戦慄"を得るのは音楽だけ、それもクラシックだけだった。」

自分の色を確立する

『聴く』という行為は決して受動ではなく、聴くこと＝表現である、と論じる。

「署名記事ではなかったのに『あなたが書いた記事でしょ?』と言われたことがあって、それが嬉しかった。人間には表現したいという欲求があるのだと思いますが、表現において大事なのが自分の色を持つことだとしたら、同じことは、聴衆にも言えると思います。」

「『100枚のレコードがあれば、100人のファンがいる』と言うように、聴衆にも個性がありますから、まずは、人に左右されない自分の好みを確立してほしい。時間はある程度かかりますが、たくさん聴くうちに好き嫌いがわかってくるので、好きなものを選択しながら聴いてほしい。ピアノを弾いている人であれば、なおさら、意識の確立は演奏に刺激をもたらし、影響を与えるだろうと思います。」

ピアノは右側の席で

ライブ演奏の場では、演奏家を見るのも勉強になる。

「ピアノの場合、お客さんは指の見える左側の席に集中しますが、実は、あまりこれはお勧めしませんね。音自体は上に飛ぶし、ピアノの蓋があるから右へ飛ぶ。指の特性は演奏家によって体の大きさも違うから、ホロヴィッツやゲールドがどう弾いたかなど、もし見たとしてもあまり意味がないと思うんです。人間は、聴覚より視覚の方が強いから、指に目を奪われて、肝心の演奏が印象に残らないかもしれない。それより、右側からペダルを見る方が勉強になりますよ。——ドレスに隠れてなかなか見えないんですけどね!」

見て参考にするなら、演奏家の目、そしてペダルの踏み方を要チェック・・・今度リサイタルに行く時は、ぜひ右側の席を選んでみてはいかがだろうか。新しい発見があるかもしれない。

(取材・文／小里 歩)



◀一番好きなピアニスト、リパッティのコンチェルト

▶CD: セルとゼルキン、「お互いの個性は異なるのに、面白い演奏」。



▲この秋のおすすめ、エフゲニー・キーシンとエリソ・ヴィルサラーゼ。

真嶋 雄大氏 Yudai Majima

Profile

まじま・ゆうだい◎ 1953年甲府市生まれ。5歳からピアノを習い、中学から作曲を学ぶ。高校では合唱指揮者を務めると同時に高校オーケストラに管弦楽曲を提供。73年には『ソプラノと和洋合奏のための変容』を発表、自ら指揮して注目される。1991年より地元紙等で執筆活動を開始、またFM放送でクラシック番組のDJを務めた。ピアノや室内楽を主な核としながら、「音楽の友」を中心に、「ムジカノーヴァ」、「カンパネラ」等の各誌で連載、執筆活動を続けている。共著に「ピアノとピアニスト 2003」、「弦と管打楽器 2004 (03年刊行予定)」(共に音楽之友社)



連載
6

リンク集

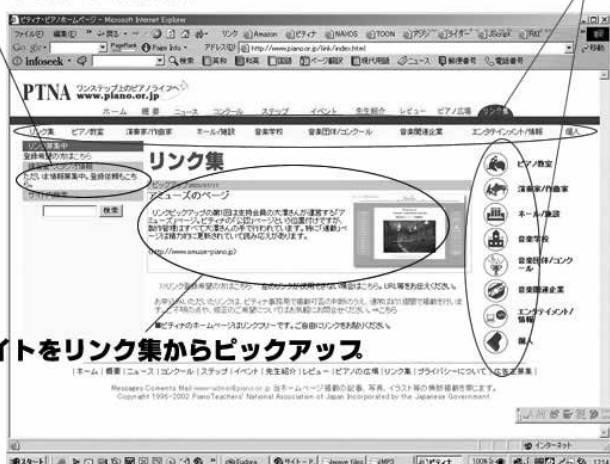
今回で紹介するのはリンク集。リンク集はたい
いのホームページにあるコーナーだが、ピティナ
のページにおいてはかなり大きなポジションを占

えている。リンク情報を重視することによって、情
報の集積地としての役割を明確にしたいと考えて
いるためだ。

8つのジャンルを設定。更にページごとに分類も

新設の「練習室・スタジオ情報」

注目のサイトをリンク集からピックアップ



▲リンク集のトップページ。2003年7月から「ピックアップ」コーナーを新設。

分類の工夫

ピティナのリンク集は、集まってくる情報を8
つのカテゴリに分類している。1つ目は「ピアノ
教室」。会員、一般の方を問わず、ピアノ教室
のホームページをお持ちの方から依頼があれば、
掲載を行っている。ピティナのページにアクセス
する客層を反映し、情報の掲載量も閲覧数も最
も高い。2つ目は「作曲家・演奏家」のコーナー。
こちらはピアニストのみならず、様々なジャンルの
演奏家のホームページを掲載。その他ホール、
音楽学校などのカテゴリがある。リンクはメール
による登録依頼によって追加されるほか、管理者
が発見し、有益な情報であると判断した場合にも、
登録をおこなわれており、日々情報が蓄積されて

いる。

さらに、各カテゴリのページでもかなりの情報
量があるため、目当ての情報が見つけ易いよう
に工夫している。例えば「ピアノ教室」では地域
別、「音楽学校」では学校の種類と地域別、「個人」
では50音順にしている。最近、「演奏家」のペー
ジを地域別の表示から楽器別に変更した。情報
の整理と編集には時間がかかるが、使い勝手を
重視し、今後も良い分類法を探り、採用してい
く予定だ。このあたりは、改善に向けて特に意見
を伺いたい部分である。

リンク集の位置付け

最近、ピティナのホームページもピアノ関連の



◀「演奏家・作曲家」のページ。こちらは演奏する楽器の種類別の分類を採用。



▶「ピアノ教室」のページ。ピアノを習いたい方が利用することを想定して地域別表示している。



サイトとしてはかなり規模が大きくなり、アクセスも増えつづけているため、様々な情報が集まる場所になってきた。最初に書いたように、情報の集積場所としての役割を果たすため、現在リンク集の位置付けはかなり重いものになっている。ピティナのホームページ立上げ当初は「概要」コーナーの奥底にひっそりと存在したページだったが、その後2002年の6月ころには「コンペティション」「先生紹介」のようなピティナHP内の人気のサイトと並んで1コーナーとして独立。更に、2003年7月には大幅なデザイン変更と情報の再編集を行い、使い勝手を増している。その一方で「練習室・スタジオ情報」のようなリンクそのものでは無い、施設情報ページの整備も開始。

実用的な情報の集積地としての機能追加を狙っている。リンクの登録は日々行っているの、度々チェックしていただければ、新しい発見があると思う。また、ご自分のホームページを作った方はぜひリンク集への掲載をお願いしたい。一件ずつ、そのページの魅力が伝わるような紹介を心がけていくつもりだ。

實方 康介

ピティナ本部・ホームページ担当
jistikata@piano.or.jp

※記事に関する感想はメールで頂ければ嬉しいです。



楽しいピアノレッスン&
発表会のために

ポピュラー

19



佐土原 知子

会報編集・広報委員・ステップ
実行委員

アツという間に今年も盛夏となりましたが、昨年の今頃は、数千冊の楽譜の山からポピュラー課題曲を選出するという、気の遠くなるような作業に追われていました。

そして今はこの課題曲 122 曲の中から特に聴いていただきたい 57 曲をピックアップして、「ポピュラー課題曲CD」を制作しているところです。録音中は空調その他の音が入るのを防ぐため、猛暑の中冷房無で朝から晩まで録音!(ダイエット効果満点?)という過酷な条件で、ピアニストはじめ関係者一同の、文字通り汗の結晶となりそうです。9月上旬には発売予定!ぜひこの連載の文字だけではお伝えできないニュアンスを、耳でお確かめ下さい。また課題曲セミナーも続々予定しております。こちらも具体的に演奏&指導のポイント等ご紹介しますので、多くの方のご参加お待ちしております!(詳細は P.64、P.83 をご覧ください)

理論編&実践編



ピティナ・ピアノステップ ＜ポピュラー課題曲 3＞

基礎 1		
曲名	作曲家	出典
おもいでのアльバム	本多鉄磨	やっぱりすき!ピアノ教本 3
タラのテーマ(「風と共に去りぬ」より)	M.Steiner	大人のためのピアノ悠々塾 基礎編:レパートリー集
チム・チム・チェリー	R.M. シャーマン & R.B. シャーマン	ピアノ・パレード 3
シェリト・リンド(連 C)	メキシコ民謡	こども・ピアノ・ワールド 2



基礎 1

(CD収録予定曲)

「チム・チム・チェリー」

ディズニー映画「メリー・ポピンズ」の中の曲で、ジュリー・アンドリュース主演の、実写とアニメーション、そしてシャーマン兄弟の音楽が見事にマッチしています。ちょっとメランコリーな雰囲気を感じて、左手の半音階のラインを大事に、よく聴いて弾きましょう。(左手には書いてないコードの響きを感じながら弾くとよいでしょう)

Am G[#]aug C D

1 5 4 4

チム チム チェリー わまち

チム チム チェリー

1 3 1 3

バックに感じるコード

▲チム・チム・チェリー



基礎 1

(CD収録予定曲)

「シェリト・リンド」

メキシコの代表的な曲で、タイトルは“美しい空”という意味です。後半はラテンの3拍子特有の、バッキングが ♪♪ と ♪.♪. の2パターンが行き来すると考えると、リズムにのりやすく自然に流れるでしょう。あくまでも軽やかに、のびやかに、伴奏部がガチャガチャうるさくならないようにしましょう。

Allegretto (やや早く) ♩ = 168 - 180

I

Allegretto ♩ = 168 - 180

II

◀シェリト・リンド

基礎 2		
曲名	作曲者	出典
君をのせて	久石譲	サウンドファン・ピアノレパートリー CINEMA 1 (初級)
口笛吹いて働こう	F. チャーチル	ウォルト・ディズニーの人気者
「となりのトトロ」よりさんぽ	久石譲	バイエルでひけることもポップス/アニメ 1
チャイルド・イズ・ボーン(連 C)	S. ジョーンズ	ピアノで弾こう「ジャズパラダイス」



基礎 2

「君をのせて」

1986 年、映画「天空の城ラピュタ」で歌われた曲です。易しいアレンジのため、左手は全音符か2分音符となっていますが、コードネームを頼りに、たとえ左手は単音でも元のコードの響きを感じて弾いてください。また8ビートのリズムに合わせてテンポキープできるように、右手のメロディーもしっかりリズムにのって弾けるようにしましょう。

Moderato

Am Em/G F C/E

mp

1 3 1 1

▲君をのせて

バックに感じるコード



基礎 2

となりのトトロより「さんぽ」

(CD収録予定曲)

1988 年、映画「となりのトトロ」のオープニング・テーマ曲です。マーチのテンポで元気よく弾きましょう(但し、電子楽器等のリズムに合わせる場合は、6/8 マーチになります)。テーマに入ってから、左手の4分音符はノン・レガートで歯切れよく弾きます。またメロディーの ♪♪ は実際には ♪.♪. のリズムを感じて弾くとよいでしょう。

C G C G

8va

1 2 5 1 2 3 5

ある こう ある こう わたしは げん き

▲となりのトトロより「さんぽ」



「チャイルド・イズ・ボーン」

トランペット奏者、サド・ジョーンズ作曲による美しい3拍子のバラードです。子守唄を歌うようなやさしい気持ちで、ペダルを上手に使って和音の響きを十分に味わって弾きましょう。コードネームを頼りに、コードの響きと流れをまず確認してから、この伴奏形に直すと、より深く味わえると思います。

♩ = 65 - 80 ♩ = ♩

I (右手) *poco rit.* *a tempo* *mp* (左手) *mp* *poco rit.* *a tempo* *mp*

II *con pedali*

◀チャイルド・イズ・ボーン

尚、9/28(日)ピティナピアノ指導セミナー Vol.21 に於いても、クラシックの方にも入りやすい特にバラード系のものを中心に、ポピュラー課題曲に限らず(いち早く「クリスマスおすすめ曲」なども!) 広くご紹介いたします。レッスンや発表会で使える曲をたくさんお持ち帰りくださいね!(詳細は P.66 をご覧ください)なお開始 15 分前より BGM として、おしゃれなポピュラー曲の演奏も入る予定です。

活用編 & オマケ編

ポピュラー曲を中心とした
野外ステップ

2003.4.26(土)
習志野サンパデック正面広場(船橋支部)

108 曲中 55 曲がポピュラー!

前号で予告しました野外ステップですが、当日は天候にも恵まれ新課題曲(特にポピュラー)を中心としたプログラムを、2台ピアノ・電子ピアノ等によるアンサンブルも交えて、幅広い世代の方が春風にのって(というより強風に舞って?)演奏されました。当日の写真、レポート、感想等詳細は、

<http://homepage1.nifty.com/alamode/>
をご覧ください。



▲当日の参加者(一部)と記念撮影

当日のプログラムより

ミュージックスタジオ・アラモード生徒の参加曲例

上段 ... 課題曲、下段 ... 自由曲

アミューズ部門		
	曲名	学年
導入 1	バフ(連) ワン・ノート・サンバ(連+FD)	20代 (男性)
応用 1	ワルツ・フォー・デビー イエスタデイ(連)	30代
応用 5	私のお気に入り ダウン・タウン・ビート(FD)	30代
発展 3	いつか王子様が 「ハリーポッター」よりヘドウィグのテーマ(連)	大2
発展 3	イエスタデイ(ジャズ・バラード) リカード・ボサノヴァ(2台ピアノ)	20代
発展 3	浜辺の歌 幻想即興曲	大2
発展 4	酒とバラの日々 サテン・ドール(ピアノ+電子ピアノ)	20代
発展 4	イバネマの娘 すべての山に登れ(2台ピアノ)	20代
発展 5	星に願いを スター・ウォーズのテーマ(連)	30代
発展 5	二人でお茶を ディズニー・ファンタジー・オン・パレード(2台ピアノ)	20代
展開 1	おもいで 情熱大陸(連+FD)	20代

会場は大型ショッピングモールの入口で、しかも土曜の午後ということもあり、馴染みのあるポピュラー曲には大勢の人が足を止め、身体でリズムをとったり、一緒に歌ったりしながら聴き入っていました。特に印象的な曲には、演奏の合間や課題曲から自由曲に移る合間にも拍手が沸き起こったりと、野外ならではの自由な雰囲気にあふれ、ステップのまた新しい楽しみ方をアピールした1日でした。



▲電子ピアノと自作データとのアンサンブル / 発展4「サテン・ドール」



▲音に誘われてたくさんの観客が！

＜当日の演奏者＆観客の感想より＞

- ・お疲れさまでしたあ。運動会気分？も味わいつつ、決行となり無事に終了しましたね。風対策は万全でしたが、選挙カーの出現は予想外でした。
- ・連弾の方が弾いていて安心感がありますが、聴き手になってみるとやはり2台はビジュアル的な効果も手伝って迫力がありますね。
- ・ピアノステップの意義は、凍てつくような試験会場ではないのに、的確なアドバイスと評価をいただけること。また自己評価とそれほど相違がないことで意欲が湧き、自信につながっていくのではないのでしょうか。(R.S)
- ・鍵盤に、砂や落ち葉が舞い降りてきたり、虫が飛んできたり…。う～ん、ワイルド！そんなハラハラドキドキの一日でしたが、野外という貴重な体験ができて、とっても楽しかったです！
- ・今回より課題曲も変わったこともあり、どの曲も聴いて飽きませんでした。また野外でアンサンブルがたくさんあったので、視覚的にも楽しめました。あと、やはり一般の人もよく知っている曲は注目を集めたなあと感じました。(Y.O)
- ・風が強かったけど、暗譜していたのでよかったです。(M.S)
- ・電子ピアノを使っの演奏や連弾が華やかで素敵だった。(M.K)
- ・弾いていて虫が目の前を飛んでいたり、楽譜が飛ばないかなど、弾いている最中すごく色々なことを考えてしまっていました。外でピアノを弾いたのは初めてだったので緊張しましたが、今思うと楽しかったです。(M.T)

野外ステージということで、めったにないチャンス、天候はバッチシとは言えませんが、たくさんの人達の手で支えら

れてるんだなと思いました。ありがとうございました。ピアノも弾きやすかったです。マイクを通しての自分の音が観客にどのように聴こえているのか不安でした。(S.Y)

- ・強風で目にゴミなどが入ってきて、少し大変でしたが、屋外での演奏はめったにないことなので、とても気持ちよかったです。(S.T)
- ・先生、ならびに出演された皆様お疲れ様でした。強風、騒音、飛び交う虫の中さぞかし大変だったと思います。一部に出演された方々の演奏は、皆さんとても素晴らしく感動いたしました。特に、家では耳にすることのないジャズのピアノ。大人だな～と惚れ惚れしながら聞きました。(K.母)
- ・アラモードの生徒さんのカラーはやはりよそとは違うと思いました。特にリズム系の曲になるとアラモードはピカ1だと思います。(M.N)



▲「5 回表彰されました！」

密やかな世界

奇才グレン・グールドがショパンを弾かなかったことはよく知られています。グールドがショパンを嫌ったのは、おそらくショパンの作品の中に、曖昧でありながら誇張されたもの、過剰な装飾やテンポ・ルバートがあり、そしてそれらから来る芸術としての空虚さのようなものを感じ取ったからではないかと思います。そしてあえて申し上げるならば、グールドが嫌ったショパン的なものは、ノクターンにもっともよく現れているような気がします。

私は、グールドの素晴らしい演奏、とりわけバッハやプロコフィエフの歴史的名演を聴くたびに、この天才ピアニストがショパンを嫌ったことが何となくわかるような気がします。ショパンの音楽世界は、グールドの世界観とは相容れないものだったように感じられます。

グールドの感性とは相容れなかったのでしょうが、ショパンのノクターンが、音楽史の中に燦然とそびえている名作群であることは確かだと思います。ショパンのノクターンは、もっとも親密で密やかな感情を、限りなく洗練された手法で表現している芸術作品です。単色の感情や色彩ではなく、光と闇が溶け合おうとするときの微細な光彩が感じられ、叙景的な音楽ではないのだけれど、夕闇迫る頃の情景が現出されることもあれば、そのような光景の中に流れる子守歌であるときもあります。そしてそれは暖かみがあると同時に、深遠な孤独が同居し、複雑きわまりない感情表

現に彩られています。

微細な感情のうつろいは、音色の変化によって表現しなければなりません。おそらく健康的で元気がよく、一本調子に進んでいくような演奏は、この音楽にもっともふさわしくないことでしょう。そして同時にこの音楽では、どのように感情が高まっても、そこには哄笑や罵倒が存在することはありません。ですからフォルティシモにもおのずから節度と限界があります。

多くの演奏を聴いていると、ショパンのノクターンでは、音が大きすぎる、という過ちを犯しやすいように思えます。鍵盤をたたきすぎると、音が割れて汚くなり、また、音色の微妙な変化が表現できにくくなります。ホールに自分の音を響かせよう、聴き手に自分のショパンをアピールしようという演奏姿勢は、ショパンの密やかな世界とは最も遠くにあるものです。

どう歌うか

ショパンのノクターンの基本的なパターンは、分散和音を中心とする左手の伴奏の上に、右手が美しい旋律を歌うというスタイルです。いい歌い手の歌は伴奏者によって引き出されるように、左手が常にリードしてメロディが乗りやすいベースを作ります。そして右手の旋律を美しく歌わせるタッチは、指の腹の柔らかい部分で弾くのが基本でしょう。手首だけでなく、肘や体全体を使い、それでいて、指先に神経を集中して、微細な音色の変化を感じながら弾くことが基本です。

27

作曲家
研究

密やかな世界は、微細なタッチの変化から

Chopin . 4
ショパン





Op.5-2

タッチの基本について改めて申しますと、指先を手の甲に対して直線的に 90 度に曲げ、指の先で弾くと、固い爪の部分が鍵盤に当たりますから、固い音になり、またどうしても手首から先で弾きがちになります。逆に、自然な丸みがでるくらいの角度に伸ばすと、腹の柔らかい感触が柔らかい音色をつくります。ノクターンに合うタッチが後者であることは明らかでしょう。

しかし、変幻きわまりないショパンのノクターンの世界を表現するのに、一種類のタッチでは不

十分です。指の腹で弾くタッチを基本としつつ、ときには指先で弾くタッチ、その中間のタッチを繰り出します。

たとえば、有名な嬰へ長調作品 15 の 2 では、アウフタクトの誘い水から 1 小節 1 拍目のドミナントの和音に入ります。最初の ais はしっかりと手の重心をかけたタッチが求められますが、そのあとの h は軽くなでるくらいの動きで次の小節に向かっていく音です。鍵盤の底まで押し込むのではなく、音が出るポイントギリギリくらいまでの距離感です。そしてなめらかに手首の回転の助けも借りながら弧を描くようにディミニエンドしつつ下降します。4 回続く cis もそれぞれ意味が違い、タッチも微妙に違ってきます。最初の cis はこの弧の動きの終わりを示し、フレーズの終わりは、同時に次のフレーズへの回転が始まっています。この 2 つの音は手前に引いて落ち着く方向ではなく、奥にと申しますか、上に重心をあげて、2 小節めの拍の頭の cis で着地するようなタッチです。和声的にもドミナントからトニックに解決します。ドカンという尻餅をつくような音ではなく、エスプレッシブヴォ、その音に気持ちをこめる、という意味あいとしてとらえた方が良いかと思います。(指の形と高さ、動かし方をそれぞれどのように変えると音色がどのように変化するかについては、瀬川勉さんのサイト「Classic Piano School」(<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/classis/>)に写真を使った非常にわかりやすい解説がありますので、是非参考にしてください。ま

II
Komponiert 1830/31
Opus 15 Nr. 2

Larghetto ♩ = 40

5.

▲冒頭から9小節目

た、このサイトでは、ホロピッツ、ミケランジェリ、アルゲリッチ、モラヴェツのフォームの特徴についても分析が行われており、興味深いです。）

演奏上もうひとつ大切なポイントは、ショパンのノクターンの音楽の性格と関連があります。それは絶対的な形をとっているのではなく、たまたまそこにある、言い換えれば、即興的な性格を持っているということです。ある意味でモーツァルトのピアノ曲と似ているといってもいいかもしれません。あるサロンのある夜、たまたま思いつきで弾かれたのがショパンのこのノクターンだった—そういう雰囲気がほしいところです。ですから、几帳面に原稿用紙の升目をうめていくような弾き方は、この音楽にはふさわしくはありません。本当は考え抜かれ、効果を計算され尽くされた音楽なのですが、いま初めてそこにある、気分任せでたまたま弾かれた、—そのような雰囲気が伝わってきてほしいのです。

たとえば、この曲では、テーマ自身も *ais* で始まる弧を描く小さなフレーズが2回、3回目は半音高い *h* から始まり(4小節2拍目の裏から)、さらに高く飛翔し大きな波を作ります。このテーマは、現れるたびに表情を少しづつ変えて登場します。

8小節2拍目裏からの開始は、豊かなアルペジオを伴って始まり、10小節の7連符の呼び水からレジェットで遊びます。13小節ではバスの *dis* とソプラノの *d* を大胆にも不協和でぶつけてハッとさせてから次の小節で、さらに1オクターブ高い *fis* にまで伸びやかに歌い上げます。

スモルツアンドー消えるように中間部の風が見えなくなったあとに、そっと再現されるテーマは、*dolce* で始まり、提示するときの *leggerio* のパッセージを、今度は *leggerissimo* で登場させます。軽いけれど動きは大きく、表情も波のうねりも幅を広げます。そして曲中のクライマックスの音とも言えるスフォルツアンドーが *conforza* の指示のもとに現れ(54小節)、その余韻のようなけだるく甘い表情で終結に向かいます。

響く音の見極め

美しく歌わせる上で大事なことは、一息のフレージングの中の、音の拾い方です。言い換えれば、大切な音と流す音を選ぶ、ある意味での思い切りではないかと思います。

スコアに書かれているすべての音を、同じ感覚で几帳面に出し、弾き進んでいくと、旋律は平板になり、つまらなくなります。

この音はしっかり存在感を示す、ある音は消えるか消えないかのぎりぎりの音—そういう見極めがあって初めて、ショパンがノクターンに託した感情の髪が音楽として現れます。

同じ嬰へ長調の曲で見てみましょう。たとえば、2小節目の頭の *cis*、そして4小節目の頭の *cis* の音、これは重みのある音でしょう。しかしその *cis* に続く余韻のような32分音符や5連符は、*cis* の響きを味わったその残り香のようなもので、ほのかに聞こえてきてほしいのです。どぎつく鼻につくとうんざりしてしまいます。風のようにふわっと通り過ぎ、刷毛でさっとなでたように消えていってほしいところです。

大事な音、重さのある音はどこかを、メロディを歌いながら感じ取ることができるとなると音楽はぐっと変わってきます。

もっと言うならば、重さが来る小節と来ない小節があります。それを全部「おいちに、おいちに」とやると色香もなにもないノクターンになってしまいます。ショパンの曲の中では明るい性格を持っているこのノクターンでさえ、ショパンに特有の「はかなさ」が漂っています。重さが来ない音をいかにそっと、軽やかに弾くかという技が備わらないとショパンにはならないように思えます。11小節目の右手レジェットも文字どおり軽やか



▲ 11 小節目



▲ 25 小節目～27 小節目

に息をふっとふきかけるように弾きたいものです。けれど、それができるためには、実は強いタッチを持っていることが求められます。とくに指の先の方に神経が行き届いたタッチが出来ていないとうまいいきません。手を柔らかくし、しかも指先何ミリのところには、芯のようなものがある、それで、静かに繊細になでていく感じです。

指を曲げる角度も大きく関係があるでしょう。親指とそれ以外の4本の指は厳密には方向もタッチする面積も同じというわけにはいきません。ですから親指を弾いているとき、ほかの指のときと比べてゴツンと違和感のある音がでやすいので注意する必要があります。

「音の洪水」にしない

ショパンのデリケートな世界を表現するには、指のタッチだけでなくペダルの使い方も重要です。ペダルなしにはショパン演奏は不可能ですが、ペダルひとつ(足の動き3センチ)で重たく、不潔なショパンになってしまう危険性を孕んでいます。

ショパンの時代のピアノは、現在私たちが使っているフルコンよりずっと音の減衰が速い楽器でした。ですからショパンが書き込んだペダルを几帳面に全部踏むと必ずと言っていいほど、重く濁ったショパンになってしまいます。

レジェットとあった場合、ペダルも足先でかするくらいの軽いペダルで良いのでは、と思います。つまりダンパーを弦からわずかに離し、ほんの少しだけ色合いを残す、という程度です。決して30個の音を洪水のように次々に鳴らしていくことではありません。オンかオフかという2種類しか

ないペダリングからは単色の音楽しか生まれません。

Doppio movimento になったところで、ショパンは、sotto voce と指示を出しています。でも付点音符、5連音符、オクターブ、と複雑に組み合わせさせてしかもテンポが倍になったという緊張感からでしょうか、ほとんどの生徒さんは、ここで「さあ、がんばろう!」とばかり音が大きくなります。普通に弾いても音符の量が増えテンポが倍になって音の総量が増えているわけですから、豊かに響く現代のピアノでは、耳を覆いたくなるような轟音になってしまいます。しかしスコアをよく見ると、①ソプラノメロディライン、②16分音符gisと8分音符hとの音型、③dis,cis という8分音符の旋律、④5連符と、右手で4声を受け持っていることがわかります。ですから音の固まりとしてではなく、各声部として見ると、それぞれの線が微妙なふくらみや息づかいを見せながら、sotto voce で波打って行く音楽だということがわかります。スコアから音楽の成り立ちを発見し、耳でどれだけ細かな音を聞き、繊細な動きとして伝えることができるか、こういうことができるかどうかを本当はテクニックと呼ぶのかもしれませんが。



モスクワ訪問記 カプースチンに会う

数年前からCDや演奏会などで紹介されているので、その名前を聞いたことがある人もいるだろう。現代に生きるロシアの作曲家、ニコライ・カプースチンに会ってることができた。私がこの作曲家の音楽に出会ったのは、「カプースチン 自作自演集 vol.1」という(株)トライエム社から出されたCDの中から、「8つのエチュード 作品40」を聴いたのがきっかけであったが、その時の衝撃はまだ忘れられない。今まで聴いたこともないピアノ音楽。それまで聴いていた音楽が、一瞬にして色あせてしまうほどの感動を覚えた。それは、なんと「ジャズの語法を駆使したクラシック音楽」とも言えるものなのである。モスクワ音楽院出身という経歴を持つこの作曲家は、純粋にクラシックのロシアン・スクールの流れを汲んでみいる。音楽院時代には、プロコフィエフ、バルトーク、ラヴェルに夢中になったあとは、もう自分の興味を惹く音楽はジャズ以外にはないことを知った。特にこのエチュード集は、クラシックでは決して有り得ないリズムが魅力的である。他の作品も興味を持って聴いていくと、多くを占めるピアノ曲のほかに、室内楽曲など素晴らしい作品がたくさんあることを知った。作品番号の付いている108曲の中には、ピアノ協奏曲も6曲存在する。

今年の4月下旬に、モスクワでカプースチンによる自作自演の新しいアルバムのための録音が行なわれた。その時に同行させていただき、録音の様子や、作曲家の素顔に接した時のことをレポートしてみたいと思う。



▲作曲家直々にレッスンを受ける筆者

モスクワ国営放送局のスタジオで4日間にわたって、録音セッションが行なわれた。私が見学できたのは3日目の「ピアノソナタ第12番」



▲録音風景

の収録の日であった。このソナタは、比較的近年の作品だが、作風の衰えもなく、第2楽章などのアレグロの速いパッセージやコーダなどは、作曲家自身にとっても相当難しいものであるようだった。録音を聞けばわかるが、氏は作曲家であると同時に、素晴らしいピアニストでもある。しかし、演奏することは作曲をするのとは違って、やはり準備に大変な時間を要したようである。録音日の前は、6ヶ月間ほど作曲の筆を休めて練習したと言う。

さて、録音の撮り方であるが、ソナタは長いので、最初に一つの楽章を半分ずつ弾いたあとは、細かいテイクを撮っていくというようなやり方で



川上 昌裕

ピアニスト・国際委員会協力委員

ホームページアドレス
[http://www.cam.hi-ho.ne.jp/
pianistas/](http://www.cam.hi-ho.ne.jp/pianistas/)

※さらに詳しい訪問記がピティナ・ホームページ「ピアノの広場」にもあります。(「カプースチン訪問記」<前編>・<後編>)興味のある方はそちらもご覧ください。
⇒ <http://www.piano.or.jp/enc/special/moscow1.html>

あった。そのテイクは一曲につき数十にも上る。まさか、あのような難曲を何度も通して弾くことは考えられなかったが、その予想は当たったようである。ちなみに、楽譜はピアノのそばに置いてはあるがほとんど見ていない。作曲者であるから当たり前の話であるが、音やリズムに対してとても厳格で、一つでも間違った音を弾いたら納得いくまでテイクを撮りなおすという姿勢には頭が下がった。

しかし、面白いこともあった。ソナタの収録のあと、小品を一曲撮っていたのだが、作曲家は、ある箇所を楽譜と違うリズムで弾いていたのだ。モニター室で譜面をチェックしながら撮っていたイワノフ氏と、他のスタッフたちによってその部分を指摘された。「おお、偉大なマエストロにそんなことを言うとは!」と私は驚いたが、楽譜というものが残される以上、作曲者が自分の書いた通りに演奏をすることは当然である。結局、正しいリズムに直して弾き、そこを撮りなおすことになった。カプースチン本人にしてみれば、あまりにも多くの曲を書いてきたのだから、そのすべてを精密に覚えているわけでもないであろう。しかし、この一件は、私にはとてもほほえましく、こんな光景を観たことでカプースチン氏に対して好感を抱いた。

さて、作曲家から直接にアドバイスをもらえる機会なんてそんなにあるものではないだろう、ということで、私はちょうどレパートリーにしていた「ソナタ第1番(ソナタ・ファンタジー)作品39」と「トゥカティーナ ト長調」を演奏し、作曲家本人に聴いてもらった。さすがに緊張はした

が、カプースチン氏は黙って最後まで聴いてくれた上、いくつかのアドバイスをまでしてくださった。今年66歳を迎える彼は、もうあまり国外へ出かけることも少ないようであるから、会うためにはこうしてモスクワまで会いに来る以外にはないだろう。日本から今回、私を含む彼のファン(5人で)が訪ねたことで、どれだけ彼が喜んでくださったかはわからない。しかし、今後さらに世界から多くのピアニストたちがこの作曲家に興味を持ち、モスクワを訪れるようになってほしいし、まだ未出版の優れた作品の楽譜が、次々と世に出されることを切に願っている。

難易度は決して低くはないが、最もポピュラーな、「8つのエチュード 作品40」などの楽譜がすでに日本でも手に入る。ショパンのエチュードのように最高度の音楽性を求められる曲ももちろん大切だが、なんと言っても斬新なジャズのハーモニー、揺るぎないテンポ感や、スイング感などの、鋭敏なリズム感とテクニックをまず養いたいと思う人には、うってつけの名曲である。演奏効果と練習効果の高いエチュードとして、クラシック音楽を学ぶ多くの若者がチャレンジするようになってくれたら嬉しいと思う。



▲会食後の記念撮影

INFORMATION

8 10

PTNA
Members



8
月



ピアノリサイタル

泉 陽子 (pf.)

◎ 8月3日(日) 19:30 開演
◎ パルテノン多摩小ホール
◎ ヤナーチェク:ソナタ「1905年10月1日街頭にて」/ モーツァルト:ソナタニ

長調 KV.311/ ショパン:バラード第4番へ短調 Op.52/ プロコフィエフ:ソナタ第6番イ長調 Op.82

◎ ¥2,500 (全席自由)
◎ チケットパルテノン
042-376-8181



東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校卒業生5人による PIANO CONCERT

川田健太郎・佐藤卓史・前田拓郎・本山乃弘・中谷政文 (pf.)

◎ 8月10日(日) 14:00 開演
◎ 紀尾井ホール

◎ スカルラッティ:ソナタ短調 K.27L.449/ ベートーヴェン:ソナタ第21番ハ長調 Op.53「ワルトシュタイン」/ シューマン:ソナタ第2番ト短調 Op.22/ ショパン:ソナタ第2番変ロ短調 Op.35「葬送」/ ラフマニノフ:ソナタ第2番変ロ短調 Op.36 他

◎ ¥2,500 (全席自由)
◎ 0467-44-7758



読売日響サマーフェスティバル3大協奏曲のしらべ

大崎 結真 (pf.)

◎ 8月17日(日) 14:00 開演
◎ 金聖響 (Con)・趙静 (Vc)・奥村愛 (VI)
◎ サントリーホール
◎ チャイコフスキー:協奏曲第1番変ロ短

調 Op.23/ ドヴォルザーク:チェロ協奏曲ロ短調 Op.104/ メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲ホ短調 Op.64

◎ A¥6,000、B¥5,000、C¥4,000、D¥3,000
◎ 読売日響チケットセンター
03-3820-0013



クラシック音楽のたのしいお話

小形 美香子 (pf.)

◎ 8月17日(日) 13:00 開演
◎ 高槻現代劇場3Fレセプションルーム
◎ ベートーヴェン:ピアノソナタ14番「月光」他

◎ ¥1,500(当日¥2,000) 飲み物付き
◎ 高槻現代劇場
072-671-9999
ミック・サウンド
072-673-0704 (電話予約)

※名曲のわかりやすい解説や演奏家のうら話などを演奏をまじえてお話しします。

名曲
後援



ピアノリサイタル

小形 美香子 (pf.)

◎ 8月31日(日) 14:00 開演
◎ リーデンローズ小ホール(福山市)
◎ ベートーヴェン:ピアノソナタ16番ト長調作品31-1、14番変ハ短調作品

27-2「月光」/ リスト:巡礼の年 第1年「スイス」より ワレンシュタートの湖にて、泉のほとりで、嵐ノドビュッシー:前奏曲集第2巻より ピクウィック氏賛、カノープ、交互3度

◎ 一般¥2,000(当日¥2,500)、ペア券¥3,500(前売のみ)
◎ ミックサウンド 072-673-0704

名曲
後援



ピアノリサイタル

ブルーノ・リグット (pf.)

◎ 8月31日(日) 18:00 開演
◎ 第一生命ホール
◎ ショパン:ノクターン変ロ短調作品9-1、スケルツォ第2番変ロ短調作品31-2、ノクターン嬰ハ

長調作品15-2、華麗なる大ワルツ第1番変ホ長調 作品18-1、幻想曲へ短調作品49、英雄ポロネーズ変イ長調 作品53/ シューマン:子供の情景作品15 他

◎ 全席指定 S ¥4,000、A ¥3,000、B ¥1,000
A・S席はビティナ会員 10% OFF
◎ 東音企画 03-3944-1581

PINA
OFF!

名曲
後援

9
月



ピアノ・リサイタル

樋口 紀美子 (pf.)

◎ 9月4日(木)、8日(月)
両日とも 19:00 開演
◎ 松尾楽器商会スタインウェイ・サロン
◎ ショパン:バラード第1番 Op.23、

3つのノクターン Op.27Nr.2、Op.55Nr.1、Op.55Nr.2、スケルツォ第4番 Op.54/ドビュッシー:12の練習曲(全曲)「ショパンの思い出のために」第1集I~VI、第2集VII~XII.

◎ ¥3,000 (全席自由)
◎ 03-3941-6728 (樋口)



メトネル ピアノ名曲リサイタル

川上 昌裕 (pf)

◎ 9月7日 (日) 14:00 開演
◎ 東京オペラシティリサイタルホール
◎ オール・メトネルプログラム
4つのおとぎ話作品 26、ソナタ・エレ

ジー ニ長調作品 11- 2、2つのおとぎ話
作品 20、ソナタ ハ長調作品 11-3、「忘
れられた調べ 第1集」作品 38(全曲)
◎ 全席自由 一般 ¥4,000 学生 ¥2,500
◎ チケットぴあ 0570-02-9990
★☆☆ホームページはこちら! ★☆☆
<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/pianistas/>

当協会理事の新作公演

嵐野 英彦 (作曲)

◎ 9月19日 (金) 18:30 開演
角筈区民ホール
◎ 23日 (火・祝) 13:00 開演
朝霞市コミュニケーションセンター・ホール

◎ 小島好弘 (pf・伴奏・話)、大橋ゆり (Sop)、古澤泉 (Ten)
◎ 落語オペラ「夫婦のチャワン」(※落語オペラ「たらちね」
の作曲者、嵐野英彦氏が古典落語「替り目」をベースに、
関西弁の自作台本で作曲した、歌い手二人とピアノのた
めのミニオペラ)
◎ 全席自由 ¥3,000
◎ 0493-23-8363 (大橋・古澤) / 03-3531-7297 (小島)



ピアノ・リサイタル

根津 理恵子 (pf.)

◎ 9月20日 (土) 19:00 開演
◎ Vc./羽川真介(東京芸術大学講師)
◎ カワイ・ミュージック青山2F パウゼ
◎ スカルラッティ:ソナタ K.29 ニ長調 / オギンス

キ:ポロネーズより/シマノフスカ:ノクターン他
/ショパン:アンダンテ・スピアナートと華麗な大
ポロネーズ変ホ長調作品 22、ピアノとチェロのた
めのソナタ短調作品 65/フォーレ:ノクターン
第2番長調作品 33-2 他
◎ 一般 ¥2,500
◎ カワイ音楽振興会 03-3320-1671



ピアノと歌でコンサート

塚田 弘子

◎ 9月21日 (日) 14:00 開演
◎ すみだトリフォニー小ホール
◎ H.カスキ:前奏曲短調(パンカコスキ)
/M.ファリャ:スペイン舞曲第1番 /

矢野義明:細川ガラシャ夫人
一人オペラ(初演作品)他
◎ 入場料 ¥3,000 ◎ 03-3624-8898
※住所・氏名・年齢をご記入の上〒130-0013
東京都墨田区錦糸 4-11-5 塚田弘子コン
サート係まで葉書で申込まれた方先着 30
名様にご招待券を送ります。



新ブダペスト弦楽四重奏団

福井 亜貴子 (pf)

◎ 9月23日 (火・祝) 13:30 開演
◎ 新ブダペスト弦楽四重奏団
◎ 秋篠音楽堂
◎ モーツァルト:弦楽四重奏曲第14番

ト長調 K.387/メンデルスゾーン:弦
楽四重奏曲第4番ホ短調 Op.44-2/
シューマン:ピアノ五重奏曲変ホ長調
Op.44
◎ 全席指定 ¥4,500
◎ 奈良芳音
0742-26-1415



ピアノリサイタル

～耳を澄ませば、sweet,smart 現代～

蛭多 令子 (pf.)

◎ 9月23日 (火・祝) 14:00 開演
◎ 彩の国さいたま芸術劇場小ホール
◎ 平井京子(1957～):聴秋幻想曲(初演)

/鈴木治行(1962～):SUITE PURE AND SIMPLE
(改訂初演)★共演(友情出演):松永加也子・
矢沢朋子※リコーダー、木琴、鳥笛等の楽器とお
もちゃのピアノのためのアンサンブル作品 / 田中カ
レン(1961～):テクノ・エチュード(2000) 他
◎ 全自由席 一般 ¥3,000 学生 ¥1,500
◎ 東京コンサーツ 03-3226-9755



ラフマニノフ生誕 130 年記念連続演奏会第 2 回

稲田 潤子 (pf.)

◎ 9月30日 (火) 19:00 開演
◎ 東京文化会館小ホール
◎ パッハ=ラフマニノフ:ヴァイオリンのためのパル
ティータホ調よりプレリュード / ラフマニノフ:前

奏曲作品 23 より第 2 番、第 4 番、第 5 番、第 7
番、コレリリの主題による変奏曲作品 42、道化
役者作品 3- 4、6 つの楽興の時 作品 16 / クライ
スラー=ラフマニノフ:愛の悲しみ
◎ 全席自由 ¥4,000
◎ カワイ音楽振興会 03-3320-1671
E-mail: kmf@kawai.co.jp

10月



洋館サロンで楽しむ小倉貴久子のモーツァルト シリーズ演奏会

小倉 貴久子 (フォルテピアノ)

◎ 10月1日 (水)/11月12日 (水) 19:00 開演
◎ 安田和信 (監修・話)
◎ 自由学園 明日館
◎ J. ミスリヴェチェク:6 つのソナタより第 6 番ニ長

調 / J.F. エーデルマン:6 つのソナタ作品 2 より第
1 番ハ短調 / N.J. ヒュルマンデル:6 つのソナタ
作品 1 より第 2 番変ホ長調 / W.A. モーツァルト:
ソナタイ短調 K.310(300d) 他
◎ 1 回券 ¥3,500/2 回券 ¥6,000
◎ メヌエット・デア・フリーゲル
048-688-4921



C D発売記念リサイタル

宮澤 むじか (pf.)

- ◎ 10月7日(火) 19:00 開演
- ◎ サントリーホール小ホール
- ◎ F. ショパン: 夜想曲作品 32-1, 2, マズルカ作品 24-1, 2, 3, 4, ポロネーズ第

- 7 番「幻想ポロネーズ」/C.A. ドビュッシー: 前奏曲集第 2 集全 12 曲
- ◎ ¥3,500
- ◎ 株式会社ハーモニー 03-3357-3306

名義
後援



甲南女子大学 第 163 回オルガン演奏会
〜ピアノとオルガン・バッハでききくらべ〜

大竹 道哉 (pf.)

- ◎ 10月8日(水) 16:20 開演
- ◎ 土橋薫 (オルガンとお話)
- ◎ 甲南女子大芦原講堂 (神戸)

- ◎ バッハ (ブゾニ編曲): トッカータ・アダージョとフーガハ長調、前奏曲とフーガニ長調 他
- ◎ 入場無料
- ◎ 甲南女子大学共通教育コモンルーム 078-431-0391
- ※ JR「摂津本山」阪急「岡本」から東へ徒歩 5 分でスクールバス乗り場 (無料)
- ☞ <http://www.konan-wu.ac.jp/>



マスタークラス&ピアノコンサート

マティアス・キルシュネライト (pf)

- ◎ 10月10日(金) マスタークラス (14:00 開始)、ピアノコンサート (19:00 開演)
- ◎ Hakuju Hall (渋谷区富ヶ谷)
- ◎ J. ハイドン: ソナタハ長調 Hob.XVI.48/J. ブラームス:

- ピアノソナタ第 2 番嬰へ短調作品 2/F. メンデルスゾーン: 無言歌集作品 19 より第 6 番「ヴェネチアの舟歌」/F. リスト: 巡礼の年 第 2 年より「ゴンドラを漕ぐ女」/シューマン: 幻想曲ハ長調作品 17 他
- ◎ マスタークラス ¥1,000/ コンサート ¥3,000 (セット料金 ¥3,500、全席自由)
- ◎ スタインウェイ・ジャパン(株) 03-5251-6550

名義
後援



ファツィオリ・フェスティバル
アルド・チッコリーニ ピアノ・リサイタル

アルド・チッコリーニ (pf)

- ◎ 10月12日(日) 14:00/19:15 開演
- ◎ すみだトリフォニーホール
- ◎ 第 1 回モーツァルト: ピアノソナタ第 2 番ハ長調

- K.280/ ピアノソナタ第 11 番イ長調 K.331 「トルコ行進曲付き」他
- ◎ 第 2 回ドビュッシー: 前奏曲集第 2 巻 / ショパン: 2 つの夜想曲 Op.62 他
- ◎ S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000
- 2 回セット券 S¥9,000 A¥8,000 B¥7,000
- ◎ 日本交響楽協会 03-5721-4621

名義
後援



岡城千歳/坂本龍一 MEGA ピアノ<プレイズ>・サカモト>

岡城 千歳 (pf)

- ◎ 10月22日(水)、23日(木)、24日(金) 19:00 開演、10月26日(日) 14:00 開演
- ◎ すみだトリフォニーホール
- ◎ 【10/22】戦場のメリークリスマス 他

- 【10/23】BTTB、EX- ジャズ 他
- 【10/24】ゼロ・ランドマイン 他
- 【10/26】ラストエンペラー 他
- ◎ 各 1 回券 S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,000 (2 日・3 日・4 日セット券あり)
- ◎ 日本交響楽協会 03-5721-4621



ピアノ・リサイタル「リスト・イタリアへの旅〜ピアノ作品に寄せられた言葉」
〜朗読と映像を交えて〜

久元 祐子 (pf)

- ◎ 10月29日(水) 19:00 開演
- ◎ 朝日生命ホール (新宿)

- ◎ オール・リストプログラム「巡礼の年 第 2 年〜イタリア〜」から「婚礼」他、「巡礼の年 第 3 年」から「エステ荘の噴水」、「二つの伝説」他
- ◎ 全席自由 ¥3,500 (当日 ¥4,000)
- ◎ プロアルテムジケ 03-3943-6677



田代ユリ セミナー Sound Box
<自由にピアノ>レッスンのツボ 4hrs

田代 ユリ (レクチャー&クリニック)

- ◎ 10月30日(木) Part1 10:00 開演 Part2 13:00 開演
- ◎ 東京・東音ホール (10/30)、大阪・門

真市文化会館ルミエールホール内レセプションホール (11/15)

- ◎ 「ポピュラーの表現とは?」※使用テキスト『ピアノで弾くチャイコフスキー名曲集』『ポップアイランド vol.3』(共に田代ユリ編曲)
- ◎ 全席自由 ¥4,000 円 (前売のみ・定員 70 名)
- ◎ ワイズミュージック 03-3428-0196



園田高広 75 歳記念ピアノ・リサイタル

園田 高広 (pf.)

- ◎ 10月31日(金) 19:00 開演
- ◎ サントリーホール
- ◎ J.S. バッハ: トッカータ、アダージョとフーガハ長調 BWV564/ ベートーヴェン: ピアノソナ

- タ 第 23 番ハ短調 op.57「熱情」/ドビュッシー: 映像第 1 集より「水の反映」/ 武満徹: 遮られない休息/ 湯浅譲二: 内触覚的宇宙/ プロコフィエフ: ピアノソナタ第 7 番変ロ長調 op.83「戦争ソナタ」
- ◎ S ¥6,000、A ¥5,000、B ¥3,000
- ◎ カジモトイープラス 03-5749-9960

名義
後援

私の勉強法



【学ぶ楽しみを伝えていきたい】

佐野 幸枝先生

ピティナ本部職務評議員・指導法研究委員(初級グループ)・課題曲
選定委員(Aグループ) 課題曲選定委員(Cグループ)



地方の先生から頂いた写真入り色紙。とてもカラフル。



勉強会の内容を出席者にまとめて頂いた資料(左)、海外教授レッスンビデオの日本語吹き替えを全て書き取った資料(右)

—先生は広いレッスン室をお持ちですが、ここで毎月勉強会をしていच्छやるとか。

勉強会は1999年から始め、今年7月で41回目になりました。教室名を冠して「虹音(にじね)セミナー」と呼んでいます。きっかけは、購入した海外著名教授のレクチャービデオ全17巻を一人で見るのではもったいないと思い、日本語吹き替えを全部書き取って資料を作り、鑑賞会を開きました。参加者は生徒の保護者やピティナで知り合った先生方等で、現在も20人程集まっています。

そのうち参加者から「テーマは何でも良いから、1ヶ月1回集まって勉強したい」という要望を頂き、それからは自分でテーマを決めて話をするようになりました。私自身永年、東京音大の丸山桂介先生の音楽史の講義に参加する事でポリフォニーの大切さを痛感し、小さい子への導入から始めました。一番長く取り組んだのは、「プレ・インベンション」の指導法ですね。数回にわたって全曲行いました。現在は「インベンション」と「ブルグミュラー」を取り上げています。2声のNo.1等、小さい子にもわかるように、鏡を使って「反行形」を写して見せたり、楽譜を逆さまにして弾かせたり、遊び心を取り入れながらやっているの、デモンストレーション役の生徒も、「えー!」といいながらも面白がってくれていますね。おかげ様で、バツハ好きな生徒が多いですよ。また原典版の前文に書かれている、インベンションの意義を学んだりもしています。

参加者の中に大変勉強好きな先生がいらして、会

の後に内容を簡潔にまとめた資料を作成して下さいます。その他、発表会直前のレッスンビデオを見たり、開催後勉強会で反省会をしたこともあります。

—先生ご自身がお作りになった資料にも圧倒されました。それでは普通のレッスンについてお聞かせ下さい。

普段は、生徒にあったペースで進めています。もちろん音の出し方など基本的なことは何度も言いますが、生徒自身どのように楽譜から読み取り、それをどんな音で表現するか、そして自分の身体に命令したことがどんな音として聴き取れるか、これはいろいろな意味で自分をコントロールすることですね。その積み重ねが自分なりに考えて曲をまとめていく習慣になります。特に小さい子にとっては根気のいる作業ですが、高校生くらいになると自分で勉強できるようになります。長い目でみて自主性を育てたいですね。

現在、幼稚園から社会人までいらしていますが、高校生以上の方は幼少期から習い続けている方が多いです。それぞれよく成長していると思います。また卒業生も勉強会に参加したり、ソルフェージュの指導を手伝って下さったりしていますよ。音楽がその子の幅広い人間形成に役立ってくれたらと願っています。

—幅広い年齢層の生徒さんに応じられる柔軟性は、やはり勉強の賜物と思います。発表会も今年45回目ということで教室の伝統を感じますが、その陰にきめ細かな思いやりと日々の努力があることが分かりました。今後もますますご活躍下さい。



十代の演奏家シリーズ vol.14 田村響ピアノ・リサイタル好評博す

6月23日(月)、2002年度グランプリの田村響さん(16)をお迎えして、十代の演奏家シリーズ vol.14 を開催した。当日会場はほぼ満員、タキシードに身を包み、華やかに、時に厳粛に演奏する田村さんに聴き入った。新しいレパートリーにも挑戦し、意欲的に自分のスタイルを模索する田村さんに、会場は惜しみない拍手を贈った。



なお田村さんは10月4日(土)サントリーホール17周年記念ガラコンサートへの出演が決定している。(同コンサートにはパスカル・ロジェほか、内外の著名アーティストが出演予定。)また8月末の福田靖子賞オーディション参加、10月下旬オランダのユトレヒトで行われる国際リストフェスティバルへの出演等、活躍の場を広げている。なお2004年度は東京交響楽団と共演予定。

第37回通常総会開催

6月13日(金)14:00より、東京・巣鴨の当協会本部にて第37回通常総会が行われた。当協会副会長の中山靖子先生が見守る中、互選により金子勝子監事を議長に選出、正会員の先生2名が書記を務められた。

本年度は役員改選の年にあたり、ヒノキ新薬株式会社社長阿部武彦氏、チャイコフスキーコンクール優勝者である上原さんを指導された江口文子先生を含む23名の新役員を選出、総会にて承認された。

総会では正会員が議決権を有し、社団法人全

日本ピアノ指導者協会の事業の最終決定・承認を行う場となっている。終了後は出席した正会員で自己紹介を行うなど交流の機会が設けられた。

第1号議案 平成14年度事業報告及び収支決算承認の件

- ・社団法人の義務として、事前に正会員には資料が送付されている。

第2号議案 新役員選出の件

- ・5月12日に開票された役員選挙の結果が承認された。今回より役員と評議員の橋渡しの役職として新たに執行役員制度が導入された。新理事の詳細は次項を参照。

第3号議案 規約一部改定の件

- ・支部が管轄するステーションについて支部所在県内に限定する規約が承認された。同時にステーションで講座を開催することが可能になった。

第4号議案 委員会解散及び新委員選出の件

- ・ピティナの事業を推進する各種委員会のメンバーの選出。詳細は80・81頁参照のこと。

◎新役員決定までの流れ

1. 理事選考委員会 平成15年3月19日(水)にて候補者選出
2. 理事選挙管理委員会 平成15年5月12日(月)にて開票
3. 第37回通常総会 平成15年6月13日(金)にて選挙結果承認



▲総会の様子

役員のご紹介



会長 羽田 孜
衆議院議員、元内閣総理大臣



副会長 中山 靖子
東京芸術大学名誉教授



副会長 柳川 寛治
健康科学大学学院長、(社)秋田犬協会会長、(財)生弓会理事長、国際なぎなた連盟会長



専務理事 福田 成康
(社)全日本ピアノ指導者協会 事務局長
(株)東音企画 代表取締役



理事 阿部 武彦
ヒノキ新薬(株)代表取締役社長、学校法人成城学園理事、(財)科学技術振興会、小玉学術振興基金管理運営委員会委員



理事 嵐野 英彦
作曲家、元滋賀大学教授、当協会新曲課題曲選定委員長



理事 石井 歡
愛知県芸術大学名誉教授、(社)全日本合唱連盟名誉会長、東京文化会館・東京芸術劇場運営審議会委員、名古屋フィルハーモニー理事、浜松市音楽顧問、日本オペラ振興会理事、世界クラシックバレエ&モダンダンスコンクール大会実行委員長、小田原市城下町大使。



理事 江口 文子
ヤマハマスタークラス首席講師



理事 江崎 光世
当協会課題曲選定委員長



理事 海老澤 敏
新国立劇場副理事長、日本モーツァルト研究所所長、日本モーツァルト協会会長、ザルツブルグ国際モーツァルトフェウム財団中央モーツァルト研究所所員、芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、ほか海外名誉職多数。



理事 金子 勝子
昭和音楽大学ピアノ科教授、金子勝子ピアノ教育研究所主宰、当協会指導法研究委員長



理事 宝木 多加志
元梅光女学院大学教授、北九州音楽文化連盟会長



理事 武石 とも子
洗足学園音楽大学名誉教授



理事 田淵 進
宇都宮短期大学副学長、学校法人須賀学園理事・評議員、当協会財務委員長



理事 二宮 裕子
桐朋学園大学講師 ピアノ科、当協会コンクール事業部長



写真・木之下 晃

理事 林 秀光
桐朋学園大学ピアノ科客員教授、宮城学院女子大学音楽科ピアノ特別講師



理事 原田 茂生
尚美学園大学芸術情報学部学部長・教授、東京芸術大学名誉教授、日本モーツァルト音楽コンクール実行委員会運営委員



理事 播本 三恵子
東京音楽大学ピアノ科主任教授、東京芸術大学音楽学部・同大学付属音楽高校講師、当協会研究事業部長、フェスティバル実行委員長



理事 松崎 伶子
ピアニスト、洗足学園音楽大学ピアノ科教授、当協会生涯学習振興部長



執行役員 杉本 安子
洗足学園音楽大学助教授、当協会演奏研究委員長、当協会溝の口ステーション代表



執行役員 保坂 千里
東京家政大学講師、当協会アミューズ委員長、キーボードオーケストラ「楽」芸術監督作曲編曲指揮者



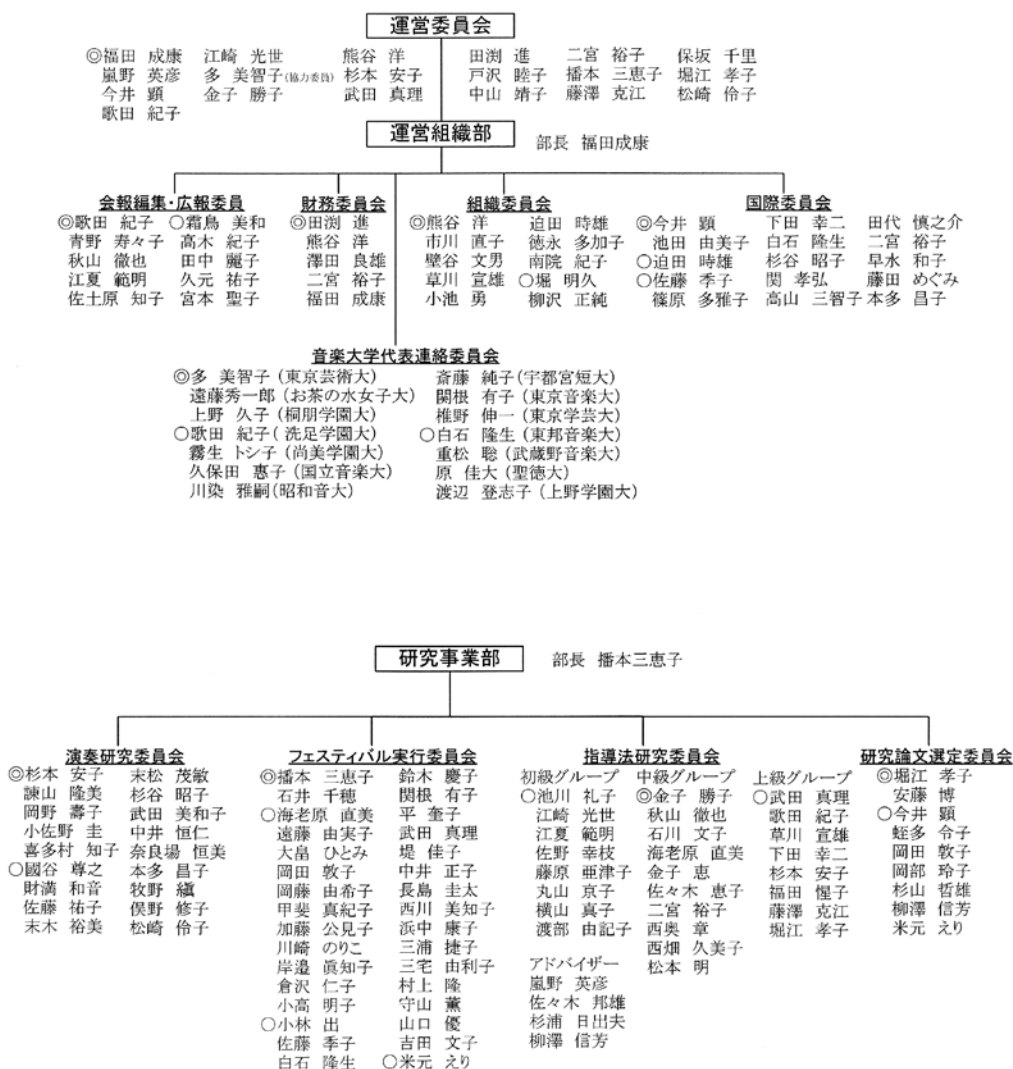
監事 武田 宏子
武田音楽教室室長、当協会香川支部長



監事 藤澤 克江
元国立音楽大学教授、元熊本音楽短期大学客員教授、当協会審査員選考委員長

社団法人 全日本ピアノ指導者協会 委員会組織表

◎印:委員長 ○印:副委員長
・印:新委員
(協力委員は原則として非掲載)



●委員会解散

■理事選考委員会

◎福田 成康、中山 靖子、二宮 裕子、田渕 進、小池 勇、泉 ひろ子、金子 恵

■選挙管理委員会

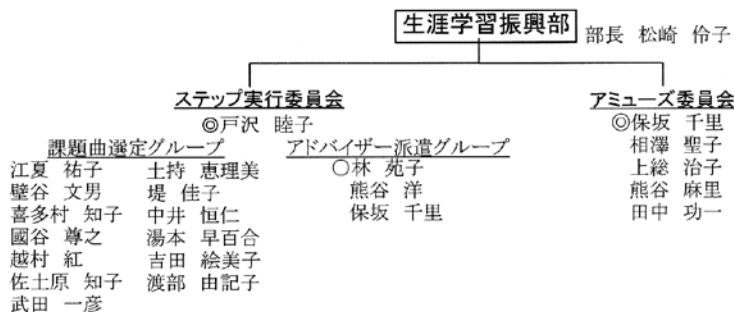
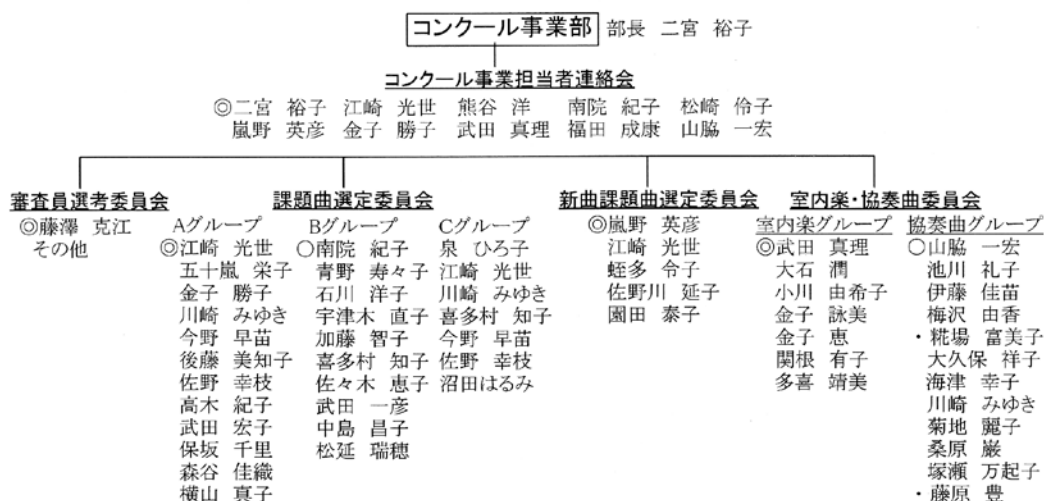
◎福田 成康、熊谷 洋、佐野 幸枝、中島 裕紀、本多 昌子

以上2委員会12名

●新委員選出

■室内楽・協奏曲委員会 糺場 富美子、藤原 豊

以上1委員会2名選出



◎ピティナ・ピアノフェスティバル vol.59 延期のお知らせ

4月号の会報でお知らせした ピティナ・ピアノフェスティバル vol.59は諸般の事情で、内容はそのまま実施時期を延期させて頂くことになりました。延期の日程は来年の5月初旬を予定しております。詳しくは会報誌上またはピティナのホームページにて順次お知らせ致します。

入念な準備のもと充実した講座をご提供したいと思っておりますのでどうぞ楽しみに。

◎マカロフ先生レッスン見学ツアー延期 のお知らせ

今年8月中旬に予定していた、ヴィクトール・マカロフ先生レッスン見学ツアー(シドニー)は、諸般の事情により催行を延期させて頂きました。延期の日程は、来年4月中旬の予定。レッスン見学のほか、個人レッスン受講、マカロフ先生門下生とのジョイント・コンサート出演なども予定しています。詳しくは会報ならびにホームページにて順次お知らせいたします。

第 27 回ピティナ・ピアノコンペティション、 8 月下旬にいよいよ全国決勝大会へ

第 27 回ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会が 5 月中旬に開始、全国の会場で熱い闘いを繰り広げている。

去る 5 月 26 日(月) N H K 教育番組「人間講座・国際コンクールの光と影～第 8 回コンクールに行ってみよう」にて、コンペが紹介された。同番組では、聴く対象としてコンクールを紹介しているが、昨年度よりピティナ特級決勝にて聴衆賞を設けたことは、この流れに呼応した形だ。特級決勝(8 月 23 日 / 第一生命ホール)では一般聴衆の投票に基づき聴衆賞を決め、入場料の半額が賞金として授与される。「若いピアニストは聴衆に育てられる」というのが、ピティナが打ち出す 21 世紀のコンクール像である。

また今年は 15 歳以下を対象とした Jr.G 級が新設され、第一次予選を通過した 19 名が参加。いずれも過去コンペ C 級以上で入賞経験を持つ才能溢れる参加者がそろい、期待が高まる。

2003 年度全国決勝大会は 8 月 23 日(土)～25 日(日)まで、都内 5 会場にて行われる。是非足をお運び頂きたい。

福田靖子賞オーディション、レッスンオーディション初の試み

3 月に第一次書類選考が終了し、第二次審査に進む 9 名の若手ピアニストが決定した福田靖子賞選考会オーディション。ピティナ・ピアノコンペティション終了直後の 8 月 27 日から 3 日間、東京音楽大学と台東区生涯学習センターミレニウムホールで第二次審査が開催される。

第二次審査では 2 日間 3 回のレッスン(東京音大)と成果発表会(ミレニウムホール)での演奏を総合し、奨学金受賞者 1 名が選出される。受賞者には奨学金 100 万円と、海外審査員及び特別委員より、国際舞台で活躍するためのアドバイスが与えられる予定。レッスン、成果発表会ともに公開となるので、是非足をお運び頂きたい。

なお名古屋支部文化事業部より、同福田靖子賞に 30 万円の寄付金を頂いた。2003 年度の福田靖子賞奨学金の一部として遣わせて頂く予定である。



▲名古屋支部の大林裕子先生より寄付金の授与。

ステップのポピュラー課題曲 CD 発売へ

ピティナ・ピアノステップのポピュラー課題曲 122 曲の中から、厳選 57 曲を収録した CD を、9 月上旬に販売する予定。



なお本誌連載「ポピュラー活用講座」では、CD 収録曲に関するアドバイスを一部ご紹介している。

ジュゼッペ・F・モドゥーニョ & 海老澤敏 モーツァルト レクチャーコンサート&セミナー



◎ 11 月 1 日(土) 開始
時刻未定

◎ 東音ホール (JR 山手線 巣鴨駅南口下車徒歩 1 分)

◎ 聴講料: ¥3000 (一般)

◎ 日本モーツァルト音楽コ

ンクール過去の参加者及び指導者は割引 有り
◎ピティナ東京本部 (03-3944-1583)

訂正とお詫び

十代の演奏家シリーズ Vol.14 田村響ピアノ・リサイタル
プログラム訂正

当日配布いたしましたプログラムに訂正がございました。下記のとおり訂正いたしますとともに、ここに深くお詫び申し上げます。

P.6 ヤナーチェク ソナタ

誤: 1905 年 10 月 5 日 → 正: 10 月 1 日

P.7 曲目解説: リスト「B-A-C-H」の主題による幻想曲とフーガ」L.3

誤: 前奏曲 → 正: 幻想曲

佐土原知子先生による ポピュラー指導基礎講座



◎講師：佐土原 知子
◎第1回 11月27日（木）
10:30-12:30
◎丹内 真弓・戸田 愛（演奏）
「生き生き楽しく! “ラテン系”
の曲を中心に」リズムの感じ
方・身体の使い方 / アンサンブル
でステップアップ! / ノリをつ
かむためのちょっとしたコツ

◎第2回 2004年1月22日（木）10:30-12:30
◎丹内 真弓（演奏）

「かっこいい“ジャズ&ポップス系”の曲を中心に」楽
譜から読み取るべきこと / ノリを良くするためのヒント / ポピュラーならではのハーモニー&コード進行

◎第3回 2004年2月26日（木）10:30-12:30

◎丹内 真弓・伊賀 あゆみ（演奏）
「おしゃれな“バラード系”の曲を中心に」上質
のアレンジの選び方、味わい方 / クラシックのテ
クニックを活かしたポピュラー演奏法

◎ピティナ本部事務局内<東音>ホール

◎1回券 会員¥2,500 一般¥3,000
(3回セット券 会員¥6,000 一般¥8,000)

◎PTNA 東京本部 03-3944-1583

アドバイザー研修 Vol. 1 ステップ課題曲セミナー 《ポピュラー編》

◎講師：佐土原 知子・丹内 真弓
◎9月9日（火）10:30～13:00
※途中休憩あり
◎ピティナ本部事務局内<東音>ホール
(JR 巣鴨駅徒歩1分)
◎①ポピュラーの基礎知識&約束事②ポピュラー課題曲
(122曲)の概要と紹介(ロック&ポップス系、ジャズ系、
ラテン系 その他)③評価&アドバイスのポイント④
ステップ課題曲C D<ポピュラー編>の紹介
◎PTNA 東京本部 03-3944-1583

アドバイザー研修 Vol. 2 ステップ課題曲セミナー 《アンサンブル編》

◎講師：江崎 光世
◎9月24日（水）10:30～13:00
◎ピティナ本部事務局内<東音>ホール
◎喜多村 知子・川崎みゆき・本間 美知子（演奏）
◎①アンサンブルの基礎知識&約束事②アンサンブル
課題曲(80曲)の概要と紹介(4手 / 6手連弾)
③評価&アドバイスのポイント
◎PTNA 東京本部 03-3944-1583

ピティナ支部ニュース

▼
2003.5 ~ 2003.7



支部昇格・連絡所新設のお知らせ

浜松・中東遠掛川・三河の3連絡所が支部に昇格し、東海道沿線のピティナ組織がますます活性化することが期待される。また中東遠掛川連絡所は、掛川支部と改称した。

ピティナ支部運営に関する勉強会を開催

組織委員の協力委員に就任した、ピティナ名古屋支部実行委員長(日響楽器池下店)の道法義一氏が、7月7日(月)、委員会に初参加。これに併せ、関東近辺で楽器店が事務局を務める支部・連絡所向けに、支部運営に関する勉強会を開催し、約50名が出席。名古屋支部の大林裕子先生・今里幸夫氏が同席し、会員と楽器店が連携する組織の運営ノウハウについて解説した。

青梅支部でチャペルコンサート

5月24日(土)夜、昭島のホテル「フォレストイン昭和館」で、青梅支部主催の「ピティナチャペルコンサート」が開催された。このコンサートは大人のアマチュアの方々が出演するもので、14名がピアノ、1名が歌(テノール)、計15人が

演奏した。ロマンティックな雰囲気チャペルで、後ろのガラスを通して緑濃い木々が明かりに照らされて浮かび、よく響くピアノにも助けられて思い出深いステージになった。

テノールの川上さんは86歳。「夏の思い出」「アニー・ローリー」、「城ヶ島の雨」の3曲を情感たっぷりに聴かせてくださった。ピアノも83歳の井戸さんがギロックの「ガラスの靴」「漂う雲」の2曲を綺麗な響きで演奏し、それに続く比較的若い皆様もショパン、ベートーヴェン、バッハなどの名曲を次々に披露した。客席の暖かい雰囲気に包まれて、無事に終わりまで演奏できた。

コンサート終演後のパーティーでは、本部を代表しておいで下さった上総治子先生と、お世話になっている国立楽器の中谷社長がご挨拶下さった。出演者のご家族やお友達もご出席になり、楽しいひと時を過ごすことができた。

第15回全国生涯学習フェスティバル まなびピアノ沖縄2003のご案内

生涯学習の祭典である「まなびピアノ」。第15回目を迎える今年度は、本州を離れて南の楽園沖縄で11月27日～12月1日に渡って開催される。当協会沖縄支部が企画するコンサートは、11月30日(日)に佐敷町シュガーホールにて開催予定。2002年度ピティナ・ピアノコンペティション入賞者の演奏に加え、琉球舞踊、沖縄の歌など独自の企画も。詳しくは以下の通り。

■日時:2003年11月30日(日)

■会場:佐敷町文化センターシュガーホール

2002年度ピティナピアノコンペティション入賞者による演奏 / 公募によるファミリーコンサート:ピアノを含んだ他楽器とのアンサンブル / 沖



縄の歌 / 公募によるピアノ協奏曲 ほか
■入場料(第1部～第3部通し券のみ)
 前売:2,000円(8/1発売)当日:2,500円
 チケットお申込・問合せ PTNA 沖縄支部
 Tel:098-884-5498(糸数ひとみ)
 Fax:098-884-5450

今年度の全国支部連絡会は沖縄で開催

「まなびピアノ沖縄」が開催される11月30日に併せて、全国の支部・連絡所の担当者が一堂に会する全国支部連絡会を沖縄にて開催する。

ステップ・ステーション続々誕生! 6ステーションが新設へ

5月28日のステップ実行委員会にて、下記の新規ステーションの開設が決定した。(現在58ステーション)ここに抱負をご紹介します。

●和の輪ステーション (東京都豊島区 / 代表:越村紅先生)

音楽は素晴らしい心の波動をもっています。その基盤となっているのがハーモニー、“和”です。この“和”は音楽のみならず、人との和、物との和、自然との和、宇宙との和、にもつながってゆきます。私達の活動はほんの小さな一歩にしか過ぎませんが、各人の一歩が少しずつ“輪”の様に広がり、人から人へと次々に喜びを伝えてゆける様にと“和の輪ステーション”を設立、11/23に1回目を開催致します。

●赤いくつステーション (神奈川県横浜市 / 代表:佐野幸枝先生)

家族や仲間とのアンサンブル参加を応援したいと気持ちから、10/23に「ファミリーアンサンブル」をテーマにしたステップを企画しました。いろいろな世代のピアノ愛好者や他楽器と融合することによって、ピアノの楽しみ方をさらに普及していければと思っています。

●吉川ステーション (埼玉県吉川市 / 代表:樋口秀実先生)

私たちは、ステップをより身近なものにするためにステーションを設立しました。ステップを通して交流が広がり、皆さんが目標を持ってピアノを楽しみ、上達することを願っています。会場は新しいホールで、広さが魅力です。

●ピアノニッシモステーション (大阪府大阪市 / 代表:後藤孝子先生)

私自身、ピアノデュオのすばらしさに魅せられ、様々なステージでデュオを楽しんでいます。このピアノデュオをはじめとするアンサンブルの魅力を1人でも多くの方々に実感していただきたいと、アンサンブルを中心としたステップのステージを大阪にて展開してまいります。生徒さんとも先生方も保護者の方々も、皆様の参加をお待ちしております。

●千鳥ステーション

(福岡県古賀市 / 代表:堀佐知子先生)

お稽古事が多様化する中、音楽を愛好される、様々な世代の方々にとって、自由に音楽を表現できる場、また色んなジャンルの演奏を見聞きできる、多くの可能性が詰まったステージになると思います。アドバイザーレッスン、トークコンサートなど実りあるステージ作りをしていきたいと思っています。

●佐賀葉隠ステーション (佐賀県佐賀市 / 代表:森真由美先生)

私たちのステーションでは、ピアノの楽しみをステップのステージから広げていければと思っています。今後いろいろな世代・楽器・ジャンルをこえ、幅広い音楽を創り出していきたいと思います。

※支部・連絡所主催の講座情報などありましたら、編集部までお寄せ下さいませ。

ステップ課題曲講座 ＜ポピュラー編＞



◎講師:丹内 真弓
 ◎9月4日(木)
 ◎掛川市駅南美感ホール
 (1)ポピュラー課題曲(122曲)の概要と紹介 トップ・オブ・ザ・ワールド、A列車で行こう、酒とバラの日々、素顔のままで他(2)おさえておきたい指導と演奏のポイント
 ◎ピティナ会員¥2,000 一般¥2,500

◎PTNA 掛川支部 0537-23-0245

江崎光世先生による ピアノ指導基礎講座



◎講師:江崎光世
 ◎第1回10月13日(月・祝)
 10:00-12:00
 「たかが連弾 されど連弾」ピアノで楽しいコミュニケーション / 連弾が育てる「耳の力」と「音楽の心」 / 連弾のレッスンの取り入れ方
 ◎第2回11月16日(日)

10:00-12:00

「表現力を育てる近道はピアノアンサンブルで」ピアノアンサンブルの種類と活用法 / 4手・6手連弾、ディスクCD、クラビ、エレクトーン等のアンサンブル体験から得られる効果

◎第3回12月14日(日) 10:00-12:00
 ピアノアンサンブルが育てるソロへの効用 / 表情ある演奏のための呼吸法 / 美しい響きのためのバランステクニック / 説得力ある演奏の為に曲の構成法

◎日響楽器岐阜店 2F ホール

◎1回券 会員¥2,500 一般¥3,000
 (3回セット券 会員¥6,000 一般¥8,000)

◎PTNA 岐阜支部 岐阜ピアノアンサンブルアソシエ事務局 058-232-8931

ピティナ会員ニュース

2003.5 ~ 2003.7



松本和将さん、エリーザベト王妃国際コンクールで第5位入賞

松本和将さん(23才・岡山県・'91コンペD級決勝進出)が、ベルギーで開催されたエリーザベト王妃国際コンクールにて、第5位に入賞した。第1位はドイツのセヴェリン・フォン・エッカードシュタイン。エッカードシュタインはマダム・フクダ賞も受賞し、来年6月日本での公演が予定されている。

今回は100名を超える参加者のうち、第1次・2次予選通過したのは12名。日本人では松本さんのほか、岡本麻子さん(25才・大阪府)も本選進出した。

コンクール期間中、諫山隆美氏による全曲レビューをピティナ・ホームページで公開したが、連日多くのアクセスを得て、その関心の高さが示された。

2002年度国際モーツァルトコンクールのピアノ・ヴァイオリン・声楽3部門の優勝者、マダム・フクダ賞受賞者たちが来日

昨年1月にザルツブルクで開催された、同コンクールの優勝者、菊池洋子(ピアノ)、エスター・ホッペ(ヴァイオリン)、ハイ＝スー・ソン(声楽/バス)の3名が、東京他3都市での公演の



▲現在イモラ音楽院留学中の菊池洋子さん。

為来日、各地で素晴らしい演奏を披露した。

宮澤功行先生が新設国際コンクールの審査でプラハへ、門下生2名が上位入賞

評議員の宮澤功行先生が、プラハの「ルドルフ・フィルクスニ」国際コンクールにて審査を行った。同行した門下生2名が上位入賞を果たした。

このコンクールは初開催ながら22カ国52名より申込みがあり、事前選考で40名に絞り込まれて審査が行われた。上限28歳、下限なしという条件のもと20代の参加者も多く集まったが、ピティナっ子の八田智大さん(16歳)が3位、佐竹茉莉子さん(12歳)が5位入賞という見事な結果となった。八田さんは賞金とスメタナ賞(スメタナの原典版一式)、佐竹さんは最年少挑戦者賞とプラハ市長賞を受賞、高価な絵画などが贈られた。なお、ピティナホームページで宮澤先生の審査レポートを公開中。

杉谷昭子先生の門下生13名が、フランスのコンクールで入賞

正会員の杉谷昭子先生の門下生が、パリで行われたイル・ド・フランスピアノコンクールにて優秀な成績を修めた。ピティナっ子の小谷明香さん(5歳・初級I・満場一致で優秀賞)、小田島常芳さん(15歳・上級・満場一致で第1位)、前田紗希さん(18歳・最上級・第3位)、赤松林太郎さん(24歳・コンサートディプロマ級・第1位)ほか、13名が上位入賞を果たした。

元ピティナっ子がNYカーネギーホールでソロリサイタル

ピティナっ子の佐々木宏子さん(1982年C級

金賞)が、ニューヨークのカーネギーワイルホールに招待され、ソロリサイタルに出演した。佐々木さんは13才より英メニューインスクールに留学、その後アメリカ、カナダの音楽院にて学び、現在はニューヨーク州立ストーニーブルック大学大学院音楽学部博士課程で全額奨学生として学びながら、演奏活動に励んでいる。



▲カーネギーホールで演奏する佐々木宏子さん。

イタリアのコンクールで飯田さん第4位

2003年5月21～24日にイタリアで開かれた「第8回ラッコニジ市国際音楽コンクール」ピアノ部門において、飯田文美さん(31/下田幸二先生に師事)が第4位に入賞した。飯田さんは桐朋学園大学卒業、ワルシャワショパン音楽院大学院研究科修了。

金子詠美先生演奏の楽曲を収録したCDが発売中

ピティナ室内楽研修会Cチームの講師を務められた金子詠美先生が演奏した楽曲を収録したCD「MUSIC FOR ATOM AGE」が発売中(ソニー・ミュージック)。このCDは鉄腕アトムの誕生日(2003年4月7日)を記念して制作されたもの。金子詠美先生が演奏するのは「四声の序奏」と「緩やかな即興」の2曲。この2曲はCDの制作を手掛けた作曲家樋口康雄氏が金子詠美先生のために書下ろした楽曲。

このアルバムには、クラシックから、ジャズ、ポップスまで、様々なジャンルの音楽が、アトムに捧げるオマージュとして収められている。



三重大学教員の公募について

■職名及び人数:助教授または講師 1名

■年齢:30歳～35歳くらいまで(採用時)

■専攻分野:作曲

■担当授業科目:学部/作曲法、マルチメディア・アート、作曲ゼミナール(開設予定科目)、小学校専門音楽、情報科学基礎など(共通科目)
大学院/作曲法特論、作曲法特論演習、音楽科教育特別研究の一部

■応募資格

(1)大学院修士課程修了以上の者、またはこれと同等以上の業績を有する者

(2)大学院修士課程の授業担当が可能な者、または近い将来において担当可能となる者

(3)声楽(合唱)を指導できるものが望ましい

■提出書類

(1)履歴書(写真貼付)、所属学会及び社会的活動などを記入すること)

(2)研究業績目録

(3)これまでの研究の概要および今後の研究・教育への抱負(1200字以内)

(4)最終学歴証明書

(5)健康診断書

■応募期限:2003年10月14日(火)必着

■採用予定年月日:2004年4月1日

■書類提出先

〒514-8507 三重県津市上浜町1515

三重大学教育学部長 丹保健一様宛

■本件照会先

三重大学教育学部音楽教育講座代表 高瀬様

Tel:059-231-9270

◎第5回若い音楽家のためのチャイコフスキーコンクールが開催延期

今年9月岡山県倉敷市にて開催予定だった「第5回若い音楽家のためのチャイコフスキーコンクール」が、重症急性呼吸器症候群(SARS)の影響を懸念し、延期することが先日正式発表されました。延期日は現在未定ですが、決定次第ピティナ・ホームページ等でご案内します。

日本が発信地となる日

～オーストラリアピアノ教育カンファレンスに出席して～

———今井顕先生（評議員・国際委員長）

スコダ先生の代理で、教育学会へ

2003年7月1～5日までメルボルン（豪州）で開催された《第6回オーストラリアン・ピアノ教育学会 6th Australasian Piano Pedagogy Conference》に招聘された。オーストラリアの都市を巡回しながら2年ごとに開催されるピアノ教育者を対象とした学会だが、その名の示すように豪州およびアジア各国（香港、インドネシア、マレーシア、タイ、シンガポールおよび日本）、そしてニュージーランド、南アフリカおよびカナダから総勢211名が参加した大規模な学会である。

当初はウィーンのピアニストで来日経験も多いパウル・バドゥーラ＝スコダ氏が招聘されていたのだが諸事情からキャンセルとなり、小職がその代役として訪豪することになった。代理参加が確定したのは学会開始のわずか1週間前、代行すべきものは「公開レッスン」「リサイタル」「基調講演」の三項目で、今回の目玉だった氏の代役は、決して楽な仕事ではなかった。

メルボルンにあるヴィクトリアン芸術大学の音楽校舎を会場として使用し、会期中は連日公開レッスン、セミナー、ワークショップ、リサイタルやランチタイムコンサートそしてProf.Graham Fitch（南アフリカ）、Dr.Thomas Hecht（ニュージーランド/シンガポール・2003年度PTNAコンペティションの海外審査員）、Ian Munro（豪）、Dr.John Sharpley（豪）に小職を加えた5名のメインゲストによる基調講演などさまざまなイベントが行われ、どれも多数の聴衆とともに有意義な研究活動となっていた。

小職が担当した公開レッスンではメルボルン



▲リサイタル会場

在住の4名のアジア系学生によってモーツァルト、シューベルト、グラナドスおよびバッハの作品が演奏され、リサイタルはモーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン、シューベルトの作品によるプログラムで聖マイケル教会にて開催、そして最終日の基調講演は「シューベルトのピアノ作品に内包される精神的背景」というテーマで行われた。

日本の教育システムの海外発信へ向けて

日本の音楽教育者の視線は欧米に向いており、そこから何を得心かが命題となり勝ちだが、今後は日本が発信地となってアジア諸国にさまざまなノウハウを伝達していくのも日本音楽教育界の大切な使命のひとつになるに違いないと感じた。日本はすでにクラシック音楽界の発展途上国ではない。さまざまな教材や教育システムの紹介も大切な行動のひとつだが、玉石混合の状況にあるものすべてをそのまま無差別に輸出するのではなく、その価値と特色を吟味し、評価した上で紹介できるのであればより大きな信頼を得ることができる。「この教材を使って良かったこと・疑問に思ったこと」のような形での感想をこまめに集積していくことも、将来のPTNAの国際的発展にあたって欠かせない糧となるだろう。



◀講演レッスン＋基調講演会場

▶学会会場（ヴィクトリアン音楽大学）



はじめての指導者賞

指導者賞は、「ピティナ・ピアノコンペティション地区予選」(ソロ・デュオ・コンチェルト部門)、「ピティナ・ピアノステップ」及び「ピティナ・ピアノ演奏検定」において、1997年度以降の累計ポイントが規定数を越えた方を対象として表彰されます。2002年度は2003年3月末日現在で120ポイントに達した方を対象として授与しています。今年度受賞者は会報237号誌上で発表いたしました。初受賞者5名のうち4名の先生よりコメントを頂きましたので、ここにご紹介します。

誰の真似でもない。誰かとの競争でもない。私は私。私の言葉で、私の調子で・・・気張らず、焦らず、おごらず・・・これが私の探し求めていた「遥かな遠き峰」。意外にも、自分の足元にあったなんて。語る程の高い目標なんて持ち合わせてはいませんが、低い目線で子供達を見つめていると運命的な出会いの子供達に上も下もありはしない、とテレパシーが届くのです。ひとり、ひとり、違った個性、唯一の大切な個性、これこそがその子のすべてで、ありのままの自然体。この魅力的な子供達の「命の輝き」をすっぱり受け止める事。そこから、私の第一歩が始まります。0歳児も、多感な中・高生も、相変わらずの日常のように。きっと、これからも。



韮 みゆき先生

正会員。ピティナ宇都連絡所代表を務める。

今回、コンチェルト部門に生徒が参加致しましたが、力のある生徒がいて、コンチェルト経験が出来るのであればと思って参加を勧めました。「指導者賞」をいただくことには、少々気恥ずかしい気がいたします。ある目的を持って、一つの曲を仕上げていく段階で、自分と向かい合うことが出来ると思います。自分自身を精一杯表現する場を持つのは、ステップやコンペティションに限りませんが、その中で生徒が大きく成長していくことは、言うまでもありません。普段は、テンポ良くレッスンすること、そして生徒自身が自分の音を良く「聴く」ようにすること、この二つを心がけています。そして基本へ帰ることも大切にしたいと思います。当たり前と思っていた事の中に常に新しい発見があり、私自身がそこに気付くことで生徒へのアドバイスがより具体的になっていくことを感じます。今後とも、生徒にとって分かりやすいレッスンをするために、日々勉強を続けていきたいと思っています。



鳥越 由美先生

作陽音楽大学(現 くらしき作陽大学)卒業。ピアノを村原征子、黒木俊行、佐藤宏志、小阪文彦子、山崎 孝、藤村佑子の各氏に師事。現在、くらしき作陽大学非常勤講師、ピアノランド勉強会講師、PTNA正会員。

2002年度指導者賞を頂き有難うございます。受賞との報告を受けました時、私は全く思いもよらぬ事で驚いてしまいました。しかしながら考えてみたら生徒たちがそれぞれに努力をして、評価して頂ける演奏ができたと言う事ですので、そうした意味でとても喜んでおります。さまざまな曲を勉強していくなかで、ある程度仕上がってきたら、それを発表する場がどうしても必要になってきます。勿論それも生徒達にとっては、とても大事な勉強で、いろいろ失敗をしながら少しずつレパートリーができてくるものと思っています。ですからこれからもお世話になる事と思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



西川 秀人先生

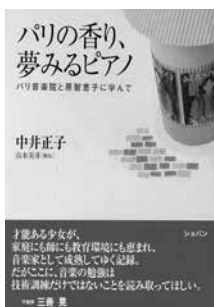
5才よりピアノを始め長岡敏夫氏、山田みつ女氏、宮田清氏、伊藤純氏に師事。76年東京芸術大学卒業。同大学院修士課程修了。77年イタリアに留学。国立ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴィンツェンツォ・ヴィターレ氏、レンツォ・シルヴェストリ氏に師事。同音楽院卒業。第7回セニガリア国際ピアノコンクールで第1位。その後イタリア各地でリサイタル開催。帰国後も各地で演奏活動を行う。現在、東京芸術大学、愛知県立芸術大学各講師。

私はいつも、主役は生徒だと思っています。一人ひとりの大切な人生に、ほんの1コマピアノを通してサポートしているのが、私、指導者。つまり助演者と考えています。コンペに参加できる生徒、入賞した生徒だけではなく、その一人一人の必要性に合わせた、将来を考えてのレッスンをしたいと思っています。ステップはそんな中、各生徒の力に合わせた参加ができ、いつも習っている先生を取り囲む友達だけでなく、他の先生の生徒さんの演奏を聴き合い、そして何より各地から来られた先生にアドバイスが頂ける機会であり、私にとっては視野や考え方の広がる、本当に貴重な場ともなっております。常に生徒全員の力を伸ばしたいと思っている私が、このような賞を頂きましたのは、ステップを考えて下さり、実際に進めておられるステップ実行委員会の先生方のお力があってこそです。そして、私を信じて来て下さる生徒、ご家族に感謝いたします。



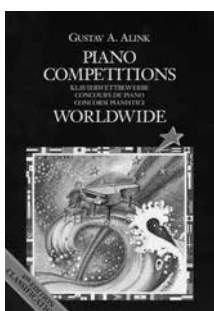
川岡 優子先生

エリザベト音楽大学ピアノ科卒業後、広島音楽高校アカデミー、ヤマハ音楽教室システム講師を経て、現在ピティナ・ピアノステップ広島南ステーション主宰、ステップアドバイザー、正会員。



【書籍】
「パリの香り、夢みるピアノ——パリ音楽院と原恵子に学んで」

◎中井正子著／山本美芽構成
◎¥1300
◎17歳でパリ音楽院に留学した著者が、才能あふれる同級生たちとの切磋琢磨の中で、ピアニストとして成長していった記録。ピアノは、どのような道筋を経て、どのような道筋を経てプロとなっていくのか。その厳しさが、たくさんのエピソードとともに、詳細に描かれる。ときに小説のように、ときに比較文化論のように、日頃クラシック音楽に触れる機会の少ない人も興味深く読める内容になっている。



【書籍】
Piano Competitions Worldwide 4th edition 2003

◎Gustav A. Alink 著
◎19.50 ユーロ
◎400もの国際コンクールを紹介。コンクールの歴史や傾向等も分かり、受験者必携。http://www.alink-argerich.org より購入可能(送料別途)。



【書籍】
ベートーヴェン
ピアノソナタの構築と分析

◎ルードルフ・レティ
◎音楽之友社 ◎¥2800
◎「悲愴」「熱情」の徹底的な分析と解明により、ベートーヴェンの音楽構築の真相に迫る古典的名著ピアニストおよび器楽演奏者、音楽美学、音楽学、作曲技法を学ぶ方の必読の書



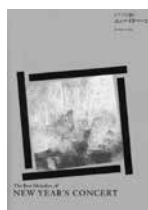
【楽譜】
The Best Melodies from the Symphonies of L.V. Beethoven
ピアノで弾くベートーヴェン
交響曲名旋律集

◎編曲：丸岡加奈子／上川高弘／大田川恭子◎オクト出版社
◎¥2000



【楽譜】
佐藤 真 こどもピアノ曲集
翔くんのピアノファンタジー

◎佐藤 真
◎カワイ出版
◎¥1400



【楽譜】
The Best Melodies from of
NEW YEAR'S CONCERT
ピアノで弾くニューイヤー・コンサート

◎編曲：丸岡加奈子／上川高弘／大田川恭子
◎オクト出版社
◎¥2000



【書籍】
ベートーヴェン
ピアノソナタ演奏法と解釈

◎パウル・バドゥーラ＝スコダ
◎音楽之友社
◎¥2800



【楽譜】
佐藤敏直 ピアノ淡彩画帖

◎佐藤敏直
◎カワイ出版
◎¥2000



【楽譜】
佐藤敏直 ピアノのための
イメージ曲集
スケッチブック

◎佐藤敏直
◎カワイ出版
◎¥1800

【楽譜】
やっぱりピアノがすき！
＜ブルグミュラー併用曲集＞

◎橋本晃一
◎(株)ドレミ楽譜出版社
◎¥1000円＋税

【楽譜】
6手連弾曲集 第1集

◎長谷川美世子
◎(株)共同音楽出版社
◎¥1500



【CD】 Musica

◎宮澤むじか
◎ダヴィッド同盟舞曲集(シューマン)・前奏曲集第2集(ドビュッシー)
◎株式会社ハーモニー ◎¥2500

ご献呈ありがとうございました。

北から 南から

会報 237 号特集 1 を読んで

●最近、音楽室の模様替えをしてみて、実際想像力、集中力が高められました。(稲葉陽子・東京都)

●「集中力・想像力を高めるレッスン室」はとても参考になりました。そうじをするだけで精一杯なので本棚、絵など再点検してみます。パソコンも持つてはいませんがなかなか活用できず悩んでおります。(大導寺 鎌太郎・埼玉県)

意見・要望など

●パソコン初心者ですが、イベントや指導法をたくさん知ることができるので、これからのレッスンにも役立てていきたいと思ひます。(195573)

●経営者から見たピアノ行為国対して、日本の風土に関する特長を中心に、世の中の体制を考えながら、判断して教えていくと良い、との考え方が参考になりました。(山崎充子・東京都)

●興味深く隅々読ませていただきました。私の求めていたものがPTNAにある!と確信しました。一生、勉強できる環境が整っている、と思いました。まだ入会したばかりですが、どうぞよろしくお願い致します。(丹内真弓・東京都)

●音楽史や楽典などを分かりやすく図表にしたものが欲しいです。教室の壁にはれるようなポスターなど考案してほしいです。(松下澄子・静岡県)

●ステップの自由曲を、他の先生はどうやって選曲しているのでしょうか。(山口礼子・愛知県)

●たとえば、「バルトーク特集」のように、近・現代の作曲家の特集、日本人の作曲家の特集、発表会特集などを企画してほしいです。(細井佳子・埼玉県)

特集 1 アンケートにご協力頂いた先生方

青木 香澄 (宮崎県日向市)	大林 裕子 (愛知県名古屋市)	添田 みつえ (福島県双葉郡)	平間 百合子 (宮城県仙台市)
秋葉 暁子 (愛媛県松山市)	置名 智恵 (広島県廿日市市)	高嶋 麻企 (神奈川県横浜市)	平松 優子 (京都府京都市)
秋谷 和子 (兵庫県宝塚市)	奥村 真 (愛知県尾張旭市)	高畑 真弓 (富山県氷見市)	福井 亜貴子 (奈良県奈良市)
生明 葉子 (千葉県我孫子市)	小倉 郁子 (栃木県宇都宮市)	宝木 多加志 (福岡県北九州市)	福岡 郁代 (鹿児島県名瀬市)
厚地 とみ子 (熊本県熊本市)	笠井 礼子 (島根県大田市)	滝澤 清子 (千葉県成田市)	福留 真循 (滋賀県近江八幡市)
伊井 光子 (愛知県愛知郡)	勝田 美也 (島根県浜田市)	武田 宏子 (香川県高松市)	布施 啓枝 (島根県浜田市)
池川 礼子 (鹿児島県鹿児島市)	川岡 優子 (広島県呉市)	竹本 喜代美 (愛媛県松山市)	俣野 昌子 (福岡県北九州市)
池田 寿美子 (兵庫県西宮市)	川口 由紀子 (長崎県佐世保市)	田代 基子 (大阪府大阪市)	松永 恵 (三重県松阪市)
池田 奈甫子 (茨城県土浦市)	川崎 圭子 (宮崎県都城市)	辰巳 千里 (奈良県磯城郡)	真宮 恵美 (神奈川県横浜市)
池田 麻理 (兵庫県神戸市)	川瀬 美香 (鹿児島県川内市)	田中 京子 (福岡県久留米市)	三藤 三枝 (岡山県笠岡市)
池田 玲子 (兵庫県神戸市)	川名 悟 (栃木県宇都宮市)	田中 みゆき (青森県弘前市)	宮内 さよ子 (愛媛県松山市)
石井 愛二 (神奈川県大和市)	川名 雅美 (栃木県宇都宮市)	土持 恵理美 (千葉県千葉市)	宮崎 世利子 (香川県高松市)
石井 之枝 (茨城県稲敷郡)	菊地 昭子 (栃木県大田原市)	都筑 慶子 (東京都国分寺市)	宮村 京子 (宮崎県宮崎市)
石黒 加須美 (愛知県一宮市)	北島 依子 (大阪府茨木市中)	堤 好美 (滋賀県草津市)	三好 のび子 (静岡県藤枝市)
石崎 久子 (富山県高岡市)	吉津 恭子 (福島県相馬郡)	椿 久美子 (滋賀県大津市)	望月 玲子 (長野県松本市)
伊藤 順子 (愛知県犬山市)	木野 みゆき (福岡県大野城市)	徳山 靖子 (香川県坂出市)	森本 みどり (高知県高知市)
伊藤 みち (愛知県名古屋市)	楠 恵理子 (北海道釧路市)	登坂 睦子 (茨城県水海道市)	八木 まゆみ (鹿児島県始良郡)
井上 聡美 (兵庫県宝塚市)	古賀 未加緒 (福岡県北九州市)	富沢 和子 (群馬県勢多郡)	安本 久仁子 (岡山県総社市)
井上 朗子 (大阪府岸和田市)	斉藤 桂子 (新潟県新潟市)	柄 みゆき (山口県宇部市)	山内 るり (高知県高知市)
井深 阿佐子 (岐阜県各務原市)	酒井 郁江 (福井県鯖江市)	豊村 亜紀 (福岡県福岡市)	山本 節子 (大阪府豊中市)
岩佐 生恵 (愛媛県今治市)	坂田 恵子 (静岡県磐田市)	長井 薫 (高知県南国市)	山脇 直子 (島根県浜田市)
岩嶋 純子 (宮崎県宮崎郡)	佐々木 恵子 (千葉県船橋市)	長沢 あけみ (東京都八王子市)	湯本 早百合 (埼玉県さいたま市)
上野 敬子 (奈良県奈良市)	佐野 幸枝 (神奈川県横浜市)	永田 雅代 (静岡県小笠郡)	由良 佳久 (千葉県千葉市)
梅本 光子 (静岡県伊東市)	鮫島 美保子 (鹿児島県鹿児島市)	中田 元子 (大阪府大阪市)	横田 倫子 (東京都府中市)
漆原 好美 (宮崎県宮崎市)	紫雲 孝子 (北海道標津郡)	中村 真代子 (静岡県湖西市)	横山 朋子 (栃木県宇都宮市)
遠藤 誠津子 (愛知県名古屋市)	榛葉 和子 (長野県諏訪市)	西尾 学 (愛知県刈谷市)	善見 伊岐 (兵庫県伊丹市)
大内 靖子 (福島県須賀川市)	杉谷 昭子 (東京都葛飾区)	西野 真琴 (鳥取県西伯郡)	吉村 章子 (福岡県北九州市)
大田 真理子 (山口県岩国市)	鈴川 ゆかり (愛知県半田市)	野嶋 礼子 (静岡県浜松市)	米元 えり (茨城県つくば市)
大塚 京子 (大阪府豊能郡)	鈴木 真理子 (栃木県下都賀郡)	蓮実 マス子 (栃木県那須郡)	渡部 由記子 (千葉県市川市)
大塚 由美子 (徳島県鳴門市)	住田 智子 (島根県江津市)	長谷川 美智子 (福岡県宗像市)	
大津山 姿子 (熊本県熊本市)	角野 美智子 (千葉県八千代市)	羽原 久美子 (広島県福山市)	ご協力ありがとうございました。
大塚 多恵子 (静岡県周智郡)	関原 由美子 (茨城県鹿嶋市)	濱綴 宏子 (大阪府豊中市)	
大橋 幸恵 (千葉県佐倉市)	前後 皓子 (福島県耶麻郡)	東出 恵子 (千葉県成田市)	※敬称略・五十音順



見習う

スポーツには科学的なトレーニングが必要、という認識が広まってきたのではないだろうか。西武ライオンズの松坂投手が豪速球を投げるのは、単に筋力が強いとか、根性で練習を重ねたからではなく、技術が卓越しているからにほかならない。筆者も子供の頃から草野球を続け、数年前まで投手をしていたので、松坂投手のような優れたピッチングに秘められた技術を探求したいと願ってきた。彼は、他の投手より重心が低く、初動から球のリリースまでの距離が長いので、同じ加速度でも速い球を投げることができるのだそうだ。

ピティナ組織委員長の熊谷洋先生が、30代にはプロ野球選手並みの時速138Kmの球を投げていたことを知り、キャッチボールをお願いすることになった。還暦を過ぎ、30年ぶりにグローブをはめたというのに、流れるような自然なフォームからキレのある速い球が繰り出される。筆者はさっそく弟子入りした。

初回の練習では、肘の関節の使い方、足の置き方など、基礎的なことを教えていただいた。2週間後、2回目の練習では、まずウォーミングアップをしている熊谷先生に釘付けである。身体のどこにも余分な力が掛からず、すべての筋肉が、球を投げるために、むだなく使われている。1球1球に見とれながら、無心で真似をしていると、球が軽く感じられ、今まで投げたことのない速い球が自分の手から放たれるようになった。2人の間隔を2倍離しても、やはり伸びのある鋭い球が相手へ届く。

さらに2週間後には、体調を万全に整え、これまでに自分の技術がどのように改善されたのか頭の中で反芻を重ね、ビデオカメラまで持ち込んだ。その日の練習内容は、キャッチボールではなく、壁に記した標的へのスローイング。前回よりさらに速い球が投げられるはずと意気込んでいたのに、一向にスピードが上がらない。焦れば焦るほど、前回はうまく投げられたのにと、頭の中でイメージばかりが先走る。力が入った途端に、肩には痛みが走るし、球速が落ちてしまう。

あれこれ考えるより、師匠の技術に間近で感動をもって接し、見習った方が近道の場合もある、ということであろう。ピアノ指導の現場でも、これから教える曲を生徒の目の前で演奏し、生徒に感動を味わっていただくことで、レッスンの違った一面が引き出せるかも知れない。

素 感 直 論

●会員の特典

- 正会員 音楽教育に特に功績があり、当協会に賛同し活動して頂く方。協会運営にも参加
- 指導者会員 ピアノ指導をされている方であればどなたでも
- 学生会員 ピアノを学習されている中・高・大学生の方。特に将来音大進学を目指す方、ピアノ指導について学びたい音大生
- 支持会員 ピアノを学習している小学生以下の保護者の方。音楽及びピアノ愛好者の方
- アマミューズ会員 16歳以上のピアノが好きな方

●入会金・会費

- 正会員 入会金 10,000円／年会費 12,000円
- 指導者会員・学生会員・支持会員 入会金 3,000円／年会費 6,000円
- アマミューズ会員 入会金 1,000円／年会費 3,600円

●お申込・お問い合わせ

下記あてにお電話・FAX・電子メールなどで入会申込書をご請求下さい。

社団法人 全日本ピアノ指導者協会
本部事務局 会員担当 宛
〒170-8458 東京都豊島区巣鴨 1-15-1
Tel. 03-3944-1583 Fax. 03-3944-8838
e-mail: member @ piano.or.jp

●新入会会員ご芳名

<正会員> 22名(1,302名)※正会員に昇格された会員も含む。

宮澤 陽子(北海道札幌市)／皆川 恵美(宮城県仙台市)／三谷 保乃(兵庫県宝塚市)／三次 裕子(神奈川県横浜市)／小西 真理(神奈川県横浜市)／中川 素直(福島県いわき市)／飯塚 まりえ(東京都渋谷区)／田代 ユリ(東京都世田谷区)／末高 明美(東京都中野区)／上岡 由美子(福岡県宗像郡)／糺場 富美子(東京都練馬区)／藤原 豊(神奈川県川崎市)／水野 裕(愛知県名古屋市中区)／佐藤 展子(埼玉県越谷市)／篠田 香(岐阜県羽島市)／江橋 佐知(埼玉県朝霞市)／荒川 和端子(香川県高松市)／高木 杏子(香川県善通寺市)／児島 祥子(香川県綾歌郡)／徳山 靖子(香川県坂出市)／後藤 和江(福岡県福岡市)

<一般会員> 356人(7,148名)

●総会員数 8450名(7/15現在)

●会員をご紹介下さい

<正会員>優秀な人材をぜひ正会員にご推薦下さい。

- 1)「正会員推薦書」を左記会員あてにご請求
 - 2)推薦者2名(当協会正会員を2年以上勤められた方)から推薦著名
 - 3)当協会本部へ郵送⇒理事会・運営委員会にて審査
- <一般会員>どなたでもご入会可能です。随時受付中。

社団法人全日本ピアノ指導者協会

賛助会員御芳名

ヤマハ株式会社 株式会社河合楽器製作所
東日本旅客鉄道株式会社 ローランド株式会社

株式会社全音楽譜出版社
株式会社パイロット

学校法人東京音楽大学
三井ホーム株式会社

株式会社音楽之友社

株式会社丸一ピアノハーブ社

株式会社松尾楽器商会

株式会社日本ベーゼンドルファー

スタインウェイ・ジャパン株式会社

株式会社ジェイティービー

株式会社松澤書店

学校法人国立音楽大学

株式会社 J E U G I A

株式会社レッスンの友

学校法人洗足学園

学校法人東邦音楽大学

ALLEGRO Co.,Ltd.

株式会社アコースティックエンジニアリング

株式会社カナオカ工芸

ピティナ・ピアノコンペティション 全国決勝大会

<後援>

文部科学省 東京都

<褒賞協力団体>

読賣新聞社
トヨタ自動車株式会社
ヒノキ新薬株式会社
学校法人洗足学園
社団法人日本絹業協会
株式会社ミキモト
株式会社資生堂

三井ホーム株式会社
(助) 日本フィルハーモニー交響楽団
全日本空輸株式会社
株式会社ジェイティービー
株式会社王子ホール
株式会社ロイズコンフェクト

ビティナ会報／わたくしたちの音楽

「Our Music」237号

2003年7月31日発行／定価 850円

会 長：羽田 孜 発行人：福田 成康
編集委員：歌田紀子(委員長)、福田成康、青野寿々子、秋山徹也、江夏範明、佐土原知子、霜鳥美和、高木紀子、武石とも子、田中麗子、久元祐子、宮本聖子

事務局：菅野恵理子 デザイン協力：伊藤千晶
発行：社団法人全日本ピアノ指導者協会

〒170-8458 東京都豊島区巣鴨 1-15-1
TEL:03-3944-1583 FAX:03-3944-8838
e-mail: ourmusic@piano.or.jp
http://www.piano.or.jp

印刷所：ホクエツ印刷株式会社